

証券アナリストによる ディスクロージャー優良企業選定

(2022 年度)

2022 年 10 月

公益社団法人 日本証券アナリスト協会
ディスクロージャー研究会



ディスクロージャー研究会委員

座 長	許斐 潤	野村證券
座長代理	伊藤 敏憲	伊藤リサーチ・アンド・アドバイザー
	内田 陽祐	野村アセットマネジメント
	喜多 徳明	明治安田生命保険
	北山 信次	丸三証券
	津田 和徳	大和証券
	森田 正司	岡三証券
	渡辺 英克	みずほ証券

(五十音順)

ディスクロージャー研究会各専門部会長

建設・住宅・不動産	川嶋 宏樹	SMBC 日興証券
食 品	守田 誠	大和証券
化 学 ・ 繊 維	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券
トイレタリー・化粧品	佐藤 和佳子	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
医 薬 品	山口 秀丸	シティグループ 証券
鉄鋼・非鉄金属	山口 敦	SMBC 日興証券
機 械	齋藤 克史	野村證券
電気・精密機器	佐渡 拓実	大和証券
自動車・同部品・タイヤ	箱守 英治	大和証券
エ ネ ル ギ ー	新家 法昌	みずほ証券
運 輸	一柳 創	大和証券
通信・インターネット	増野 大作	野村證券
商 社	成田 康浩	野村證券
小 売 業	小場 啓司	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
銀 行	高井 晃	大和証券
保険・証券・その他金融	村木 正雄	SMBC 日興証券
ITサービス・ソフトウェア	上野 真	大和証券
広告・メディア・エンタテインメント	前田 栄二	SMBC 日興証券
新 興 市 場 銘 柄	古島 次郎	大和証券
個人投資家向け情報提供	東 英憲	野村證券

目 次

はじめに	2
ディスクロージャー優良企業	3
高水準のディスクロージャーを連続維持している企業	5
ディスクロージャーの改善が著しい企業	5
概 括	6
各 専 門 部 会 報 告	
建設・住宅・不動産	11
食 品	18
化 学 ・ 繊 維	25
トイレタリー・化粧品	32
医 薬 品	39
鉄鋼・非鉄金属	46
機 械	53
電気・精密機器	60
自動車・同部品・タイヤ	72
エ ネ ル ギ ー	79
運 輸	89
通信・インターネット	96
商 社	103
小 売 業	110
銀 行	119
保険・証券・その他金融	126
ITサービス・ソフトウェア	133
広告・メディア・エンタテインメント	140
新 興 市 場 銘 柄	147
個人投資家向け情報提供	154

は じ め に

日本証券アナリスト協会ディスクロージャー研究会は、企業情報開示の促進・向上を目的として、「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」制度を 1995 年度からスタートさせましたが、このほど 2022 年度（第 28 回）の選定結果がまとまりました。

本制度における業種ごとの優良企業選定は、当初は 7 業種を評価対象としてスタートしましたが、その後対象業種を漸次拡大し、これまでに評価対象とした業種は 18 となりました。

本年度は、建設・住宅・不動産、食品、化学・繊維、トイレタリー・化粧品、医薬品、鉄鋼・非鉄金属、機械、電気・精密機器、自動車・同部品・タイヤ、エネルギー、運輸、通信・インターネット、商社、小売業、銀行、保険・証券・その他金融、IT サービス・ソフトウェア、広告・メディア・エンタテインメントの 18 業種を評価対象業種としています。

また、2005 年度から開始した、新興市場銘柄および個人投資家向け情報提供における優良企業選定を本年度も継続しています。

当研究会は、今後もこの制度による優良企業の選定を通じて、企業情報開示の促進・向上に寄与して参りますので、関係各方面のご理解とご支援をお願いします。

ディスクロージャー優良企業

業種ごとに第1位の評価を受けた企業、新興市場銘柄および個人投資家向け情報提供において各々上位3位の評価を受けた企業に表彰盾を贈呈することとしました（注）。

〔業種別〕

建設・住宅・不動産	積水ハウス	（2回連続2回目）
食品	味の素	（2回目）
化学・繊維	三井化学	（2回連続6回目）
トイレットリー・化粧品	ファンケル	（2回連続2回目）
医薬品	第一三共	（初受賞）
鉄鋼・非鉄金属	日本製鉄	（3回連続3回目）
機械	小松製作所	（13回目）
電気・精密機器	オムロン	（3回連続8回目）
自動車・同部品・タイヤ	ブリヂストン	（初受賞）
運輸	日本航空	（2回連続4回目）
通信・インターネット	日本電信電話	（2回連続6回目）
商社	三井物産	（6回連続7回目）
小売業	丸井グループ	（2回連続4回目）
銀行	三菱UFJフィナンシャル・グループ	（8回目）
保険・証券・その他金融	東京海上ホールディングス	（5回連続5回目）
ITサービス・ソフトウェア	野村総合研究所	（6回連続14回目）
広告・メディア・エンタテインメント	オリエンタルランド	（4回連続4回目）

ディスクロージャー
2022年度 優良企業



SAAJ 日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan



2022 Award for Excellence
in Corporate Disclosure
— Industries —

SAAJ The Securities Analysts
Association of Japan

〔新興市場銘柄〕

BuySell Technologies	(初 受 賞)
スマレジ	(初 受 賞)
i - p l u g	(初 受 賞)

ディスクロージャー
新興市場銘柄
2022年度 優良企業



2022 Award for Excellence
in Corporate Disclosure
- Emerging Markets -
SAAJ The Securities Analysts
Association of Japan

〔個人投資家向け情報提供〕

日本製鉄	(初 受 賞)
野村総合研究所	(3 回連続 3 回目)
味の素	(2 回連続 2 回目)

ディスクロージャー
個人投資家向け情報提供
2022年度 優良企業



2022 Award for Excellence
in Corporate Disclosure
- Disclosure to Individual Investors -
SAAJ The Securities Analysts
Association of Japan

(注) 業種別のエネルギー部門については、エネルギー専門部会において検討した結果、当該部門の優良企業は該当なしとなりました。

高水準のディスクロージャーを連続維持している企業

本優良企業選定制度において直近 3 回連続して第 2 位または第 3 位の評価を受けた次の 8 社を高水準のディスクロージャーを連続維持している企業として称賛状を贈呈することとしました。

食	品	キ	リ	ン	ホ	ー	ル	デ	ィ	ン	グ	ス							
医	薬	品	中		外		製					薬							
鉄	鋼	・	非	鉄	金	属	J	F	E	ホ	ー	ル	デ	ィ	ン	グ	ス		
電	気	・	精	密	機	器	日		立		製		作		所				
商						社	伊		藤		忠		商		事				
小		売				業	J	.	フ	ロ	ン	ト	リ	テ	ィ	リ	ン	グ	
IT	サービス	・	ソフト	ウェア			T						I				S		
広告	・	メディア	・	エンタ	テイン	メント	セ	ガ	サ	ミ	ー	ホ	ー	ル	デ	ィ	ン	グ	ス

ディスクロージャーの改善が著しい企業

ディスクロージャーの改善が著しいと評価された次の 6 社に称賛状を贈呈することとしました。

機				械	荏		原		製		作		所						
電	気	・	精	密	機	器	村		田		製		作	所					
エ	ネ		ル	ギ	ー		石		油		資		源	開	発				
エ	ネ		ル	ギ	ー		出		光		興				産				
小			売			業	三	越	伊	勢	丹	ホ	ー	ル	デ	ィ	ン	グ	ス
小			売			業	し		ま					む					ら

概 括

ディスクロージャー研究会
座 長 許 斐 潤

1. 評価対象

- (1) 業種別については、東証プライム市場の上場株式時価総額上位企業を中心として、建設・住宅・不動産(17社)、食品(21社)、化学・繊維(21社)、トイレタリー・化粧品(9社)、医薬品(19社)、鉄鋼・非鉄金属(13社)、機械(19社)、電気・精密機器(25社)、自動車・同部品・タイヤ(21社)、エネルギー(21社)、運輸(17社)、通信・インターネット(11社)、商社(7社)、小売業(22社)、銀行(13社)、保険・証券・その他金融(9社)、ITサービス・ソフトウェア(13社)、広告・メディア・エンタテインメント(22社)の18業種合計300社を評価対象とした。
- (2) 新興市場銘柄については、グロース、ネクスト、Q-Boardおよびアンビシャスの4つの市場に上場している企業(他市場への変更を公表しているものを除く。)の中で、時価総額が上位であって、かつその企業を調査対象としているアナリストの数が一定数以上の30社(継続評価企業13社、再評価企業(注1)2社、新規評価企業15社)を評価対象とした。

(注1) 2年以上前に評価対象としたことがある企業。
- (3) 個人投資家向け情報提供については、本年度の各業種(18業種)および新興市場銘柄についての選定結果において上位1割(評価対象企業の数で10割った数(小数点第1位を切上げ))に入った企業のうち、2021年7月から2022年6月までの間において、「個人投資家向け会社説明会」を開催した30社を評価対象とした。
- (4) 評価対象期間は、原則として、2021年7月から2022年6月までの1年間である。

2. 評価方法等

- (1) 業種別の評価については、次のとおり。

① 評価基準は、(a) 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス、(b) 説明会、インタビュー、説明資料等における開示、(c) フェア・ディスクロージャー、(d) ESGに関連する情報の開示、(e) 各業種の状況に即した自主的な情報開示、の5つの評価分野から構成されている。各分野の配点については、ディスクロージャー研究会(以下、「当研究会」という)が定める評価分野別の配点枠の範囲内で、当研究会の下に設置された業種別の各専門部会が設定した(下表参照。5分野合計で100点満点)。

評 価 分 野	配 点 枠
(a) 経営陣のIR姿勢等	15点 ～ 50点
(b) 説明会等	10点 ～ 40点
(c) フェア・ディスクロージャー	5点 ～ 25点
(d) ESG 関連	15点 ～ 40点
(e) 自主的情報開示	5点 ～ 20点

② 本年度はESGに関連する情報をより重視し、5つの評価分野のうち「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」を「ESGに関連する情報の開示」に名称変更し、配点枠を上げた。これを受けて、各専門部会において、各業種の状況を踏まえてESG関連の評価項目を集約または新設するなど、当該分野の内容を見直している。そのほか、さらに重要性を増している社外取締役に関連する評価項目を設けるなどの見直しも行い、本年度の評価項目を設定した。

③ 各専門部会で決定された上記評価基準に基づき、証券アナリスト経験年数 3 年以上かつ当該業種担当概ね 2 年以上のアナリストで、評価期間中に評価対象企業への接触が 4 回以上あった者（自主申告による）、延べ 537 名が評価を行った。

(2) 新興市場銘柄については、上記(1)①の(a)から(e)までの評価分野について、13 項目の評価項目を設定した。この評価基準に基づき、評価期間中に評価対象企業への接触があった 56 名のアナリストが評価を行った。

(3) 個人投資家向け情報提供については、①個人投資家向け会社説明会の開催等、②ウェブサイトにおける開示等、③事業報告書等の内容、の 3 分野について 16 項目の評価項目を設定した。この評価項目のうち、5 項目については、各評価対象企業に対してアンケート調査を実施し、その回答に基づき評点を付した。残りの 11 項目については、証券会社等において個人投資家向けの情報提供に携わっているアナリスト等から構成されている「個人投資家向け情報提供専門部会」の委員 14 名が評点を付し、最終評価は両者の評点を合算して行った。

(4) 上記(1)から(3)までの評価結果を基に、各専門部会（20 部会、計 144 名の委員）において慎重に分析・検討を行い、それぞれ報告書を取りまとめた。当研究会は、これらの報告書を踏まえて、「優良企業」23 社、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」8 社、および「ディスクロージャーの改善が著しい企業」6 社を選定した。なお、本年度は、「優良企業」において 6 社が初受賞となった。

3. 評価結果の概要

評価結果の詳細は、後掲の「各専門部会報告」に示しているが、その概要は次のとおりである。

(1) 業種別における総合評価平均点は、次表のとおりとなった。ちなみに、全評価対象企業 300 社の総合評価平均点を算出すると、69.5 点（昨年度 69.9 点）であった。（注 2）

業 種	総合評価平均点（昨年度）
建設・住宅・不動産	73.7 点（73.8 点）
食 品	65.2 点（69.5 点）
化学・繊維	70.7 点（68.6 点）
トイレタリー・化粧品	73.5 点（71.4 点）
医薬品	75.0 点（76.6 点）
鉄鋼・非鉄金属	72.2 点（70.9 点）
機 械	72.8 点（73.6 点）
電気・精密機器	74.1 点（74.2 点）
自動車・同部品・タイヤ	64.8 点（65.0 点）
エネルギー	62.7 点（64.6 点）
運 輸	65.1 点（66.3 点）
通信・インターネット	71.6 点（72.8 点）
商 社	74.1 点（78.0 点）
小売業	69.2 点（68.5 点）
銀 行	75.0 点（75.6 点）
保険・証券・その他金融	70.5 点（70.3 点）
IT サービス・ソフトウェア	69.1 点（67.6 点）
広告・メディア・エンタテインメント	62.4 点（64.1 点）

※ 機械は、昨年度の評価を休止しており、（ ）内は 2020 年度の点数。

① 本年度においては、「ESG 関連」の評価分野で高い評価を受けた企業が総合評価においても上位となった。また、経営陣が積極的に IR に関与し、会社の方針やメッセージを投資家・アナリストに明確に伝えている企業が高く評価された。さらに、新型コロナウイルス感染症が長期化する中でも、リモートツール等を活用し積極的な情報提供（各種説明会、見学会を含む。）に努める企業を評価する声が、多くの評価実施アナリストから寄せられた。一方、社外取締役に関連する項目については、社外取締役との対話の機会を設けた企業は評価されたものの、総じて低い評価となっており、選任理由の十分な説明なども含めて今後の改善が望

まれる。

- ② 本年度に名称変更し、評価内容を見直した「ESG 関連」について、詳しく見ると、業種間において評価に大きな差が見られている。たとえば、同分野の平均得点率を見ると、最も高い「トイレタリー・化粧品」(76%)と、最も低い「広告・メディア・エンタテインメント」(58%)の差は 20 ポイント近いものとなっている。業種により ESG の取組みに対する意識に差が見られるが、同業種だけでなく、他業種の取組みや情報提供も参考にして、経営陣自らが積極的に関与することが望まれる。なお、同じ業種の中でも、上位と下位の企業間の較差も見られている。上位の企業においては、ESG の取組みに対する経営陣の積極的な姿勢や、ESG 説明会の開催およびその内容の充実が評価され、特に、説明会や統合報告書等において ESG に関する目標やその進捗状況を明確に示し、主要業務との関係についても言及している企業が高く評価された。企業にとって ESG の取組みは企業価値向上の観点から一層重要なものとなっているため、下位企業の開示努力を強く求めたい。

(注 2) 業種ごとの総合評価平均点、昨年度比較、全評価対象企業の評価平均点は、概況を伝えるために敢えて算出したものであるが、業種間で評価項目の内容や配点が異なることに留意する必要がある。また、業種ごとの昨年度平均点との比較も、評価項目の増減や内容・配点の見直し、評価対象企業の変更などがあるため、数値の増減だけでディスクロージャーの改善や後退を論じることは難しい。

- (2) 新興市場銘柄 (30 社) の評価平均点は 67.7 点 (昨年度 67.0 点) であった。(注 3)

5 つの評価分野のうち 3 分野の平均得点率は昨年度を上回ったが、「フェア・ディスクロージャー」および「ESG 関連」は、昨年度に比べて下がった。特に、「ESG 関連」については、平均得点率が 50% 台となり低い水準であった。具体的には、同分野の 2 項目 (①資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等の十分な説明、②非財務情報の開示の取組み) が共に低い得点率となり、30% 台、40% 台の企業も見られた。ESG を含む非財務情報の重要性を踏まえて、早急な改善が望まれる。なお、評価実施アナリストの意見を見ると、CEO、CFO などの経営陣が投資家との対話に積極的であり、説明会等において自らの言葉で説明している企業が高く評価された。また、説明会等において、各種 KPI の設定やその達成に向けた戦略を示し、投資家・アナリストの理解が深まるよう説明に工夫を加えている企業も高い評価となっている。

(注 3) 本年度の評価対象企業 30 社の中には新規評価企業が含まれており、また、評価項目の内容・配点の見直しを行っているため、数値の昨年度からの変化に厳密な意味はない。

- (3) 個人投資家向け情報提供部門 (30 社) の評価平均点は 79.2 点 (昨年度 77.0 点) であった。(注 4)

評価期間における個人投資家向け会社説明会の平均開催数は 2.4 回で、昨年度 (2.5 回) と同程度にとどまっており、新型コロナウイルス感染症長期化により個人投資家に対する情報提供が依然として困難である状況が見られた。一方で、個人投資家向け会社説明会の内容を配布資料だけでなく、動画または音声でウェブサイトに掲載した企業は 28 社 (93%) と、昨年度 (86%) を上回っており、各企業において情報提供の方法を工夫していることが窺われた。

本部門において評価された企業では、個人投資家向け会社説明会において経営陣が市場環境や目標指標等を丁寧に説明しているもの、また、写真や図表などを積極的に活用して個人投資家に理解しやすいように説明しているものが見られた。さらに、ウェブサイトの説明会動画やスクリプトを掲載するとともに、個人投資家が当該掲載ページを容易に見つけられるよう工夫をしているものも評価された。

(注 4) 本年度の評価対象企業は 30 社で、昨年度 (22 社) よりも大幅に増えていること、また、30 社の中には、新規評価企業が含まれているため、数値の昨年度からの変化に厳密な意味はない。

- (4) 全体を通してみれば、企業による情報開示は向上してきており、新型コロナウイルス感染症の長期化においても、リモートツール等を一層活用して情報発信に工夫を加えている企業が多く見られている。他方で、評価実施アナリストからは、経営陣との対話の機会や、現場説明会等の開催を望む声も多く寄せられた。企業価値向上に向けた、企業と投資家との双方向でのコミュニケーションの重要性があらためて認識されているものと

思われる。

当研究会としては、このような状況を踏まえて、評価結果を企業へフィードバックするなど、今後も、企業によるディスクロージャーの充実・改善のため取り組んで参りたい。

最後に、本年度の評価作業には、各専門部会委員のほか多数の経験豊富なアナリストが参加され、全部門としては延べ 600 名超の方から評価が寄せられた。依然として業務の制約がある中で、企業のディスクロージャーの促進・向上を目指し、真摯な姿勢で精力的な作業に従事していただいたことに対し、ここに深甚なる感謝の意を表したい。また、本年度の評価作業についてご理解、ご協力をいただいた企業の皆様にも、深く御礼を申し上げる。

以 上

【各専門部会報告】

20 部会

(注1) 社名は2022年10月13日現在の登記社名とした。

(注2) 評価実施アナリストの所属会社名は、原則として評価実施時点(2022年6月)における会社名とした。

建設・住宅・不動産

1. 評価対象企業（17 社）

【建設】（4 社）

大 成 建 設、大 林 組、清 水 建 設、鹿 島 建 設

【住宅・不動産】（10 社）

長谷エコーポレーション、大東建託、大和ハウス工業、積水ハウス、
野村不動産ホールディングス（注）、東急不動産ホールディングス、三井不動産、
三菱地所、東京建物、住友不動産

【住宅設備】（3 社）

TOTO、LIXIL、リンナイ

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）昨年度、トライアル評価を実施した（次年度の評価を見据えた予備的な評価で、評価結果は非公表）。

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	3	29
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	16
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	23
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	7
計		11	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 16 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

（2） 評価実施アナリストは 30 名（所属先 23 社）である。（氏名等は 17 頁参照）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は 15 頁参照）

- ① 本年度は、新規の企業を加えたほか、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 73.7 点（昨年度 73.8 点）、総合評価点の標準偏差は 6.9 点（昨年度 6.3 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を比較すると、高得点順に、住宅・不動産（10 社）：75.7 点（昨年度 75.3 点）、住宅設備（3 社）：73.4 点（昨年度 75.5 点）、建設（4 社）：68.9 点（昨年度 68.8 点）となった。住宅設備は、昨年度に総合評価平均点を大きく伸ばした（+7.3 点）が、本年度はやや下げた。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 72%（昨年度 73%）、説明会等が 75%（昨年度 76%）、フェア・ディスクロージャーが 83%（昨年度 81%）、

ESG 関連が 70%（昨年度 74%）、自主的情報開示が 64%（昨年度同率）と、昨年度と同程度となった。

- ④ 評価項目を見ると、全 11 項目のうち、次の 4 項目は、平均得点率で 80%以上となり、高水準となった。（説明会等（2.（2）（3））、フェア・ディスクロージャー（3.（1）（2））。項目番号は「2022 年度評価項目および配点」（16 頁）を参照のこと）

- 2.（2）「部門別・会社別に受注、売上利益の実績と見通しは十分に開示されていますか。また、資産・負債・キャッシュフローの状況が十分に説明されていますか」（平均得点率 80%〔昨年度 79%〕）（得点率：60% 台 1 社・70% 台 6 社・80% 台 10 社）
- 2.（3）「四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催していますか（四半期毎に開催：満点）」（平均得点率 83%〔昨年度 82%〕）（得点率：0% 3 社・100% 14 社）
- 3.（1）「経営陣および IR 部門が投資家にとって重要と判断される事項の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」（平均得点率 82%〔昨年度 79%〕）（得点率：70% 台 2 社・80% 台 15 社）
- 3.（2）「決算説明会・電話会議の参加機会、決算説明会資料や期中のデータが公平に提供されていますか」（平均得点率 84%〔昨年度 83%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：70% 台 3 社・80% 台 14 社）

- ⑤ 一方、自主的情報開示の次の 1 項目は、昨年度に比べ平均得点率が上がったものの、全 11 項目のうちで最も低水準となった。

- 5.「各種現場見学会や事業説明会等を積極的かつ公平に実施していますか」（平均得点率 64%〔昨年度 59%〕）（得点率：30% 台 1 社・40% 台 2 社・50% 台 3 社・60% 台 4 社・70% 台 4 社・80% 台 3 社）

- ⑥ ESG 関連の 3 項目は、次のとおりとなった。

- 4.（1）「非財務情報（ESG 情報、統合報告書等）の開示のみならず説明に積極的に取り組んでいますか」（平均得点率 72%〔昨年度 68%〕）（得点率：50% 台 1 社・60% 台 6 社・70% 台 8 社・80% 台 1 社・90% 台 1 社）
- 4.（2）「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか」（平均得点率 70%〔昨年度 75%〕）（得点率：50% 台 1 社・60% 台 4 社・70% 台 12 社）
- 4.（3）「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていますか」（平均得点率 72%〔昨年度 69%〕）（得点率：50% 台 2 社・60% 台 8 社・70% 台 5 社・80% 台 2 社）

（2）上位 3 企業の評価概要

第 1 位 積水ハウス（ディスクロージャー優良企業〔2 回連続 2 回目〕、総合評価点 83.6 点〔昨年度比－0.4 点〕）

- ① 同社は、ESG 関連が第 1 位（得点率〈以下省略〉83%）、自主的情報開示が同得点第 1 位（84%）、説明会等が第 2 位（83%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 2 位（88%）、経営陣の IR 姿勢等が第 3 位（82%）となった。昨年度に比べ、フェア・ディスクロージャーの得点率が改善した一方で、経営陣の IR 姿勢等および説明会等の得点率はやや下がった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」（第 3 位）および「IR 部門の機能」（第 3 位）が、共に評価された。これらに関連して、財務、非財務を含めバランスのよい IR 対応を行っているとの声や、中・長期的な成長性や ESG 経営などを的確に説明しているとの声が寄せられた。また、担当役員による IR への積極的な関与を評価する声もあった。
- ③ 説明会等においては、「四半期情報開示」が満点となったほか、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が、高い評価となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」も、同得点第 2 位となり、これらの結果、この分野において第 2 位となった。これらに関連して、部門別の動向の開示が明瞭であるとの声や、事業別説明会の内容が充実しているとの声があった。なお、国際事業に関する開示の充実を求める声があった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が、最も高い評価となった。また、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」（同得点第3位）も、高い評価となった。これらの結果、この分野において、第1位と僅差の第2位となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「非財務情報（ESG 情報、統合報告書等）の開示のみならず説明に積極的に取り組んでいること」が、最も高い評価となり、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」も、同得点第1位となった。また、「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていること」は、同得点第3位となった。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、ESG に関してバランスよく開示されていると評価する声のほか、ESG 説明会の内容が充実しているとの声が寄せられた。また、資本政策の開示が明瞭との声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「各種現場見学会や事業説明会等を積極的かつ公平に実施していること」は、昨年度に比べ得点率が改善し、同得点第1位となった。評価できるイベントとして、事業別説明会、国際事業説明会を挙げる声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 大和ハウス工業（総合評価点 81.9 点〔昨年度比－0.5 点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、**自主的情報開示**（84%）が同得点第1位、**ESG 関連**が第2位（80%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第2位（88%）、**説明会等**が第3位（83%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第6位（79%）となった。昨年度に比べ、**経営陣の IR 姿勢等**の得点率が下がった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」（同得点第4位）および「IR 部門の機能」（同得点第7位）の得点率が、昨年度に比べ下がった。これらに関連して、中・長期的な成長性、ESG 経営などを的確に説明しているとの声が寄せられた一方で、経営陣や IR 担当者間でのメッセージの温度差が大きいとの声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「四半期情報開示」が満点となったほか、「説明会、インタビューにおける開示」も、同得点第2位となった。「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」は、同得点第4位となった。なお、海外事業について十分な説明を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」が、同得点第1位となった。また、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（第3位）も、高い評価となった。これらの結果、この分野において、第1位と僅差の第2位となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」が、同得点第1位となり、「非財務情報（ESG 情報、統合報告書等）の開示のみならず説明に積極的に取り組んでいること」（第2位）も評価された。なお、「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていること」（第5位）については、昨年度に比べ得点率がやや下がった。これらに関連して、ESG に関してバランスよく開示されていると評価する声が寄せられた一方で、中期経営計画の計数について、より具体的な算出根拠の説明を求める声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「各種現場見学会や事業説明会等を積極的かつ公平に実施していること」は、昨年度に比べ得点率が改善し、同得点第1位となった。評価できるイベントとして、事業別説明会を挙げる声があった。

第3位 野村不動産ホールディングス（総合評価点 79.8 点〔昨年度（トライアル評価）比＋2.4 点〕）

- ① 同社は、**ESG 関連**が第3位（79%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第4位（80%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第4位（86%）、**説明会等**が第5位（82%）、**自主的情報開示**（60%）が同得点第10位となった。なお、同社については、昨年度にトライアル評価を実施したうえで、本年度から本評価の対象とした。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」（第4位）が評価された。また、「経営陣の IR 姿勢」も、同得点第4位となった。これらに関連して、CEO や CFO の IR に対する積極性を評価する声のほか、資本効率に対する姿勢や長期的な投資計画などのビジョンが明確であるとの声が寄せられた。なお、新規開発プロジ

エクトに関する想定収益等について、より深掘した説明を期待するとの声もあった。

- ③ **説明会等**においては、「四半期情報開示」が満点となったほか、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」（同得点第4位）が、80%以上の得点率となった。なお、「説明会、インタビューにおける開示」は、同得点第7位となった。これらに関連して、部門別の動向の開示が明瞭であるとの声があった一方で、中長期経営計画の計数について、より具体的な算出根拠の説明を求める声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」（同得点第3位）が高い評価となり、また、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第4位）も、85%以上の得点率となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていること」が、最も高い評価となった。これに関連して、各事業のROAの見通しや、それに伴う還元方針などが的確に説明されているとの声が寄せられた。また、ESGに関してバランスよく開示されている、資本政策の説明が明瞭であるとの声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「各種現場見学会や事業説明会等を積極的かつ公平に実施していること」（同得点第10位）は、平均得点率に達しなかった。これに関連して、リモートツールの活用も含めて現場見学会の開催を望む声があった。

以 上

2022年度 ディスクロージャリー評価比較総括表（建設・住宅・不動産）

（単位：点）

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示		3. フェア・ディスクロージャー		4. ESGに関連する情報の開示		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示		前回順位
			評価項目2 (配点25点)		評価項目3 (配点29点)		評価項目2 (配点16点)		評価項目3 (配点23点)		評価項目1 (配点7点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	1928 積水ハウス	83.6	20.4	3	24.2	2	14.0	2	19.1	1	5.9	1	1
2	1925 大和ハウス工業	81.9	19.7	6	24.0	3	14.0	2	18.3	2	5.9	1	2
3	3231 野村不動産ホールディングス	79.8	20.0	4	23.7	5	13.7	4	18.2	3	4.2	10	
4	8801 三井不動産	79.6	21.0	1	23.6	6	13.3	11	17.5	5	4.2	10	7
5	1878 大東建託	79.2	18.6	8	25.3	1	14.1	1	15.8	9	5.4	4	3
6	8802 三菱地所	77.8	19.2	7	23.4	7	13.3	11	16.9	6	5.0	5	8
7	5947 リンナイ	77.3	19.9	5	22.1	9	13.7	4	17.6	4	4.0	12	6
8	1808 長谷工コーポレーション	77.0	20.9	2	23.9	4	12.9	15	14.9	14	4.4	9	4
9	5938 LIXIL	74.3	18.6	8	21.9	10	13.4	7	15.5	11	4.9	7	5
10	8804 東京建物	73.0	17.7	10	22.4	8	13.4	7	16.1	8	3.4	15	9
11	1802 大林組	72.0	17.3	11	20.9	12	13.4	7	14.8	15	5.6	3	12
12	1812 鹿島建設	69.7	15.5	14	21.0	11	13.4	7	15.0	13	4.8	8	14
13	1803 清水建設	68.5	15.1	15	19.8	14	13.3	11	15.3	12	5.0	5	11
13	5332 TOTO	68.5	16.2	13	19.6	15	13.0	14	16.8	7	2.9	16	10
15	3289 東急不動産ホールディングス	68.4	16.8	12	20.2	13	11.9	17	15.7	10	3.8	14	13
16	1801 大成建設	65.2	14.6	16	18.7	16	13.6	6	14.4	16	3.9	13	15
17	8830 住友不動産	56.7	12.6	17	16.5	17	12.2	16	13.0	17	2.4	17	16
	評価対象企業評価平均点	73.68	17.89		21.84		13.33		16.17		4.45		

2022年度評価項目および配点（建設・住宅・不動産）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（25点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなどIRに積極的に関与していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積されており、IR担当者とは有益なディスカッションができますか。	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（29点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・短信および説明会資料等において、実績および計画（前提条件等を含む）を明記のうえ、理解を深めるような十分な説明がなされていますか。また、質疑に対する会社側の回答は十分満足できるものです。	15
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・部門別（注1）・会社別に受注、売上利益の実績と見通し（注2）は十分に開示されていますか。また、資産・負債・キャッシュフローの状況が十分に説明されていますか。	12
(3)四半期情報開示	
・四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催していますか。【四半期ごと開催：2点、3回開催：1点、その他：0点】	2
3. フェア・ディスクロージャー（16点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が投資家にとって重要と判断される事項（注3）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	8
(2)ウェブサイトやリモートツールによる情報提供	
・決算説明会・電話会議の参加機会、決算説明会資料や期中のデータが公平に提供されていますか。	8
4. ESGに関連する情報の開示（23点）	配点
(1)非財務情報の開示	
・非財務情報（ESG情報、統合報告書等）の開示のみならず説明に積極的に取り組んでいますか。	10
(2)コーポレートガバナンス・コード	
・コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。	4
(3)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていますか。	9
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（7点）	配点
・各種現場見学会や事業説明会等を積極的かつ公平に実施していますか。【過去1年間を目安に評価】 【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	7

（注1）「部門別」については、業態により・・・【ゼネコン】：国内・海外および官・民・土・建・その他、【住宅】：戸建て・アパート・一般建築・分譲・賃貸・その他、【不動産】：分譲・賃貸・建設・委託業務・その他、【住宅設備】：製品別・その他・・・と読み替えて下さい。

（注2）「受注、売上利益の実績と見通し」については、【不動産・住宅設備】については売上利益の実績と見通し・・・と読み替えて下さい。

（注3）「投資家にとって重要と判断される事項」とは、東証のT Dnetへの登録を含む次のような事項です。例えば・・・疫病、受注動向、指名停止、訴訟、労災、災害、環境汚染、取引先の倒産、海外市場での変動、大型プロジェクトの事業費概算、資産の取得・売却、新技術・新商品開発、雇用政策の変更、バランスシートおよび債務保証における大きな変動等。

建設・住宅・不動産専門部会委員

部 会 長	川嶋 宏樹	SMBC 日興証券
部会長代理	竹川 克彦	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	寺岡 秀明	大和証券
	橋本 嘉寛	みずほ証券
	前川 健太郎	野村證券
	望月 政広	CLSA 証券

評価実施アナリスト（30名）

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	寺岡 秀明	大和証券
姉川 俊幸	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	富田 展昭	極東証券経済研究所
伊藤 昌哉	アセットマネジメント One	中川 義裕	みずほ証券
今泉 達矢	アセットマネジメント One	橋本 嘉寛	みずほ証券
入沢 健	立花証券	坂東 俊輔	東京海上アセットマネジメント
小澤 公樹	SBI 証券	福島 大輔	野村證券
川嶋 宏樹	SMBC 日興証券	辺見 愛子	アライアンス・パートナーズ
菊崎 雄太	ニッセイ アセット マネジメント	前川 健太郎	野村證券
熊崎 崇文	三菱 UFJ 信託銀行	増宮 守	大和証券
栗原 英明	東海東京調査センター	松崎 亘	JP モルガン・アセット・マネジメント
笹原 雅子	明治安田アセットマネジメント	三木 正士	シティグループ 証券
白崎 辰五	りそなアセットマネジメント	道脇 祐介	三菱 UFJ 信託銀行
宝田 めぐみ	東洋証券	望月 政広	CLSA 証券
竹川 克彦	三井住友トラスト・アセットマネジメント	八木 亮	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
田澤 淳一	SMBC 日興証券	山口 啓朗	大和アセットマネジメント

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

食 品

1. 評価対象企業（21 社）

日清製粉グループ本社、江崎グリコ、山崎製パン、カルビー、森永乳業、ヤクルト本社、明治ホールディングス、日本ハム、アサヒグループホールディングス、キリンホールディングス、コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス、サントリー食品インターナショナル、不二製油グループ本社、キッコーマン、味の素、キューピー、ハウス食品グループ本社、ニチレイ、東洋水産、日清食品ホールディングス、日本たばこ産業

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	34
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	10
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	28
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	8
計		12	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 23 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

(2) 評価実施アナリストは 21 名（所属先 18 社）である。（24 頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は 22 頁参照）

- ① 本年度は、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目数、内容、配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 65.2 点（昨年度 69.5 点）となり、評価対象企業 21 社のうち 17 社の総合評価点が下がった。総合評価点の標準偏差は 13.0 点（昨年度 9.3 点）であった。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 63%（昨年度 68%）、説明会等が 69%（昨年度 72%）、フェア・ディスクロージャーが 78%（昨年度 85%）、ESG 関連が 65%（昨年度 63%）、自主的情報開示が 52%（昨年度 58%）となった。昨年度に比べ、ESG 関連を除く 4 分野が下がった。
- ③ 評価項目について見ると、全 12 項目のうち、平均得点率が 80%以上の項目はなく（昨年度 2 項目）、次の 4 項目（経営陣の IR 姿勢等の中の 1 項目(c)、説明会等の中の 1 項目(d)、フェア・ディスクロージャーの 2 項目(a)(b)）が、70%台となった。

- (a) 「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。また、日英両言語でタイムリーに提供していますか」(平均得点率 78% [昨年度 86%]) (得点率 (評価点/配点 (以下省略)) : 60%台 3 社・70%台 8 社・80%台 10 社)
- (b) 「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供 (説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応) を行っていますか」(平均得点率 78% [昨年度 84%]) (得点率 : 50%台 1 社・60%台 1 社・70%台 8 社・80%台 11 社)
- (c) 「IR 部門に十分かつ正確な情報が集積され、業績の好不調にかかわらず、IR 担当者等と有益なディスカッションができますか」(平均得点率 71% [昨年度 73%]) (得点率 : 40%台 2 社・50%台 2 社・60%台 5 社・70%台 7 社・80%台 4 社・90%台 1 社)
- (d) 「決算の実績および業績の見通しについて、収益および財務分析に必要な定量情報が十分に記載されていますか。例えば、連結の事業種類別・地域別の業績および利益増減要因 (単価・数量等)、為替および原材料などの相場変動の感応度等」(平均得点率 70% [昨年度 75%]) (得点率 : 50%台 2 社・60%台 7 社・70%台 8 社・80%台 4 社)
- ④ 一方、次の 2 項目 (経営陣の IR 姿勢等の中の 1 項目 (a)、自主的情報開示の中の 1 項目 (b)) は、平均得点率が 50%未満となり、低水準となった。なお、(a)は、本年度の新設項目である。

- (a) 「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」(平均得点率 31%) (得点率 : 10%台 6 社・20%台 9 社・30%台 1 社・50%台 2 社・60%台 1 社・70%台 1 社・80%台 1 社)
- (b) 「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していますか」(平均得点率 42% [昨年度 43%]) (得点率 : 10%台以下 3 社・20%台 7 社・30%台 2 社・50%台 3 社・60%台 2 社・70%台 1 社・80%台 2 社・90%台 1 社)

- ⑤ ESG 関連の 3 項目 (全て本年度の新設項目) は、次のとおりであり、いずれも 60%台となった。

- (a) 「企業価値の向上につながるようなマテリアリティの設定が行われ、開示されていますか」(平均得点率 68%) (得点率 : 30%台 1 社・40%台 1 社・50%台 3 社・60%台 6 社・70%台 5 社・80%台 4 社・90%台 1 社)
- (b) 「ESG に関する十分なデータ、目標達成に向けての具体的な戦略、および進捗状況が開示されていますか」(平均得点率 63%) (得点率 : 40%台 4 社・50%台 3 社・60%台 8 社・70%台 3 社・80%台 3 社)
- (c) 「ESG に関する取組みについて、統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていますか」(平均得点率 63%) (得点率 : 30%台 2 社・40%台 2 社・50%台 5 社・60%台 4 社・70%台 3 社・80%台 4 社・90%台 1 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 味の素 (ディスクロージャー優良企業 [2 回目]、総合評価点 88.3 点 [昨年度比+2.8 点]、昨年度第 2 位)

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等 (得点率 (以下省略) 91%)、ESG 関連 (90%) が第 1 位、説明会等 (85%)、自主的情報開示 (79%) が第 2 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 2 位 (87%) となった。同社の総合評価点第 1 位は、2016 年度以来である。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」および「社外取締役との対話」が、最も高い評価となった。これらに関連して、経営陣が IR 活動に積極的であり、経営陣の考え方を直接聞く機会が提供されている、市場の意見を経営陣が共有する仕組みが構築されているとの声が寄せられ、社外取締役が投資家との対話に積極的に関与していることを評価する声もあった。「IR 部門の機能」(第 2 位)についても評価された。これに関連して、IR 部門の機能が強化されてきている、IR 担当者の説明が率直かつクリアであるとの声があった。これらの結果、この分野において第 1 位 (昨年度第 2 位) となった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」(第 2 位)が高い評価となり、第 1 位と僅差であった。また、「説明資料等における開示」は、昨年度に比べ得点率が大幅に改善し、第 3 位 (昨年度第 11 位)

となった。これらに関連して、開示内容の網羅性や、質疑応答における回答内容を評価する声があった。なお、原材料などの相場変動の感応度の開示について充実を望む声もあった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていること」（同得点第1位）が高い評価となった。これに関連して、説明会のリプレイ（質疑応答を含む）をウェブ掲載していることを評価する声があった。また、「経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること。また、日英両言語でタイムリーに提供していること」（同得点第2位）も高い評価となった。これらの結果、この分野において同得点第2位となり、第1位とは僅差であった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、3項目全てが最も高い評価となった結果、この分野において第1位となった。なお、3項目のうち、「企業価値の向上につながるようなマテリアリティの設定が行われ、開示されていること」および「ESG に関する取組みについて、統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていること」については、共に 90%以上の得点率となった。これに関連して、ESG の取組内容は業界でもトップクラスであり、市場との対話にも積極的であるとの声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していること」が第3位となった。評価できるイベントとして、ファンクショナルマテリアルズ事業の説明会を挙げる声が多かった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 アサヒグループホールディングス（総合評価点 86.4 点〔昨年度比－2.1 点〕、昨年度第1位）

- ① 同社は、説明会等（86%）、フェア・ディスクロージャー（88%）、自主的情報開示（84%）が第1位、経営陣のIR姿勢等（88%）、ESG 関連（85%）が第2位となった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「IR部門の機能」が最も高い評価となった。これに関連して、IR部門への情報集積や権限委譲が進んでおり経営のメッセージが伝達されているとの声や、IR部門は投資家が求める情報を認識し経営陣とも共有ができているとの声が寄せられた。また、執行役員がIR対応をしており、グローバルの情報が収集できているとの声もあった。「経営陣のIR姿勢」（第2位）は、90%以上の得点率となった。これに関連して、経営トップ自らがESGの重要性を理解しイベントを開催していること、経営陣が投資家とのコミュニケーションを経営に活かそうとしていること、経営のビジョンが明確であることを評価する声が寄せられた。なお、ESGのうち、E、Sに関連する開示について一層の充実を望む声があった。「社外取締役との対話」は第3位となった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」が最も高い評価となった。これに関連して、説明会等において経営陣から丁寧な説明があり理解しやすいとの声や、市場のニーズを踏まえた説明と質疑応答がされており納得度が高いとの声が寄せられた。また、定量的な分析に基づく精度の高い回答がなされているとの声もあった。「説明資料等における開示」（第2位）も評価された。これに関連して、足元の原材料市況に応じて、コストアップの可能性を定量的に開示しているとの声があった。一方、事業環境が大きく変動する中で、納得性あるメッセージが伝わりにくい場合があったとの声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること、また、日英両言語でタイムリーに提供していること」が最も高い評価となった。また、「リモートツールによる情報提供」（同得点第1位）も高い評価となった。なお、説明会のプレゼンテーションのテキスト開示を望む声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「ESGに関する十分なデータ、目標達成に向けての具体的な戦略、および進捗状況が開示されていること」および「ESGに関する取組みについて、統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていること」が、共に第2位となった。これらに関連して、ESGの取組みや市場との対話に積極的であること、TCFDの影響など定量的な情報開示が豊富であること、説明会などの理解する機会を提供していることを評価する声が寄せられた。また、「企業価値の向上につながるようなマテリアリティの設定が行われ、開示されていること」（同得点第2位）も、高い評価となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に

開示していること。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等」(同得点第2位)が高い評価となり、「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していること」(第2位)も評価された。これらに関連して、データブックの市場情報が充実しているとの声があった。評価できるイベントとして、IR Dayにおける、欧州・オセアニア事業方針説明会、サステナビリティ説明会が挙げられた。

**第3位 キリンホールディングス(高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、総合評価点 83.1 点
〔昨年度比+1.9 点〕、昨年度第3位〔一昨年度第3位〕)**

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが同得点第2位(87%)、経営陣のIR姿勢等(84%)、説明会等(81%)、ESG関連(85%)、自主的情報開示(78%)が第3位となった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「経営陣のIR姿勢」(第3位)が高い評価となった。また、「IR部門の機能」(同得点第3位)も評価された。これらに関連して、経営トップが積極的に説明責任を果たしていること、ESGの課題を経営戦略に取り入れる姿勢があり、その重要性を理解し、イベントを実施していることを評価する声が寄せられた。また、IR部門は投資家が求める情報を認識し、経営陣と共有できているとの声や、IR部門への情報集積や権限移譲が進んでいるとの声があった。「社外取締役との対話」は第2位となった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」(第3位)が評価された。これに関連して、経営陣の説明が具体的であるとの声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「リモートツールによる情報提供」が同得点第1位となった。また、「経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること、また、日英両言語でタイムリーに提供していること」(同得点第2位)も高く評価された。これらの結果、この分野において同得点第2位となり、第1位とは僅差であった。なお、説明会のプレゼンテーションのテキスト開示を望む声があった。
- ⑤ ESG関連においては、「ESGに関する取組みについて、統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていること」(第3位)および「企業価値の向上につながるようなマテリアリティの設定が行われ、開示されていること」(同得点第2位)が高い評価となった。また、「ESGに関する十分なデータ、目標達成に向けての具体的な戦略、および進捗状況が開示されていること」(第3位)も評価された。これらに関連して、TCFDの影響など定量的な情報開示が豊富であること、説明会などの理解する機会を提供していることを評価する声が寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していること。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等」(同得点第2位)が高い評価となった。「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していること」は第4位となった。評価できるイベントとして、ヘルスサイエンス戦略やDX戦略に関する説明会が挙げられた。

同社は、3回連続して第3位の評価を受けたので、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」に選定した。

以 上

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表（食品）

（単位：点）

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	2802 味の素	88.3	31.0	1	17.0	2	8.7	2	25.3	1	6.3	2	2
2	2502 アサヒグループホールディングス	86.4	29.8	2	17.2	1	8.8	1	23.9	2	6.7	1	1
3	2503 キリンホールディングス	83.1	28.4	3	16.1	3	8.7	2	23.7	3	6.2	3	3
4	2607 不二製油グループ本社	76.7	26.3	4	14.9	7	8.1	8	22.1	4	5.3	6	4
5	2229 カルビー	74.3	25.4	7	15.6	4	8.3	6	18.9	9	6.1	4	9
5	2269 明治ホールディングス	74.3	25.7	5	14.0	11	8.2	7	21.4	5	5.0	8	5
7	2264 森永乳業	73.9	25.6	6	15.3	5	8.1	8	20.1	7	4.8	9	7
8	2897 日清食品ホールディングス	72.1	22.9	9	14.1	10	8.5	5	21.4	5	5.2	7	11
9	2282 日本ハム	71.5	23.8	8	14.5	8	8.0	10	19.3	8	5.9	5	6
10	2871 ニチレイ	65.5	21.8	10	13.8	12	7.7	12	18.9	9	3.3	13	10
11	2914 日本たばこ産業	65.4	20.9	12	14.4	9	8.7	2	18.1	11	3.3	13	8
12	2587 サントリー食品インターナショナル	62.3	21.0	11	13.5	13	7.7	12	17.3	12	2.8	17	14
13	2002 日清製粉グループ本社	59.0	18.9	13	12.5	15	7.2	16	16.5	15	3.9	10	17
14	2810 ハウス食品グループ本社	58.9	18.5	15	12.7	14	7.0	18	17.2	13	3.5	11	15
15	2809 キユーピー	57.7	18.6	14	12.3	16	7.7	12	16.0	16	3.1	15	16
16	2579 コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス	54.8	14.6	21	11.6	17	7.9	11	17.2	13	3.5	11	19
17	2875 東洋水産	52.6	14.7	20	15.3	5	7.6	15	12.6	19	2.4	20	20
18	2267 ヤクルト本社	51.2	16.2	16	11.6	17	6.6	20	14.1	18	2.7	18	22
19	2801 キッコーマン	48.7	15.0	18	9.6	21	7.0	18	14.5	17	2.6	19	18
20	2206 江崎グリコ	47.3	15.2	17	10.4	20	7.2	16	11.4	20	3.1	15	21
21	2212 山崎製パン	44.5	14.8	19	11.4	19	6.0	21	10.6	21	1.7	21	23
	評価対象企業評価平均点	65.17	21.39		13.71		7.80		18.11		4.16		

2022年度評価項目および配点 (食品)

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（34点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動に注力していますか。経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。また、経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	20
(2)社外取締役との対話	
・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	4
(3)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、業績の好不調にかかわらず、IR担当者等と有益なディスカッションができますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明資料等における開示	
・決算の実績および業績の見通しについて、収益および財務分析に必要な定量情報が十分に記載されていますか。例えば、連結の事業種類別・地域別の業績および利益増減要因（単価・数量等）、為替および原材料などの相場変動の感応度等。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)説明会、インタビューにおける開示	
・決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
3. フェア・ディスクロージャー（10点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。また、日英両言語でタイムリーに提供していますか。	5
(2)リモートツールによる情報提供	
・新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか。	5
4. ESGに関連する情報の開示（28点）	配点
①企業価値の向上につながるようなマテリアリティの設定が行われ、開示されていますか。	8
②ESGに関する十分なデータ、目標達成に向けての具体的な戦略、および進捗状況が開示されていますか。	10
③ESGに関する取組みについて、統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていますか。	10
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（8点）	配点
①携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していますか。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等。	4
②有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していますか。 【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	4

食品専門部会委員

部 会 長	守田 誠	大和証券
部会長代理	角山 智信	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	五十崎 義将	東京海上アセットマネジメント
	鎌田 聡	大和アセットマネジメント
	マイケル ジェイコブス	ティー・ロウ・プライス・ジャパン
	高木 直実	SMBC 日興証券
	藤原 悟史	野村証券

評価実施アナリスト（21名）

荒木 健次	東海東京調査センター	田畑 剛	野村アセットマネジメント
五十崎 義将	東京海上アセットマネジメント	田村 真一	極東証券経済研究所
大庭 脩平	シティグループ証券	角山 智信	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
奥下 諒	三井住友トラスト・アセットマネジメント	勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント
鎌田 聡	大和アセットマネジメント	仁井田 将	りそなアセットマネジメント
高 英詞	野村アセットマネジメント	藤原 悟史	野村証券
マイケル ジェイコブス	ティー・ロウ・プライス・ジャパン	三浦 信義	シティグループ証券
篠崎 智明	QUICK	守田 誠	大和証券
住母家 学	岡三証券	八並 純子	ニッセイ アセット マネジメント
武井 智史	三井住友トラスト・アセットマネジメント	和田 一真	三井住友 DS アセットマネジメント
田中 英太郎	SOMPO アセットマネジメント		

（注）上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

化学・繊維

1. 評価対象企業（21 社）

帝人、東レ、クラレ、旭化成、昭和電工、住友化学、日産化学、東ソー、デンカ、信越化学工業、エア・ウォーター、日本酸素ホールディングス、カネカ、三菱瓦斯化学、三井化学、JSR、三菱ケミカルグループ（注 1）、ダイセル、積水化学工業、UBE（注 2）、日本ペイントホールディングス

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注 1）三菱ケミカルホールディングスが商号を変更した（2022 年 7 月）。

（注 2）宇部興産が商号を変更した（2022 年 4 月）。

2. 評価方法

（1）評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	29
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	5	25
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	7
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	26
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	13
計		17	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 30 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

（2）評価実施アナリストは 28 名（所属先 22 社）である。（氏名等は 31 頁参照）

3. 評価結果

（1）総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は 29 頁参照）

- ① 本年度は、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更したことに伴い、同分野を中心に項目内容・配点を大幅に見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 70.7 点（昨年度 68.6 点）、総合評価点の標準偏差は 6.6 点（昨年度 7.6 点）となった。
- ② 評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 73%（昨年度 70%）、説明会等が 72%（昨年度 70%）、フェア・ディスクロージャーが 76%（昨年度 71%）、ESG 関連が 67%（昨年度 66%）、自主的情報開示が 68%（昨年度 62%）となった。
- ③ 評価項目について見ると、最も高い平均得点率となったのは、次の項目（自主的情報開示の中の 1 項目）であった。

- ・ 「開示された公表情報について、E-mail 等を利用して能動的かつ適切に周知していますか」（平均得点率 87%〔昨年度 75%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：50%1 社・70%1 社・80%3 社・90%14 社・

100%2社)

④ 一方、次の項目（自主的情報開示の中の1項目）が、最も低い水準となった。

- ・「工場見学、ESG説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していますか」（平均得点率 63%〔昨年度 54%〕）（得点率：30%台 1社・40%台 2社・50%台 6社・60%台 6社・70%台 4社・80%2社）

⑤ ESG関連の3項目（本年度の新設項目）は、次のとおりとなった。

- (a) 「環境（E）関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していますか」（平均得点率 70%）（得点率：50%台 2社・60%台 10社・70%台 6社・80%台 3社）
- (b) 「社会（S）に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか」（平均得点率 65%）（得点率：50%台 3社・60%台 13社・70%台 4社・80%台 1社）
- (c) 「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンス（G）の有効性が示されていますか。（平均得点率 64%）（得点率：50%台 7社・60%台 10社・70%台 3社・80%台 1社）

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 三井化学（ディスクロージャー優良企業〔2回連続6回目〕、総合評価点 83.3点〔昨年度比+0.9点〕）

- ① 同社は、経営陣のIR姿勢等（得点率〈以下省略〉87%）、ESG関連（78%）が第1位、フェア・ディスクロージャー（83%）、自主的情報開示（85%）が同得点第1位、説明会が第2位（83%）となった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「経営陣のIR姿勢」の2項目が共に最も高い評価となった。これらに関連して、経営陣が経営方針および目標を定量的・定性的に十分説明していること、事業説明会やスモールミーティング等を積極的に開催し、投資家との対話機会が豊富であることを評価する声が寄せられた。また、中期経営計画とESGが一貫した文脈で述べられており、整合性が高く、説得力があるとの声もあった。「IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができること。経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮されていること」も高い評価となった。「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」は、同得点第3位となった。これらに関連して、定量情報の開示が充実しており、短中期の業績変動要因、会社の方向性、長期戦略等に関する質の高い議論ができることを評価する声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「インタビューにおける補足説明が十分であること」が同得点第1位となった。また、「決算説明会における会社側の説明は十分であること」（第2位）も評価された。これらに関連して、四半期業績の説明力が高い、インタビューでの説明が充実しているとの声があり、また、決算説明会に加え経営概況説明会を開催し、短中期の業績動向と中長期の方向性を丁寧に伝える姿勢を評価する声も寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること」が第2位となった。また、「状況変化に応じて、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていること」も、同得点第2位となった。これらの結果、この分野において同得点第1位となった。これらに関連して、決算説明会の音声再生や要旨を日英両言語で遅滞なく公表し、質疑応答にも対応していることを評価する声が寄せられたほか、資料が見やすく、質疑応答の要旨集もわかりやすいとの声もあった。
- ⑤ ESG関連においては、「環境（E）関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していること」および「社会（S）に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」が、共に最も高い評価となった。また、「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること。また、社外取締役を含め、ガバナンス（G）の有効性が示されていること」も同得点第2位となった。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、長期経営計画「VISION2030」策定の過程でマテリアリティを見直し、事業活動とサステナビリティへの取組みが不可分であることを明確に示していること、財務

目標と同様に非財務目標も定量化し KPI を設定し、進捗実績や実績を統合報告書および HP 等で公表していること、また資本政策や財務戦略を明確に示していることを評価する声があった。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していること」が最も高い評価となり、昨年度に比べ得点率を上げた。「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること。また、統合報告書において非財務情報（ESG 情報等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」も高く評価された。これらの結果、この分野において同得点第 1 位となった。これらに関連して、事業戦略説明会、ESG 説明会、およびおおよびスモールミーティングなどの開催を評価する声があった。また、過去、現在および未来の変化、立ち位置が明確に説明されていることを評価する声も寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 日産化学（総合評価点 80.8 点〔昨年度比+2.9 点〕、昨年度第 3 位）

- ① 同社は、説明会等が第 1 位（88%）、経営陣の IR 姿勢等が第 2 位（85%）、ESG 関連が第 3 位（75%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 4 位（80%）、自主的情報開示が同得点第 7 位（71%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示の得点率が大幅に改善し、順位が大きく上昇した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」の 2 項目が共に最も高い評価となった。これらに関連して、IR 部門が定性面、定量面ともに各種情報をよく把握しており、質の高い議論ができること、増減益分析や製品別売上等の詳細なデータが開示されていることを評価する声が寄せられた。「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IR に積極的に関与していること」も高く評価された。また、「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」（第 6 位）も昨年度に比べ得点率を上げた。これらに関連して、副社長が個別取材対応の中で企業価値向上策や経営方針を明確に説明していること、事業部責任者による IR の機会が増加していることを評価する声が寄せられた。なお、財務関連の説明は素晴らしいが、トップの登壇を一層望む声があった。
- ③ **説明会等**においては、5 項目全てが最も高い評価（同得点第 1 位を含む）となった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、質、量ともに開示内容が充実している、取材時の補足資料に詳細なデータが記載されているとの声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「状況変化に応じて、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていること」（同得点第 5 位）は、評価された。また、「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること」は、同得点第 3 位となった。これらに関連して、IR 資料の完全日英対応を評価する声があった。なお、説明会のリプレイを求める声もあった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること。また、社外取締役を含め、ガバナンス（G）の有効性が示されていること」が最も高い評価となった。「環境（E）関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していること」は、第 7 位となった。これらに関連して、排出量削減目標前倒し、および配当性向維持の開示を評価する声が寄せられた。一方、「社会（S）に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」（同得点第 11 位）は、平均得点率と同程度にとどまったが、S に関する取組みや開示の改善が著しいとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していること」は第 6 位となり、昨年度と比べ得点率が改善した。これに関連して、機能性材料 R&D 説明の開催を評価する声があった。なお、「開示された公表情報について、E-mail 等を利用して能動的かつ適切に周知していること」は、平均得点率に達しなかった。これに関連して、メール配信を求める声があった。

第3位 住友化学（総合評価点 78.9 点〔昨年度比－0.1 点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、自主的情報開示が同得点第1位（85%）、経営陣の IR 姿勢等が同得点第3位（82%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第4位（80%）、ESG 関連が第5位（73%）、説明会等が第6位（78%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」は第2位となった。また、「IR 部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができること。経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮されていること」も高く評価された。これらに関連して、マネジメントが IR に積極的に関与していること、スモールミーティングなどを通じて投資家との対話機会が豊富であることを評価する声が寄せられた。また、ESG 説明会の継続的な開催を評価する声もあった。なお、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」は、平均得点率に達しなかった。これに関連して、有益なディスカッションはできるが、開示する情報に一部制限があるとの声もあった。
- ③ 説明会等においては、「インタビューにおける補足説明が十分であること」（第3位）および「決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が、T Dnet 経由またはウェブサイトで入手できること」（同得点第3位）が評価された。また、そのほかの3項目も平均得点率を上回った。これに関連して、インタビューでの説明が充実しているとの声があるとともに、一部の事業で定性的にとどまらず定量的情報の開示を望む声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「状況変化に応じて、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていること」が、高く評価された。これに関連して、決算説明会の要旨が、質疑応答も含め日英両言語で遅滞なく提供され、音声再生の期間も長いこと、また、説明会もハイブリッドで対応するなど先進的であることを評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「環境（E）関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していること」（同得点第2位）が評価された。また、「社会（S）に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」は同得点第3位となった。「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること。また、社外取締役を含め、ガバナンス（G）の有効性が示されていること」（同得点第9位）は、平均得点率と同程度となった。これらに関連して、住友の事業精神、経営理念からサステナビリティ推進基本原則、企業行動憲章、コーポレートステートメントまで一貫した ESG への取組みの説明を評価する声が寄せられたほか、マテリアリティや具体的かつ定量的な KPI も設定され、実効性の高い ESG の推進状況の開示を評価する声もあった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「統合報告書、ファクトブック等の内容は充実していること。また、統合報告書において非財務情報（ESG 情報等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が最も高い評価となり、90%以上の得点率となった。また、「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していること」は第2位となった。これらの結果、この分野において同得点第1位となった。これらに関連して、インベスターズハンドブック、統合報告書およびサステナビリティデータブックの充実を評価する声が寄せられた。また、ESG 説明会や IR Day 等の開催を評価する声があった。

以上

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表（化学・繊維）

（単位：点）

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目4 (配点29点)		評価項目5 (配点25点)		評価項目2 (配点7点)		評価項目3 (配点26点)		評価項目3 (配点13点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4183 三井化学	83.3	25.3	1	20.8	2	5.8	1	20.3	1	11.1	1	1
2	4021 日産化学	80.8	24.6	2	22.0	1	5.6	4	19.4	3	9.2	7	3
3	4005 住友化学	78.9	23.8	3	19.5	6	5.6	4	18.9	5	11.1	1	2
4	3407 旭化成	77.7	23.2	6	19.0	7	5.8	1	19.5	2	10.2	3	4
4	4204 積水化学工業	77.7	23.5	5	20.2	3	5.5	7	19.0	4	9.5	5	5
6	4208 UBE	76.0	23.8	3	19.6	5	5.8	1	18.1	8	8.7	13	6
7	4185 JSR	73.8	21.7	7	18.6	8	5.4	10	18.5	6	9.6	4	7
8	4061 デンカ	72.6	21.5	8	20.1	4	5.3	12	17.3	11	8.4	14	9
9	4612 日本ペイントホールディングス	70.5	21.0	11	17.3	12	5.5	7	17.6	10	9.1	9	12
10	4188 三菱ケミカルグループ	70.3	20.6	13	16.5	17	5.6	4	18.3	7	9.3	6	10
11	4182 三菱瓦斯化学	69.6	21.3	9	17.9	10	5.2	14	16.3	14	8.9	11	14
12	4004 昭和電工	69.4	20.2	14	18.2	9	5.5	7	16.7	13	8.8	12	8
12	4202 ダイセル	69.4	21.1	10	17.1	14	5.1	15	16.9	12	9.2	7	17
14	3401 帝人	69.1	20.1	15	16.8	16	5.4	10	17.8	9	9.0	10	11
15	4091 日本酸素ホールディングス	66.9	20.8	12	17.3	12	5.3	12	16.1	17	7.4	18	16
16	4042 東ソー	66.0	19.9	16	17.6	11	5.0	16	15.4	19	8.1	15	15
17	3402 東レ	63.9	18.4	19	16.2	18	5.0	16	16.2	15	8.1	15	13
18	4088 エア・ウォーター	63.8	19.3	18	17.0	15	5.0	16	15.1	20	7.4	18	18
19	4063 信越化学工業	63.1	19.7	17	15.2	20	5.0	16	16.2	15	7.0	21	19
20	3405 クレレ	61.8	18.1	21	15.4	19	5.0	16	16.1	17	7.2	20	21
21	4118 カネカ	59.6	18.3	20	14.7	21	4.7	21	14.4	21	7.5	17	20
	評価対象企業評価平均点	70.69	21.25		17.95		5.34		17.34		8.81		

2022年度評価項目および配点（化学・繊維）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（29点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
②経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
①IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができますか。また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
②会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	3
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（25点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	7
②インタビューにおける補足説明は十分ですか。	7
(2)説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示	
①決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が、T Dnet経由またはウェブサイト入手できますか。	3
②説明会資料等において投資家が求める情報が継続性やセグメント別情報も含め十分に開示されていますか。	5
(3)四半期情報開示	
・四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	3
3. フェア・ディスクロージャー（7点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。	5
(2)速やかな情報提供	
・状況変化に応じて、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	2
4. ESGに関連する情報の開示（26点）	配点
①環境（E）関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していますか。	10
②社会（S）に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。	6
③資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンス（G）の有効性が示されていますか。	10
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（13点）	配点
①工場見学、ESG説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していますか。【過去1年間を目安に評価】【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	7
②統合報告書、ファクトブック等の内容は充実していますか。また、統合報告書において非財務情報（ESG情報等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていますか。【充実していた資料名・取組事例等をコメント欄に記入して下さい】	5
③開示された公開情報について、E-mail等を利用して能動的かつ適切に周知していますか。	1

化学・繊維専門部会委員

部 会 長	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券
部会長代理	山田 幹也	みずほ証券
	岡寄 茂樹	野村証券
	木村 光宏	野村アセットマネジメント
	澤砥 正美	SBI 証券
	野口 英彦	アセットマネジメント One
	渡辺 勇仁	大和アセットマネジメント

評価実施アナリスト（28名）

石井 宏	朝日ライフ アセットマネジメント	中原 周一	東海東京調査センター
伊藤 健悟	QUICK	西平 孝	岡三証券
今津 拓洋	アセットマネジメント One	西脇 秀敏	三菱 UFJ 信託銀行
上迫 和也	三井住友トラスト・アセットマネジメント	野口 英彦	アセットマネジメント One
岡寄 茂樹	野村証券	福島 大輔	野村証券
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
河井 啓朗	明治安田アセットマネジメント	南 純一	りそなアセットマネジメント
木村 光宏	野村アセットマネジメント	宮本 剛	SMBC 日興証券
河野 孝臣	野村証券	百田 史哉	三井住友トラスト・アセットマネジメント
阪口 和輝	大和証券	山田 幹也	みずほ証券
佐野 智太郎	JP モルガン証券	吉田 篤	みずほ証券
澤砥 正美	SBI 証券	渡辺 勇仁	大和アセットマネジメント
高橋 豊	極東証券経済研究所	渡邊 亮一	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
坪井 暁	ニッセイ アセット マネジメント	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

トイタリー・化粧品

1. 評価対象企業（9社）

花王、資生堂、ライオン、ファンケル、コーセー、ポーラ・オルビスホールディングス、
小林製薬、ピジョン、ユニ・チャーム

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	3	27
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	25
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	8
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	4	25
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	2	15
計		15	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は37頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

(2) 評価実施アナリストは22名（所属先19社）である。（氏名等は38頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は36頁参照）

- ① 本年度は、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連をESG関連に名称変更したことに伴い、同分野を中心に項目内容・配点を幅広く見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は73.5点（昨年度71.4点）、総合評価点の標準偏差は4.6点（昨年度4.5点）であった。
- ② 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣のIR姿勢等が69%（昨年度75%）、説明会等が73%（昨年度69%）、フェア・ディスクロージャーが88%（昨年度79%）、ESG関連が76%（昨年度72%）、自主的な情報開示が71%（昨年度67%）となり、経営陣のIR姿勢等以外の4分野は、昨年度を上回った。
- ③ 評価項目について見ると、全15項目中、フェア・ディスクロージャーの次の3項目とESG関連の2項目（下記⑤の(a)(b)）が、平均得点率で80%以上となり、高水準となった。
 - (a) 「（ウェブサイト等における情報提供について）質疑応答も掲載していますか」（平均得点率100%〔昨年度同率〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：全社満点）
 - (b) 「（ウェブサイト等における情報提供について）英語対応していますか」（平均得点率100%〔昨年度89%〕）（得点率：全社満点）
 - (c) 「経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」（平均得点率89%〔昨年度86%〕）（得点率：80%台4社・90%台5社）

④ 一方、次の2項目（経営陣のIR姿勢等の中の1項目、フェア・ディスクロージャーの中の1項目）は、平均得点率が50%台以下となり、低水準となった。

- (a) 「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」(平均得点率19%) (得点率：10%台2社・20%台7社)
- (b) 「(ウェブサイト等における情報提供について)説明会等のリプレイを実施していますか」(平均得点率56%〔昨年度44%〕) (得点率：0点4社・満点5社)

⑤ ESG関連の4項目は、次のとおりとなった（(a)(b)(d)は、本年度の新設項目）。

- (a) 「環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか」(平均得点率80%) (得点率：70%台4社・80%台3社・90%台2社)
- (b) 「社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか」(平均得点率81%) (得点率：60%台1社・70%台2社・80%台5社・90%台1社)
- (c) 「中期経営計画や長期ビジョン（例えば目標とするROE等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか」(平均得点率72%〔昨年度69%〕) (得点率：60%台2社・70%台6社・80%台1社)
- (d) 「社外取締役を含む取締役の選定理由を説明し、取締役会の実効性が示されていますか」(平均得点率74%) (得点率：全社70%台)

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 ファンケル（ディスクロージャー優良企業〔2回連続2回目〕、総合評価点：81.8点〔昨年度比+2.9点〕）

- ① 同社は、経営陣のIR姿勢等（得点率（以下省略）79%）、説明会等（84%）、フェア・ディスクロージャー（95%）、自主的情報開示（84%）が第1位となり、ESG関連が同得点第3位（76%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示の得点率が大きく上昇した。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「経営陣がIR活動に注力していること、また、経営陣がIR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること」および「IR部門に十分な情報が蓄積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者と有益なディスカッションができていくこと」が、共に最も高い評価となり、これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、経営陣のIR姿勢は積極的、投資家の意見を取締役に持ち込み議論できている、また、IR担当者は経営との距離が近く、マネジメントと同レベルの情報を持っているなどの声が寄せられた。なお、「社外取締役との対話」については、低い得点率となった。
- ③ 説明会等においては、「決算短信と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が入手できること」が最も高い評価となった。また、「決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」（第2位）も高く評価された。これらに関連して、チャネル別、化粧品・サブリで分類されており情報量は十分、不足があれば調査後に追加で回答してくれるなどの声が寄せられた。なお、広告宣伝の効果を定量的に示すことを望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていること」が最も高く評価された。また、ウェブサイト等における情報提供として、「説明会等のリプレイの実施」、「質疑応答の掲載」、および「英語対応」の全てが満点評価となった。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、経営陣が投資家・アナリストとの積極的な対話姿勢を続けていくことを望む声があった。
- ⑤ ESG関連においては、「中期経営計画や長期ビジョン（例えば目標とするROE等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」は第2位となった。一方、「社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していること」は同得点第5位、「環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開

示していること」は第 6 位となった。なお、「社外取締役を含む取締役の選定理由を説明し、取締役会の実効性が示されていること」(同得点第 8 位)については、最も低い評価となった。これに関連して、取締役の選定理由に関し、親会社出身の社外取締役の選定について説明が不足しているとの声や、社外取締役との対話の場を求める声が寄せられた。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、「工場見学、事業部説明会、新製品発表会等(アナリスト主催を含む)を実施し、かつその内容が充実していること」が最も高い評価となった。また、「投資家にとって重要と判断される事項(例えば、業績修正発表、新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、COVID-19、各種災害の影響等)の開示が迅速かつ十分であること」(第 3 位)も評価された。これらの結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、ニュースメールの発信はとてもよい、関西物流センターの見学会は見ごたえがあったなどの声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 ユニ・チャーム(総合評価点：77.5 点〔昨年度比+4.0 点〕、昨年度第 3 位)

- ① 同社は、ESG 関連が第 1 位(82%)、経営陣の IR 姿勢等が第 2 位(78%)、説明会等が第 3 位(75%) 自主的情報開示が第 4 位(73%)、フェア・ディスクロージャーが第 9 位(76%) となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が IR 活動に注力していること、また、経営陣が IR 活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること」が第 2 位となった。また、「IR 部門に十分な情報が蓄積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR 担当者と有益なディスカッションができていくこと」(第 3 位)は、85%以上の得点率となった。これらに関連して、新商品発表会等、マネジメントが積極的に情報発信するようになった、業績のみならず、事業戦略についても IR 担当者とのコミュニケーションである程度カバーできるとの声が寄せられた。なお、「社外取締役との対話」については、低い得点率となった。
- ③ **説明会等**においては、「決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」(第 3 位)が評価された。「決算短信と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が入手できること」は同得点第 3 位となった。これに関連して、ディスカッションシートの情報は有益との声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」が平均得点率を下回った。これに関連して、ディスカッションシートの英語対応など幅広い提供を望む声が寄せられた。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「中期経営計画や長期ビジョン(例えば目標とする ROE 等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」が最も高く評価され、「環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していること」は同得点第 1 位となった。また、「社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していること」(第 2 位)も高い評価となった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、株主還元方針は明確で中長期的な会社の方向性も理解しやすい、経営戦略と ESG を関連付けて説明できているとの声が寄せられたほか、取締役会の実効性、取締役の選定理由ともに記載が充実しているとの声もあった。なお、ESG 説明会、社外取締役との双方向の対話の場を求める声が寄せられた。「社外取締役を含む取締役の選定理由を説明し、取締役会の実効性が示されていること」は同得点第 4 位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「投資家にとって重要と判断される事項(例えば、業績修正発表、新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、COVID-19、各種災害の影響等)の開示が迅速かつ十分であること」が同得点第 1 位となった。また、「工場見学、事業部説明会、新製品発表会等(アナリスト主催を含む)を実施し、かつその内容が充実していること」は平均得点率を上回った。これらに関連して、原材料高の影響額を予め示したこと、オンラインでの成長戦略共有会を評価する声があった。なお、内外の工場見学開催を求めるとの声も寄せられた。

第3位 ポーラ・オルビスホールディングス（総合評価点：76.7点〔昨年度比+3.5点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャー（94%）、説明会等（83%）が第2位となり、ESG関連が同得点第3位（76%）、経営陣のIR姿勢等が第4位（71%）、自主的情報開示が第7位（67%）となった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「IR部門に十分な情報が蓄積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者と有益なディスカッションができていること」（第2位）が高く評価された。一方で、「経営陣がIR活動に注力していること、また、経営陣がIR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること」は平均得点率に達しなかった。これらに関連して、IR担当者は経営との距離も近く、有益な議論ができるとの声があった。なお、マネジメントとの対話の一層の機会や、市場の意見を経営活動に反映することを望む声が寄せられた。なお、「社外取締役との対話」については、低い得点率となった。
- ③ 説明会等においては、「決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」が最も高い評価となった。また、「決算短信と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が入手できること」（第2位）も評価された。これらに関連して、定量面の開示等、説明会資料が充実している、質疑応答への回答が明確との声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、ウェブサイト等における情報提供として、「説明会等のリプレイの実施」、「質疑応答の掲載」、および「英語対応」の全てが満点評価となった。また、「経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」（同得点第4位）は90%以上の得点率となり、昨年度に続き高水準を維持した。
- ⑤ ESG関連においては、「社外取締役を含む取締役の選定理由を説明し、取締役会の実効性が示されていること」は同得点第7位となった。「社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していること」および「中期経営計画や長期ビジョン（例えば目標とするROE等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」は、共に第4位であった。これらに関連して、取締役会の実効性と資本政策についての説明を望む声があった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、COVID-19、各種災害の影響等）の開示が迅速かつ十分であること」は、平均得点率と同程度となった。なお、「工場見学、事業部説明会、新製品発表会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容が充実していること」については、昨年度に比べ得点率が改善したものの、平均得点率に達しなかった。これに関連して、セルサイドだけでなく、バイサイド向けにもオンラインを利用した情報の提供を望む声が寄せられた。

以 上

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (トイラー・化粧品)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点 27点)		評価項目2 (配点 25点)		評価項目4 (配点 8点)		評価項目4 (配点 25点)		評価項目2 (配点 15点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4921 ファンケル	81.8	21.4	1	21.1	1	7.6	1	19.1	3	12.6	1	1
2	8113 ユニ・チャーム	77.5	21.0	2	18.8	3	6.1	9	20.6	1	11.0	4	3
3	4927 ボーラ・オルビスホールディングス	76.7	19.2	4	20.8	2	7.5	2	19.1	3	10.1	7	4
4	4911 資生堂	74.2	19.3	3	17.6	5	7.4	3	19.1	3	10.8	5	2
5	4967 小林製薬	73.5	18.0	7	18.2	4	6.6	6	18.4	7	12.3	2	5
6	4912 ライオン	71.4	18.4	5	17.5	6	7.4	3	19.2	2	8.9	9	8
7	4922 コーセー	71.0	18.1	6	17.3	7	6.6	6	17.9	9	11.1	3	9
8	4452 花王	68.0	15.8	9	15.3	9	7.3	5	19.1	3	10.5	6	7
9	7956 ビジョン	67.7	16.6	8	17.3	7	6.5	8	18.1	8	9.2	8	6
	評価対象企業評価平均点	73.52	18.64		18.21		7.00		18.95		10.72		

2022年度評価項目および配点（トイレタリー・化粧品）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（27点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動に注力していますか。また、経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者と有益なディスカッションができていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(3)社外取締役との対話	
・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	2
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（25点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)説明資料等（短信および補足資料を含む）における開示	
・決算短信と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が入手できますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
3. フェア・ディスクロージャー（8点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
(2)ウェブサイト等における情報提供	
①説明会等のリプレイを実施していますか。	1
②質疑応答も掲載していますか。	1
③英語対応していますか。	1
4. ESGに関連する情報の開示（25点）	配点
①環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。	5
②社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。	5
③中期経営計画や長期ビジョン（例えば目標とするROE等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
④社外取締役を含む取締役の選定理由を説明し、取締役会の実効性が示されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（15点）	配点
①工場見学、事業部説明会、新製品発表会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していますか。 【過去1年間を目安に評価。開催なし 0点】	10
②投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、COVID-19、各種災害の影響等）の開示は、迅速かつ十分ですか。	5

トイレットリー・化粧品専門部会委員

部 会 長	佐藤 和佳子	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
部会長代理	広住 勝朗	大和証券
	長田 佳三	JP モルガン・アセット・マネジメント
	川本 久恵	UBS 証券
	高口 伸一	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	夏目 宏之	東京海上アセットマネジメント
	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント

評価実施アナリスト（22 名）

伊藤 健悟	QUICK	佐藤 有	SMBC 日興証券
大庭 脩平	シティグループ 証券	田村 真一	極東証券経済研究所
大花 裕司	岡三証券	戸田 浩司	りそなアセットマネジメント
長田 佳三	JP モルガン・アセット・マネジメント	仲西 恭子	アセットマネジメント One
鎌田 聡	大和アセットマネジメント	夏目 宏之	東京海上アセットマネジメント
川本 久恵	UBS 証券	兵庫 真一郎	三菱 UFJ 信託銀行
栗山 乾一	三井住友トラスト・アセットマネジメント	広住 勝朗	大和証券
桑原 明貴子	JP モルガン証券	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
高 英詞	野村アセットマネジメント	三浦 信義	シティグループ 証券
高口 伸一	三井住友トラスト・アセットマネジメント	宮迫 光子	ジェフリース 証券会社 東京支店
佐藤 和佳子	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	李 想	野村アセットマネジメント

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

医薬品

1. 評価対象企業（19 社）

エムスリー、協和キリン、武田薬品工業、アステラス製薬、住友ファーマ（注）、塩野義製薬、日本新薬、中外製薬、エーザイ、小野薬品工業、参天製薬、テルモ、JCR ファーマ、第一三共、大塚ホールディングス、サワイグループホールディングス、シスメックス、オリンパス、朝日インテック

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）大日本住友製薬が商号を変更した（2022 年 4 月）。

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	10
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	15
計		9	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 44 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

（2） 評価実施アナリストは 41 名（所属先 30 社）である。（氏名等は 45 頁参照）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は 43 頁参照）

- ① 本年度は、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 75.0 点（昨年度 76.6 点）、総合評価点の標準偏差は 7.6 点（昨年度 7.2 点）であった。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 78%（昨年度 79%）、説明会等が 76%（昨年度 79%）、フェア・ディスクロージャーが 83%（昨年度 85%）、ESG 関連が 71%（昨年度 74%）、自主的情報開示が 71%（昨年度 70%）となった。
- ③ 評価項目について見ると、全 9 項目のうち次の 2 項目（経営陣の IR 姿勢等の中の 1 項目 (b) およびフェア・ディスクロージャーの 1 項目 (a)）において、平均得点率が 80%以上となり（昨年度は 3 項目）、高水準となった。

（a）「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」（平均得点率 83%〔昨年度 85%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：70%台 5 社・

80%台 14 社)

- (b) 「IR 部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR 担当者と有益なディスカッションができていますか」(平均得点率 80% [昨年度同率]) (得点率: 60%台 2 社・70%台 4 社・80%台 13 社)

- ④ 一方、次の 4 項目 (ESG 関連の 3 項目 (a) (b) (d) および自主的情報開示の 1 項目 (c)) は、70%台前半にとどまった。

- (a) 「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか」(平均得点率 70% [昨年度同率]) (得点率: 30%台 1 社・60%台 7 社・70%台 10 社・80%台 1 社)
- (b) 「社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか」(平均得点率 71% [昨年度 81%]) (得点率: 40%台 1 社・50%台 1 社・60%台 6 社・70%台 9 社・80%台 2 社)
- (c) 「注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介する機会を設けており、それは有益でしたか」(平均得点率 71% [昨年度 73%]) (得点率: 30%台 1 社・40%台 1 社・60%台 5 社・70%台 9 社・80%台 2 社・90%台 1 社)
- (d) 「財務情報と非財務情報 (環境や社会に関する情報を含む) を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいますか」(平均得点率 72% [昨年度 68%]) (得点率: 40%台 1 社・60%台 5 社・70%台 10 社・80%台 3 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 第一三共 (ディスクロージャー優良企業 [初受賞]、総合評価点 84.0 点 [昨年度比 +1.7 点]、昨年度第 6 位)

- ① 同社は、ESG 関連 (得点率 (以下省略) 80%)、自主的情報開示 (91%) が第 1 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位 (88%)、経営陣の IR 姿勢等 (86%)、説明会等 (82%) が第 3 位となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて順位が上がった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」(第 3 位) および「IR 部門の機能、基本スタンス」(同得点第 3 位) が共に、85%以上の得点率となった。これらに関連して、CEO や CFO など経営陣の IR 活動に対する積極的な姿勢を評価する声が寄せられたほか、IR 部門の担当者の経験が豊富で対話が充実しているとの声や、開発品の状況を積極的に開示する姿勢は評価できるとの声もあった。なお、新商品の販売状況の一層の説明を望む声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会における会社側の説明 (質疑応答を含む) が十分であること」(同得点第 3 位) および「企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」(第 4 位) が共に、80%以上の得点率となった。これらに関連して、重要な学会発表後の R&D 説明会の開催を評価する声が寄せられたほか、R&D の説明資料が充実しているとの声があった。なお、業績動向についての情報、分析の一層の開示を望む声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていること」は、同得点第 1 位となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」が、最も高い評価となった。また、「社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること」および「財務情報と非財務情報 (環境や社会に関する情報を含む) を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいること」は共に、第 3 位となった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、統合報告書や ESG 説明会における、非財務情報と企業価値向上ストーリーの説明を評価する声が寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示の「注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介する機会を設けており、それが有益であること」は、最も高い評価となり、90%以上の得点率であった。これに関連して、R&D 説明会、個別の薬剤説明会を評価する声が寄せられた。また、ASCO2022 (米国臨床腫瘍学会 2022 年次総会) に関する説明会の内容は投資家のニーズを満たすものであるとの声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 塩野義製薬（総合評価点 82.2 点〔昨年度比－1.7 点〕、昨年度第 3 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（88%）、説明会等（84%）が第 1 位、ESG 関連（77%）、自主的情報開示（83%）が第 3 位、フェア・ディスクロージャーが第 17 位（77%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が、最も高く評価された。これに関連して、経営トップの IR に対する熱意や姿勢を評価する声が多く寄せられた。また、説明会や個別面談などマネジメントとの対話の機会が多いことを評価する声もあった。「IR 部門の機能、基本スタンス」（同得点第 7 位）も、80%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。
- ③ 説明会等においては、「説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）が十分であること」が最も高い評価となり、「企業分析に必要なかつ十分な情報が得られること」も、同得点第 1 位となった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、直近の重要イベントに関して詳細な開示がなされている、トピックに対応したプレゼンテーションは理解しやすいとの声が寄せられた。なお、中長期の業績見通しに関する説明や、海外子会社に関する情報の充実を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていること」は、昨年度に続き、平均得点率に達しなかった。これに関連して、説明会のスクリプトのウェブ掲載を評価する声が寄せられた一方で、重要情報に関してメディア先行の情報発信が見られるとの声もあった。
- ⑤ ESG 関連においては、「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」が、同得点第 3 位となった。また、「財務情報と非財務情報（環境や社会に関する情報を含む）を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいること」が第 4 位となった。これらに関連して、サステナビリティ関連の取組みと企業価値向上とを関連させた説明を評価する声が寄せられた。なお、マテリアリティの説明は詳細だが、財務情報との連携が不十分との声もあった。「社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること」は、同得点第 5 位となった。
- ⑥ 自主的情報開示の「注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介する機会を設けており、それが有益であること」（第 3 位）は評価された。これに関連して、R&D 説明会、COVID-19 治療薬・ワクチンに関する説明会を評価する声があった。

第 3 位 中外製薬（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、総合評価点 82.1 点〔昨年度比－2.3 点〕、昨年度第 2 位〔一昨年度第 2 位〕）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（86%）、説明会等（83%）、自主的情報開示（84%）が第 2 位、ESG 関連が同得点第 5 位（76%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 6 位（87%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」（第 2 位）および「IR 部門の機能、基本スタンス」（同得点第 3 位）が共に、高い評価となった。これらの結果、この分野において第 2 位となった。これらに関連して、経営トップの IR スタンスが積極的であり、市場が求める情報を提供しようとする姿勢も評価できるとの声が寄せられた。また、経営トップへのアクセスが良くなっている、IR 部門のスタッフの質が高いとの声もあった。
- ③ 説明会等においては、「企業分析に必要なかつ十分な情報が得られること」が、同得点第 1 位となり、「説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）は十分であること」（同得点第 3 位）も評価された。これらの結果、この分野において第 2 位となった。これらに関連して、開示資料は充実しており、財務情報の開示も工夫しているとの声が寄せられた。また、ロイヤリティに関する図表も理解しやすいとの声もあった。なお、中期的なマイルストーンや KPI に対する進捗状況、主力製品の売上高見通しなどについて継続的なアップデートを望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていること」（同得点第 6 位）は、85%以上の得点率となった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「財務情報と非財務情報（環境や社会に関する情報を含む）を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいること」が、最も高い評価となった。これに関連して、3 年間の中期経営計画は廃止されたが、持続的成長のための方策は示されているとの声や、財務情報と非財務情報の統合のレベルは高いとの声が寄せられた。「社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること」は、同得点第 5 位となった。なお、「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」（同得点第 14 位）は、平均得点率に達しなかった。これらに関連して、マテリアリティと対応する経営指標、KPI 設定が明確であるとの声がある一方、親会社との関係を含めてガバナンスに関する開示の充実を求める声や、市場との対話に関してさらに工夫を求める声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介する機会を設けており、それが有益であること」は第 2 位となった。これに関連して、製品上市時の説明会がタイムリーかつ有用との声や、R&D 説明会における次世代抗体や中分子創薬に係る技術の説明を評価する声があった。

同社は、3 回連続して第 2 位または第 3 位の評価を受けたので、「**高水準のディスクロージャーを連続維持している企業**」に選定した。

以 上

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (医薬品)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4568 第一三共	84.0	21.4	3	16.3	3	8.8	1	23.9	1	13.6	1	6
2	4507 塩野義製薬	82.2	22.0	1	16.8	1	7.7	17	23.2	3	12.5	3	3
3	4519 中外製薬	82.1	21.5	2	16.5	2	8.7	6	22.8	5	12.6	2	2
4	4503 アステラス製薬	80.7	21.3	4	16.1	4	8.8	1	22.8	5	11.7	4	1
5	4523 エーザイ	78.9	20.3	11	15.5	11	8.6	9	23.5	2	11.0	9	5
6	4502 武田薬品工業	78.4	20.4	8	15.7	7	8.8	1	22.1	7	11.4	7	13
7	4543 テルモ	78.3	20.4	8	15.6	8	8.7	6	22.0	8	11.6	6	8
7	7733 オリエンパス	78.3	20.8	6	15.5	11	8.8	1	22.9	4	10.3	13	9
9	6869 シスメックス	78.2	20.8	6	15.4	13	8.6	9	21.7	10	11.7	4	7
10	4151 協和キリン	76.6	19.7	12	15.6	8	8.7	6	21.8	9	10.8	10	12
10	7747 朝日インテック	76.6	21.2	5	16.1	4	8.1	13	20.9	14	10.3	13	10
12	4506 住友ファーマ	76.5	20.4	8	15.8	6	8.8	1	21.3	12	10.2	15	4
13	4528 小野薬品工業	74.3	18.8	14	15.6	8	8.1	13	21.1	13	10.7	11	15
14	4536 参天製薬	73.2	18.6	15	14.7	15	7.8	15	21.5	11	10.6	12	11
15	4552 JCRファーマ	71.5	17.9	16	14.5	17	7.8	15	20.0	16	11.3	8	16
16	4578 大塚ホールディングス	71.3	17.6	17	14.7	15	8.3	11	20.7	15	10.0	16	14
17	4887 サワイグループホールディングス	68.7	18.9	13	14.8	14	8.2	12	19.7	17	7.1	18	18
18	4516 日本新薬	64.9	15.5	18	13.2	18	7.5	18	19.0	18	9.7	17	19
19	2413 エムスリー	50.8	14.9	19	10.1	19	7.5	18	12.9	19	5.4	19	20
	評価対象企業評価平均点	75.04	19.60		15.19		8.33		21.26		10.66		

2022年度評価項目および配点（医薬品）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（25点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動に注力していますか。例えば、IR対応組織を整備したり（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等）、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策、ビジネスモデルやリスクを説明していますか。また、経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。	18
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者とは有益なディスカッションができていますか。	7
【経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンスに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会における開示	
・説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）は十分ですか。	10
(2)説明資料等における開示	
・企業分析に必要なかつ十分な情報が得られますか。	10
【説明会、インタビュー、説明資料等における開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	
3. フェア・ディスクロージャー（10点）	配点
・経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	10
【フェア・ディスクロージャーに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点
①社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。	10
②中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。	10
③財務情報と非財務情報（環境や社会に関する情報を含む）を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいますか。	10
【ESGに関連する情報の開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（15点）	配点
・注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介する機会を設けており、それは有益ですか。 [過去1年間を目安に評価]	15
【各業種の状況に即した自主的な情報開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	

医薬品専門部会委員

部 会 長	山口 秀丸	シティグループ証券
部会長代理	水野 要	東京海上アセットマネジメント
	酒井 文義	クレディ・スイス証券
	田中 洋	みずほ証券
	鳥居 彩	野村アセットマネジメント
	兵庫 真一郎	三菱 UFJ 信託銀行
	若尾 正示	JP モルガン証券

評価実施アナリスト（41名）

赤羽 高	東海東京調査センター	勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント
有沢 正一	岩井コスモ証券	徳本 進之介	SMBC 日興証券
今井 恵介	第一生命保険	鳥居 彩	野村アセットマネジメント
大野 剛	丸三証券	中名生 正弘	ジェフリース証券会社 東京支店
奥下 諒	三井住友トラスト・アセットマネジメント	兵庫 真一郎	三菱 UFJ 信託銀行
鎌田 聡	大和アセットマネジメント	藤原 重良	SOMPO アセットマネジメント
久保田 悟	三井住友トラスト・アセットマネジメント	古山 和希	みずほ証券
久保山 浩之	アセットマネジメント One	真下 弘司	QUICK
熊谷 直美	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
栗城 拓也	りそなアセットマネジメント	松原 弘幸	野村證券
小池 幸弘	UBS 証券	水野 要	東京海上アセットマネジメント
高口 伸一	三井住友トラスト・アセットマネジメント	牟田 知倫	SOMPO アセットマネジメント
小林 守伸	ニッセイ アセット マネジメント	村岡 真一郎	モルガン・スタンレー MUFG 証券
酒井 文義	クレディ・スイス証券	森 貴宏	みずほ証券
佐藤 円香	シュローダー・インベストメント・マネジメント	八並 純子	ニッセイ アセット マネジメント
澤田 信明	JP モルガン・アセット・マネジメント	山口 秀丸	シティグループ証券
芝野 正紘	シティグループ証券	山崎 みえ	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
高橋 豊	極東証券経済研究所	横山 雄一	三菱 UFJ 信託銀行
武井 智史	三井住友トラスト・アセットマネジメント	吉田 正夫	いちよし経済研究所
田中 洋	みずほ証券	若尾 正示	JP モルガン証券
谷林 正行	QUICK		

（注）上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

鉄鋼・非鉄金属

1. 評価対象企業（13 社）

日本製鉄、神戸製鋼所、JFE ホールディングス（注）、丸一鋼管、大同特殊鋼、三井金属鉱業、三菱マテリアル、住友金属鉱山、DOWA ホールディングス、UACJ、古河電気工業、住友電気工業、フジクラ

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）ジェイ エフ イー ホールディングスが商号を変更した（2022 年 6 月）。

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	15
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	25
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	10
計		13	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 51 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

（2） 評価実施アナリストは 19 名（所属先 18 社）である。（氏名等は 52 頁参照）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は 50 頁参照）

- ① 本年度は、評価対象企業を変更したほか、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目数、内容、配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 72.2 点（昨年度 70.9 点）、総合評価点の標準偏差は 6.4 点（昨年度 6.9 点）となった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、鉄鋼（5 社：日本製鉄、神戸製鋼所、JFE ホールディングス、丸一鋼管、大同特殊鋼）は 74.2 点（昨年度 71.8 点）となった。また、非鉄金属（8 社：三井金属鉱業、三菱マテリアル、住友金属鉱山、DOWA ホールディングス、UACJ、古河電気工業、住友電気工業、フジクラ）は 71.1 点（昨年度 70.3 点）となり、鉄鋼および非鉄金属は共に、昨年度に比べ上昇した。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 71%（昨年度 67%）、説明会等が 80%（昨年度 76%）、フェア・ディスクロージャーが 74%（昨年度 80%）、ESG 関連が 71%（昨年度 69%）、自主的情報開示が 62%（昨年度 68%）となり、フェア・ディスクロージャーおよび自主的情報開示を除く 3 分野は、昨年度に比べ改善した。なお、自主的情報開示においては、コロナ禍でもウェブ形式により IR Day を開催している企業と、そうでない企業との間で得点率に較差が生じた。

- ④ 評価項目について見ると、全 13 項目中、次の 2 項目（いずれも説明会等）が平均得点率 80%以上となり、高い水準であった（昨年度は 4 項目）。
- (a) 「四半期ごとに、業績動向に関するアナリストミーティングまたはウェブ会議・電話会議を開催していますか。また、四半期決算の内容の理解に必要な情報が十分に開示されていますか」（平均得点率 91%〔昨年度 80%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：60%台 1 社・90%台 11 社・100%1 社）
- (b) 「経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか」（平均得点率 82%〔昨年度 80%〕）（得点率：70%台 2 社・80%台 10 社・90%台 1 社）
- ⑤ ESG 関連の 4 項目は、次のとおりとなった（(b) (c) (d) は、本年度の新設項目）。
- (a) 「経営トップが企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか」（平均得点率 74%〔昨年度 66%〕）（得点率：50%台 1 社・60%台 3 社・70%台 4 社・80%台 5 社）
- (b) 「価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていますか」（平均得点率 77%）（得点率：60%台 2 社・70%台 5 社・80%台 6 社）
- (c) ESG に関するデータは十分に開示されていますか」（平均得点率 71%）（得点率：60%台 4 社・70%台 8 社・80%台 1 社）
- (d) 「ESG 関連の説明会を開催していますか。また、それは充実していますか」（平均得点率 59%）（得点率：30%台 1 社・40%台 4 社・50%台 3 社・60%台 1 社・80%台 3 社・90%台 1 社）

なお、上記(d)の平均得点率は、全 13 項目中で最も低くなった。ESG 関連の情報の開示については、説明会開催を含めて、企業間で取組内容に差が生じているため、得点率下位企業の今後の改善に期待したい。

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 日本製鉄（ディスクロージャー優良企業〔3 回連続 3 回目〕、総合評価点 81.6 点〔昨年度比－0.2 点〕）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第 1 位（得点率〈以下省略〉84%）、ESG 関連が第 2 位（83%）、説明会等が同得点第 2 位（84%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 4 位（81%）、自主的情報開示が第 6 位（68%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示の得点率が大きく下がった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が、最も高い評価となった。これに関連して、IR 部門への資源配分が厚く、担当者の経験も豊富であるとの声や、経営や ESG などの会社の方向性に関して高いレベルの議論ができるとの声が寄せられた。また、「経営陣の IR 姿勢」も、同得点第 1 位となった。これに関連して、経営トップ自らが積極的な情報発信を行っており、強いメッセージが伝わってくる、長期ビジョン・事業戦略など会社の方向性を明確に示し、投資家との意思疎通もできているとの声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」が最も高い評価となった。これに関連して、インタビューに副社長等のマネジメントが出席していることを評価する声や、部門別の実績・先行きの見通しに関する説明が具体的であるとの声があった。「説明会資料等における実績および見通しの開示」（2 項目）は共に、同得点第 3 位となった。これらに関連して、現状分析や戦略、見通しが資料にわかりやすく記載されているとの声があった。なお、適時のガイダンス発表を望む声があった。「四半期情報開示」（同得点第 8 位）は、90%以上の得点率であった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「決算説明会等の内容を、動画、音声、議事録等を通じて、迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していること」が、同得点第 3 位となった。「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は、平均得点率と同程度となった。これらに関連して、決算説明会等の説明において、動画、スクリーンショットが共に用意されており理解しやすいとの声があった。なお、議事録の迅速な公開を望む声もあった。
- ⑤ ESG 関連においては、4 項目全てが第 2 位となった。そのうち、「経営トップが企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」は、第 1 位と僅差となり、「ESG 関連の説明会を開催していること、また、それが充実していること」は、85%以上の得点率となった。これらに関連して、脱炭素や DX などの情報発信を先駆けて行っている、影響度の大きい企業として、多角的な視点で

問題をとらえて具体的なアクションプランを示しているとの声が寄せられた。

- ⑥ **自主的情報開示**の「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」は第6位となった。これに関連して、事業買収時（タイ G Steel 等）の説明会をタイムリーに開催していることや、決算説明会資料における最新の技術動向の記載を評価する声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

**第2位 JFE ホールディングス（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、総合評価点 81.1 点
〔昨年度比+1.7 点〕、昨年度第2位〔一昨年度第3位〕）**

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャー（87%）、ESG 関連（86%）が第1位、説明会等が同得点第2位（84%）、経営陣の IR 姿勢等が第3位（75%）、自主的情報開示が第5位（74%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門が十分に機能していること（十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど）」が第2位となった。これに関連して、IR 部門への資源配分が厚いとの声や、経営や ESG などの会社の方向性に関して十分な議論ができるとの声が寄せられた。「経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって有意義なメッセージを発信していること。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」が第5位となった。これに関連して、経営トップ自らが積極的な情報発信を行っているとの声や、情報発信の機会が従前よりも増えたとの声が寄せられた。また、決算発表の早期化を評価する声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「決算説明会、インタビューにおいて会社側の説明が十分であること」が第2位となった。また、「説明会資料等における実績および見通しの開示」（2項目）は共に、同得点第3位となった。これらに関連して、インタビューでの情報開示は充実しているとの声や、現状分析や戦略、見通しが資料にわかりやすく表現されているとの声があった。「四半期情報開示」（同得点第5位）は、90%以上の得点率であった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「決算説明会等の内容を、動画、音声、議事録等を通じて、迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していること」が、最も高い評価となった。「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」も、同得点第1位となった。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、決算説明会等の説明においては、動画、スクリプト共に用意されており理解しやすいとの声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、4項目全てが最も高い評価となった。そのうち、「ESG 関連の説明会を開催していること、また、それが充実していること」は、90%以上の得点率となった。これらに関連して、脱炭素や働きやすさ改善などの情報発信を積極的に行っているとの声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**の「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」は第5位となった。評価できるイベントとして、DX 戦略説明会を挙げる声が多かった。また、工場見学（東日本製鉄所千葉地区）の開催を評価する声もあった。

同社は、3回連続して第2位または第3位の評価を受けたので、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」に選定した。

第3位 UACJ（総合評価点 79.7 点〔昨年度比+1.4 点〕、昨年度第3位）

- ① 同社は、説明会等が第1位（86%）、経営陣の IR 姿勢等（80%）、自主的情報開示（81%）が第2位、フェア・ディスクロージャーが同得点第4位（81%）、ESG 関連が第5位（74%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が、同得点第1位となった。これに関連して、経営トップが事業構造改革の進捗について積極的な情報発信を行っていることや、投資家の意見に耳を傾ける姿勢が見られることを評価する声が寄せられた。「IR 部門の機能」（第7位）は、平均得点率と同程度となった。これに関連して、IR 部門は少人数であるが、質の高い情報を提供し、要望にも迅速に対応しているとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「四半期情報開示」および「経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていること」が共に、最も高い評価となった。また、「収益および財務分析に必要な情報が十分に記載されていること、情報開示の後退がないこと」（第2位）も評価された。「説明会、インタビューにおける開示」は、同得点第4位となった。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、インタビュー

における情報開示が充実しているとの声や、業績や計画の数字の裏付けも説明しているとの声があった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、外国人投資家を含め不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」（同得点第 3 位）が評価された。また、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」（同得点第 5 位）も、80%以上の得点率となった。これらに関連して、説明会動画に質疑応答も含まれていること、英語の決算説明資料や日本語リプレイをウェブ掲載していることを評価する声があった。なお、幅広く投資家に情報提供することを望む声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「経営トップが企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」および「価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定を行い、開示していること」が共に、同得点第 3 位であった。これらに関連して、経営トップ自らが積極的に情報発信しているとの声や、アルミニウムのポテンシャルについて丁寧に説明しているとの声があった。なお、「ESG に関する情報開示」の 2 項目については、いずれも平均得点率に達しなかった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」は第 2 位となった。評価できるイベントとして、IR・Day を挙げる声が多く、海外現地法人トップがオンライン参加したことを評価する声もあった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ **神戸製鋼所**（総合評価点 78.3 点〔昨年度比+4.4 点、一昨年度比+10.8 点〕、第 4 位〔昨年度第 5 位、一昨年度第 12 位〕）

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**が第 2 位（86%）、**ESG 関連**が第 3 位（80%）、**自主的情報開示**が第 4 位（76%）、**経営陣の IR 姿勢等**が同得点第 5 位（73%）、**説明会等**が第 6 位（80%）となった。同社については、昨年度に「ディスクロージャーの改善が著しい企業」として選定したが、本年度においても、**フェア・ディスクロージャー**および**自主的情報開示**を除く 3 分野で得点率が改善し、総合評価点がさらに上がった。
- ② **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、外国人投資家を含め不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」が、同得点第 1 位となった。また、「決算説明会等の内容を、動画、音声、議事録等を通じて、迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していること」（第 2 位）が、高く評価された。これらの結果、この分野において第 1 位と僅差の第 2 位となった。
- ③ **ESG 関連**においては、「ESG に関するデータを十分に開示していること」および「ESG 関連の説明会を開催していること、また、それが充実していること」が共に、第 3 位となった。また、「経営トップが企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」および「価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定を行い、開示していること」は共に、同得点第 3 位となり、いずれも 80%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において第 3 位となった。脱炭素や DX などの情報発信に積極的であるとの声や、ESG 説明会、DX 説明会を評価する声があった。

以 上

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表（鉄鋼・非鉄金属）

（単位：点）

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. ESGに関連する 情報の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位
			評価項目2 (配点 30点)	評価項目4 (配点 20点)	評価項目2 (配点 15点)	評価項目4 (配点 25点)	評価項目1 (配点 10点)	
1	5401 日本製鉄	81.6	25.2	16.8	12.1	20.7	6.8	6
2	5411 JFEホールディングス	81.1	22.5	16.8	13.0	21.4	7.4	5
3	5741 UACJ	79.7	24.0	17.1	12.1	18.4	8.1	2
4	5406 神戸製鋼所	78.3	21.8	15.9	12.9	20.1	7.6	4
5	5711 三菱マテリアル	75.4	19.7	15.8	12.1	19.5	8.3	1
6	5801 古河電気工業	73.0	19.6	15.7	11.9	18.0	7.8	3
7	5706 三井金属鉱業	71.0	21.6	15.7	11.0	16.5	6.2	7
8	5713 住友金属鉱山	69.7	19.3	14.7	12.3	17.5	5.9	8
9	5802 住友電気工業	67.4	19.3	15.7	10.4	16.6	5.4	9
10	5803 フジクラ	67.2	21.9	16.3	8.5	15.8	4.7	11
11	5471 大同特殊鋼	66.2	19.7	16.2	9.7	16.5	4.1	12
12	5714 DOWAホールディングス	65.1	19.1	15.7	11.0	14.3	5.0	10
13	5463 丸一銅管	63.7	21.8	15.5	7.4	15.2	3.8	13
	評価対象企業評価平均点	72.24	21.19	15.98	11.10	17.73	6.24	

2022年度評価項目および配点（鉄鋼・非鉄金属）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって有意義なメッセージを発信していますか。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	20
(2)IR部門の機能	
・IR部門が十分に機能していますか。（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど）【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・決算説明会、インタビューにおいて会社側の説明は十分ですか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
(2)説明会資料等における実績および見通しの開示	
① 収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていますか。情報開示の後退はありませんか。	6
② 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	3
(3)四半期情報開示	
・四半期ごとに、業績動向に関するアナリストミーティングまたはウェブ会議・電話会議を開催していますか。また、四半期決算の内容の理解に必要な情報が十分に開示されていますか。	3
3. フェア・ディスクロージャー（15点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、外国人投資家を含め不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	5
(2)ウェブサイトやリモートツールによる情報提供	
・決算説明会等の内容を、動画、音声、議事録等を通じて、迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していますか。	10
4. ESGに関連する情報の開示（25点）	配点
(1)経営陣のESGに対する取組姿勢	
①経営トップが企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
②価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていますか。	5
(2)ESGに関する情報開示	
①ESGに関するデータは十分に開示されていますか。	5
②ESG関連の説明会を開催していますか。また、それは充実していますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	配点
・工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。【過去1年間を目安に評価】【充実していた工場見学や説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	10

鉄鋼・非鉄金属専門部会委員

部 会 長	山口 敦	SMBC 日興証券
部会長代理	五老 晴信	UBS 証券
	井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	尾崎 慎一郎	大和証券
	崎村 英治	野村アセットマネジメント
	白川 祐	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	松本 裕司	野村證券

評価実施アナリスト(19名)

石井 宏	朝日ライフ アセットマネジメント	鈴木 博行	みずほ証券
井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント	竹元 宏和	明治安田アセットマネジメント
入沢 健	立花証券	田中 彰	三菱 UFJ 信託銀行
岩崎 彰	大和アセットマネジメント	竹間 雅子	SOMPO アセットマネジメント
尾崎 慎一郎	大和証券	中村 宏司	QUICK
河井 啓朗	明治安田アセットマネジメント	野田 健介	ニッセイ アセット マネジメント
五老 晴信	UBS 証券	松本 裕司	野村證券
崎村 英治	野村アセットマネジメント	南 純一	りそなアセットマネジメント
白川 祐	モルガン・スタンレー MUFG 証券	山口 敦	SMBC 日興証券
Xin Hao	JP モルガン証券		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

機 械

1. 評価対象企業（19 社）

アマダ、ナブテスコ、SMC、小松製作所、住友重機械工業、日立建機、クボタ、荏原製作所、ダイキン工業、栗田工業、ダイフク、日本精工、THK、安川電機、マキタ、ファナック、三菱重工業、川崎重工業、IHI

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	26
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	3	21
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	11
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	6	36
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	6
計		15	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 58 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

(2) 評価実施アナリストは 27 名（所属先 22 社）である。（氏名等は 59 頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は 57 頁参照）

① 当業種は、2021 年度の優良企業選定を休止し、本年度再開した。従って、本年度において比較参照する過去の数値は 2020 年度（以下「前回」という。）のものである。

本年度は、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目数、内容および配点を見直した。このため、前回と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 72.8 点（前回 73.6 点）、総合評価点の標準偏差は 12.8 点（前回 10.6 点）であった。

② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 70%（前回 73%）、説明会等が 79%（前回 77%）、フェア・ディスクロージャーが 80%（前回 74%）、ESG 関連が 71%（前回 74%）、自主的情報開示が 59%（前回 69%）となった。

③ 評価項目について見ると、全 15 項目中、次の 2 項目（説明会等の中の 1 項目 (a) およびフェア・ディスクロージャーの中の 1 項目 (b)）の平均得点率が 80% 以上となった。

(a) 「四半期ごとに業績動向に関する説明会（電話会議を含む）を開催していますか（開催あり：満点）」（平均得点率 89%〔前回同率〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））： 0%2 社・100%17 社）

(b) 「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていますか（会社にとって都合が悪い情報、メディアへの対応を含む）」（平均得点率 84%〔前回 87%〕）（得点率：70%台 2

社・80%台 13 社・90%台 4 社)

- ④ 一方、次の 2 項目 (ESG 関連の中の 1 項目 (a) および自主的情報開示の 1 項目 (b)) は 50%台以下となり、低水準であった。

- (a) 「ESG 関連の説明会を開催していますか」(平均得点率 42%) (得点率: 0%11 社・100%8 社)
(b) 「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A 説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していますか」(平均得点率 59% [前回 65%]) (得点率: 20%台 3 社・30%台 4 社・60%台 2 社・70%台 6 社・80%台 3 社・90%台 1 社)

- ⑤ なお、前回の報告書において改善を求めた、フェア・ディスクロージャーの中の「ウェブサイトにおける情報提供」(2 項目)については、平均得点率が共に 70%台 (前回は共に 63%) となった。ただし、一部の企業においては、依然として 0%の評価となっており、当該企業については改善努力を強く求めたい。

- ⑥ ESG 関連の 6 項目は、次のとおりとなった ((a) ~ (d) は本年度の新設項目)。なお、(a)および(b)を見ると、評価対象企業の多くが統合報告書を発行しているものの、ESG 関連の説明会を開催しているものは半数未満となっている。

- (a) 「統合報告書を発行していますか」(平均得点率 79%) (得点率: 0%4 社・100%15 社)
(b) 「ESG 関連の説明会を開催していますか」(平均得点率 42%) (得点率: 0%11 社・100%8 社)
(c) 「環境に関する情報・定量目標 (KPI) を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか」(平均得点率 78%) (得点率: 50%台 1 社・60%台 4 社・70%台 2 社・80%台 9 社・90%台 3 社)
(d) 「社会に関する情報・定量目標 (KPI) を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか」(平均得点率 73%) (得点率: 50%台 1 社・60%台 6 社・70%台 8 社・80%台 4 社)
(e) 「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、社外取締役、政策保有株式、役員報酬の算定方式等」(平均得点率 76% [前回同率]) (得点率: 60%台 4 社・70%台 8 社・80%台 6 社・90%台 1 社)
(f) 「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか」(平均得点率 73% [前回 72%]) (得点率: 50%台 2 社・60%台 4 社・70%台 8 社・80%台 5 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 小松製作所 (ディスクロージャー優良企業 [13 回目]、総合評価点 88.9 点 [前回比+4.4 点]、 前回第 2 位)

- ① 同社は、説明会等(得点率〈以下省略〉91%)、ESG 関連 (91%) が第 1 位、経営陣の IR 姿勢等 (82%)、自主的情報開示 (85%) が第 2 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 2 位 (95%) となった。前回に比べ、自主的情報開示を除く 4 分野において、順位が上昇した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」(第 2 位) および「経営陣の IR 姿勢」(同得点第 2 位) が共に評価され、この分野において第 2 位 (前回第 6 位) となった。これらに関連して、経営陣が投資家とのコミュニケーションに積極的であり、質疑においても十分な回答が得られるとの声や、社長スモールミーティングの定期的な開催を評価する声が寄せられた。また、ESG の取組みを事業活動に結び付けた説明を評価する声もあった。
- ③ 説明会等においては、「説明資料等 (短信及びその付属資料・説明会資料) における開示」が、最も高い評価となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」(第 2 位) についても高い評価となったことから、この分野において第 1 位 (前回同得点第 3 位) となった。これらに関連して、説明資料は詳細であり質も高いとの声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトにおける情報提供」の 2 項目が共に、満点の評価となった。また、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」(同得点第 2 位) についても、極めて高い評価と

なった。これらの結果、この分野において、第1位と僅差の同得点第2位となった。これらに関連して、需要や稼働のデータを月次でウェブサイトに掲載するなど、フェア・ディスクロージャーへの配慮が見られるとの声があった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「統合報告書、ESG 関連の説明会」の2項目が、共に満点の評価となった。「環境に関する開示」（同得点第2位）および「社会に関する開示」（同得点第1位）も高い評価となった。また、「ガバナンスに関する開示」の2項目についても高く評価され、85%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、資源、環境関連リスクが高い中でのリスク低減の取組みを開示していることや、自社の強みを認識した上で、電動化やデジタル化を機会として捉える戦略を開示していることを評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A 説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していること」（第2位）が高い評価となった。これに関連し、会社主催のイベントが豊富であるとの声のほか、事業説明会の開催を評価する声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 荏原製作所（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 87.2 点〔前回比+10.0 点、前々回比+16.0 点〕、前回第10位〔前々回第13位〕）

- ① 同社は、**自主的情報開示**が第1位（90%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第2位（95%）、**経営陣のIR 姿勢等**が第3位（82%）、**ESG 関連**が同得点第3位（88%）、**説明会等**が第4位（87%）となった。前回に比べ、5分野全てにおいて得点率が大きく改善し、総合評価点の大幅な上昇（+10.0 点）につながった。
- ② **経営陣のIR 姿勢等**においては、「経営陣のIR 姿勢」（同得点第2位）および「IR 部門の機能」（第3位）は、前回に比べ、いずれも得点率が改善した。これらの結果、この分野において第3位（前回第12位）となった。これらに関連して、経営陣がIR に積極的に関与し投資家との対話を重視しているとの声や、経営陣の企業価値向上への意識が従来よりも高まったとの声が寄せられた。また、IR 対応が充実しており、ESG の議論もできるとの声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「説明資料等（短信及びその付属資料・説明会資料）における開示」（同得点第2位）が、高い評価となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」（同得点第4位）についても、80%以上の得点率となった。これらに関連して、セグメント別の増減益分析は理解しやすいとの声があった。なお、各事業の定性的な情報の充実を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「ウェブサイトにおける情報提供」の2項目が共に、満点の評価となった。また、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第2位）についても、極めて高い評価となり、この分野において、第1位と僅差の同得点第2位（前回第12位）となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「統合報告書、ESG 関連の説明会」（2項目共に満点）および「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること、例えば、社外取締役、政策保有株式、役員報酬の算定方式等」が、最も高い評価となった。社外取締役による説明会を開催したことが高い評価につながった。また、「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」（第3位）も評価された。なお、「環境に関する開示」は第5位、「社会に関する開示」は同得点第5位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A 説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していること」は、最も高い評価となった。これに関連し、事業説明会の開催を評価する声があった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

第3位 ダイキン工業（総合評価点 87.1 点〔前回比－2.4 点〕、前回第1位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第1位（83%）、説明会等が第2位（90%）、ESG 関連が同得点第3位（88%）、自主的情報開示が第5位（78%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第12位（91%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能」が共に、最も高い評価となった。これらに関連して、経営トップが積極的に説明会に関与しており IR への姿勢は高く評価できるとの声や、高い経営執行力を投資家に的確に伝えているとの声が寄せられた。また、IR 担当者の情報集積が高く、アクセスも容易であるとの声もあった。これらの結果、この分野において第1位となった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」が、最も高い評価となった。また、「説明資料等（短信及びその付属資料・説明会資料）における開示」（第4位）についても、80%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において第2位となった。なお、開示内容を評価する声とともに、ソリューション事業などの中期経営計画における注力分野について、定量的な振り返りを望む声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトにおける情報提供」の2項目が共に、満点の評価となった。なお、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は、同得点第14位となった。これに関連して、メディア報道が開示に先行している状況が見られるとの声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「統合報告書、ESG 関連の説明会」（2項目共に満点）および「環境に関する開示」が、最も高い評価となった。また、「社会に関する開示」（第3位）も評価された。なお、「ガバナンスに関する開示」の2項目については、「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」（同得点第1位）は、高く評価されたものの、「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること。例えば、社外取締役、政策保有株式、役員報酬の算定方式等」は、同得点第12位となった。これらに関連して、企業価値向上につながるマテリアリティを設定し、中期経営目標とも関連付けていることを評価する声があった。なお、ESG 関連の開示内容を評価しつつ、ガバナンスに関して、より丁寧な説明を求める声もあった。
- ⑥ 自主的情報開示の「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A 説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していること」（第5位）は、前回に比べ得点率が下がった。なお、会社主催のイベントが豊富であるとの声があった。

以 上

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表（機械）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6301 小松製作所	88.9	21.4	2	19.2	1	10.5	2	32.7	1	5.1	2	2
2	6361 荏原製作所	87.2	21.2	3	18.3	4	10.5	2	31.8	3	5.4	1	10
3	6367 ダイキン工業	87.1	21.6	1	19.0	2	10.0	12	31.8	3	4.7	5	1
4	6370 栗田工業	85.7	20.7	4	18.5	3	10.4	5	32.5	2	3.6	11	4
5	6506 安川電機	83.3	19.9	5	17.9	6	10.1	9	30.8	6	4.6	6	3
6	6305 日立建機	82.4	19.4	6	17.4	9	10.6	1	30.5	7	4.5	7	5
7	6268 ナブテスコ	81.6	18.7	8	17.2	10	10.3	7	31.1	5	4.3	9	7
8	7011 三菱重工業	78.8	17.6	14	16.1	15	10.1	9	30.0	8	5.0	3	8
9	6326 クボタ	74.8	19.4	6	18.0	5	7.4	14	25.8	10	4.2	10	6
10	7012 川崎重工業	74.2	17.8	13	17.1	11	10.0	12	24.3	12	5.0	3	12
11	7013 IHI	73.1	18.3	11	17.0	12	10.3	7	23.9	13	3.6	11	11
12	6471 日本精工	72.7	17.9	12	16.5	14	10.5	2	25.5	11	2.3	13	9
13	6302 住友重機械工業	68.8	16.0	17	15.5	16	10.1	9	22.7	14	4.5	7	13
14	6383 ダイフク	68.3	18.7	8	17.5	7	4.0	17	25.9	9	2.2	14	15
15	6113 アマダ	64.3	18.4	10	17.5	7	10.4	5	16.7	16	1.3	19	14
16	6586 マキタ	61.8	17.2	15	16.6	13	3.9	18	22.3	15	1.8	16	17
17	6481 THK	52.6	15.7	18	11.1	19	7.3	15	16.4	17	2.1	15	16
18	6954 ファナック	49.6	10.4	19	14.4	17	7.0	16	16.3	18	1.5	17	18
19	6273 SMC	48.3	17.2	15	12.0	18	3.8	19	13.9	19	1.4	18	19
	評価対象企業評価平均点	72.82	18.29		16.67		8.80		25.53		3.53		

2022年度評価項目および配点（機械）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（26点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	13
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、アクセスも容易で、担当者と有益なディスカッションができますか。また、投資家のニーズに合わせ、他部門（ESG関連部門など）と連携をとっていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	13
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（21点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・決算説明会およびインタビューにおける会社側の説明（質疑応答を含む）は十分ですか。	8
(2)説明資料等（短信およびその付属資料・説明会資料）における開示	
・投資家が求める情報（業界動向、事業別損益、中期の経営戦略、為替等の会社計画の前提、会計変更の影響）が十分に開示されていますか。	8
(3)四半期情報開示	
・四半期ごとに業績動向に関する説明会（電話会議を含む）を開催していますか。【開催あり：5点 開催なし：0点】	5
3. フェア・ディスクロージャー（11点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。（会社にとって都合が悪い情報、メディアへの対応を含む）	5
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
①決算説明会等の内容はウェブサイトで動画または音声で視聴できますか。	3
②決算説明会等での質疑応答の内容がウェブサイトでも分かるようになっていますか。	3
4. ESGに関連する情報の開示（36点）	配点
(1)統合報告書、ESG関連の説明会	
①統合報告書を発行していますか。	5
②ESG関連の説明会を開催していますか。	5
(2)環境に関する開示	
・環境に関する情報・定量目標（KPI）を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。	8
(3)社会に関する開示	
・社会に関する情報・定量目標（KPI）を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。	8
(4)ガバナンスに関する開示	
①コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、社外取締役、政策保有株式、役員報酬の算定方式等。	5
②中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（6点）	配点
・会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していますか。[過去1年間を目安に評価]	6

機械専門部会委員

部 会 長	齋藤 克史	野村證券
部会長代理	田井 宏介	大和証券
	井原 芳直	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	大内 卓	SMBC 日興証券
	佐野 友彦	JP モルガン証券
	下森 浩	三菱 UFJ 信託銀行
	宮城 大和	みずほ証券

評価実施アナリスト（27名）

石井 宏	朝日ライフ アセットマネジメント	清水 俊宏	アセットマネジメント One
石田 重和	丸三証券	下森 浩	三菱 UFJ 信託銀行
石塚 大	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	田井 宏介	大和証券
猪股 彩香	大和証券	田中 英太郎	SOMPO アセットマネジメント
井原 芳直	モルガン・スタンレー MUFG 証券	谷林 正行	QUICK
大内 卓	SMBC 日興証券	田村 真一	極東証券経済研究所
大平 光行	東海東京調査センター	柊 宏二	QUICK
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	堀井 章	ニッセイ アセット マネジメント
蒲生 宗央	野村アセットマネジメント	グレアム マクドナルド	シティグループ証券
児玉 芳明	明治安田アセットマネジメント	道脇 祐介	三菱 UFJ 信託銀行
齋藤 克史	野村証券	南 純一	りそなアセットマネジメント
佐々木 翼	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	宮城 大和	みずほ証券
佐野 友彦	JP モルガン証券	渡辺 洋一郎	水戸証券
澤田 智博	三井住友 DS アセットマネジメント		

（注）上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

電気・精密機器

1. 評価対象企業（25 社）

【産業・民生エレクトロニクス部門】（10 社）

日立製作所、三菱電機、オムロン、日本電気、富士通、ルネサス エレクトロニクス、パナソニック ホールディングス（注）、シャープ、ソニーグループ、ヤマハ

【電子部品部門】（7 社） ミネベアミツミ（新規）、日本電産、TDK、ローム、京セラ、村田製作所、日東電工

【精密機器部門】（8 社） 富士フイルムホールディングス、ディスコ、セイコーエプソン、アドバンテスト、HOYA、キヤノン、リコー、東京エレクトロン

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）パナソニックが商号を変更した（2022 年 4 月）。

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	32
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	10
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	28
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的信息開示	1	10
計		14	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 70 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

（2） 評価実施アナリストは 75 名（所属先 30 社）である。（71 頁参照）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は 66～69 頁参照）

- ① 本年度は、新規の企業を加えたほか、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目数・内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の電気・精密機器全体（以下「全体」）の総合評価平均点は 74.1 点（昨年度 74.2 点）、総合評価点の標準偏差は 7.8 点（昨年度 9.6 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、高得点順に、精密機器部門（8 社）が 75.5 点（昨年度 77.0 点）、産業・民生エレクトロニクス部門（10 社）が 73.5 点（昨年度 72.0 点）、電子部品部門（7 社）が 73.4 点（昨年度 74.1 点）となった。昨年度に比べ、産業・民生エレクトロニクス部門が上昇したが、電子部品部門と精密機器部門はやや下げた。

- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が73%（昨年度74%）、**説明会等**が74%（昨年度76%）、**フェア・ディスクロージャー**が84%（昨年度同率）、**ESG関連**が75%（昨年度72%）、**自主的情報開示**が65%（昨年度68%）となった。
- ④ 評価項目について見ると、全14項目のうち、**フェア・ディスクロージャー**の次の2項目が80%以上の平均得点率となり（昨年度も同項目）、高水準となった。

- (a) 「経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか」（平均得点率85%）（得点率（評価点／配点（以下省略））：90%台5社・80%台15社・70%台5社）
- (b) 「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、英語対応、資料の日本語・英語同時対応）を行っていますか」（平均得点率83%）（得点率：90%台5社・80%台13社・70%台5社・60%台2社）

- ⑤ 一方、**自主的情報開示**の次の項目は平均得点率が65%と、昨年度に続き最も低かった。

- ・ 「ESG説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A説明会・社外取締役を含めたIR活動が実施され、その内容は有益でしたか」（平均得点率65%）（得点率：30%台1社・40%台1社・50%台7社・60%台8社・70%台4社・80%台4社）

- ⑥ 非財務情報に関連する項目（**ESG関連**の4項目）は、昨年度に比べ大幅に評価内容を変更したが、次のとおり、いずれも70%台となった。

- (a) 「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していますか」（平均得点率78%）（得点率：50%台1社・60%台3社・70%台8社・80%台11社・90%台2社）
- (b) 「気候変動問題に限らず、各企業が重要と考えるESGに関連する情報を積極的に開示していますか」（平均得点率77%）（得点率：50%台1社・60%台4社・70%台10社・80%台9社・90%台1社）
- (c) 「資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか」（平均得点率72%）（得点率：40%台1社・50%台1社・60%台6社・70%台9社・80%台8社）
- (d) 「(上記(a)～(c)の)ESG情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していますか」（平均得点率75%）（得点率：50%台3社・60%台3社・70%台9社・80%台8社・90%台2社）

(2) 全体の上位3企業の評価概要

第1位 オムロン（ディスクロージャー優良企業〔3回連続8回目〕、総合評価点85.5点〔昨年度比－0.8点〕）

- ① 同社は、**ESG関連**が第1位（得点率（以下省略）88%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第1位（93%）、**経営陣のIR姿勢等**が第2位（84%）、**説明会等**が第3位（84%）、**自主的情報開示**が第5位（79%）となった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」が、最も高い評価となった。また、「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していること」も、高く評価された。これらに関連して、トップマネジメントが企業価値の重要性を認識し、積極的な対応を行っているとの声や、ESGが経営理念にビルトインされており、ESG重視の姿勢が感じられるとの声が寄せられた。また、ESG説明会の定期的開催による情報発信や、説明資料や開示内容の充実を評価する声もあった。なお、「IR部門の機能、基本的スタンス」は第8位となった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会資料等における開示」が、同得点第1位となった。また、「決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」（同得点第2位）も高く評価された。これらに関連して、投資家のニーズをよく把握した説明資料となっているとの声や、地域別数値、製品別売上などの詳細な開示により理解が深まるとの声が寄せられた。なお、詳細な開示内容を評価しつつも、利益増減分析に関してさらに工夫を求める声もあった。「決算説明会において、今後の方向性（翌四半期の見通し等）を具体的に十分説

明していること」および「インタビュー等における開示」は、いずれも 80%以上の得点率となった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること」が、同得点第 1 位となった。また、「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、英語対応、資料の日本語・英語同時対応）を行っていること」も、同得点第 2 位と高い評価となり、これらの結果、この分野において同得点第 1 位となった。これらに関連して、大型買収などに関しても遅滞なく十分に情報開示を行っていること、開示に関して公平性にも配慮していることを評価する声のほか、説明会、取材へのリモートツール対応を評価する声も寄せられた。なお、資料などの日本語・英語同時対応を評価しつつ、英語での情報提供の一層の充実を望む声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していること」および「気候変動問題に限らず、各企業が重要と考える ESG に関連する情報を積極的に開示していること」が共に、最も高い評価となった。また、「ESG 情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していること」（第 2 位）が、高く評価され、「資本政策、株主還元策が十分に説明されていること」（同得点第 3 位）も評価された。これらの結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、ESG に関連して全体的に優れた開示が行われているとの声のほか、中期経営計画で S（社会）に関する KPI の開示とそれが企業価値向上につながるプロセスを示したことを評価する声が寄せられた。なお、JMDC との資本業務提携について一層の説明を求める声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は第 5 位であった。これに関連して、長期ビジョン・中期経営計画説明会を評価する声が多く寄せられた。なお、各セグメントについて事業別説明会等でのさらなる説明を求める声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 日立製作所（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、総合評価点 84.5 点〔昨年度比+0.7 点〕、昨年度第 3 位〔一昨年度第 3 位〕）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第 1 位（85%）、ESG 関連が第 2 位（88%）、自主的情報開示が同得点第 3 位（80%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 6 位（88%）、説明会等が第 9 位（81%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示を除く 4 分野で順位が上昇した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」（第 2 位）および「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IR に積極的に関与していること」（同得点第 3 位）が共に、高く評価された。また、「IR 部門の機能、基本的スタンス」も、同得点第 2 位となった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、経営トップ自らが IR に関与し、わかりやすく情報発信をしていること、経営陣の企業価値向上への意識が高いことを評価する声が寄せられたほか、自社の目指す姿について繰り返し説明し投資家とも共有できているとの声や、CSO が、環境への取組みが企業価値向上につながることなどを的確に伝えているとの声もあった。また、IR 部門のレスポンスの早さ、情報共有の徹底などを評価する声が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「決算説明会におけるプレゼンテーション・補足資料に必要なかつ十分な情報が網羅されていること」が、同得点第 1 位であった。これに関連して、決算プレゼンテーション資料や補足資料の情報の豊富さや補足資料におけるセグメント詳細の開示を評価する声が寄せられた。他の 3 項目については昨年度と同程度の得点率となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、英語対応、資料の日本語・英語同時対応）を行っていること」が、同得点第 2 位で高い評価となった。「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること」は、平均得点率をやや上回った。これらに関連して、YouTube での説明会同時視聴や日英同時通訳などのリモート化・グローバル化を評価する声が寄せられた。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していること」（同得点第 3 位）、「気候変動問題に限らず、各企業が重要と考える ESG に関連する情報を積極的に開示していること」（第 2 位）、「資本政策、株主還元策が十分に説明されていること」（第 2 位）および「ESG 情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していること」（第 3 位）が、いずれも高い評価となった。これらの結果、この分野において、第 1 位と僅差の第 2 位となった。これに関連して、ガバナンスにおいて外国人や女性登用等、ダイバーシティを考慮した開示がされていることや、本業自体の CO2 削減への貢献を説明していることを評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」が、同得点第 3 位となった。これに関連して、ESG 説明会のほかに、Investor Day を評価する声が多く寄せられ、Investor Day では社外取締役セッションを評価する声もあった。

同社は、3 回連続して第 2 位または第 3 位の評価を受けたので、「**高水準のディスクロージャーを連続維持している企業**」に選定した。

第 3 位 ソニーグループ（総合評価点 83.2 点〔昨年度比－0.3 点〕、昨年度第 4 位）

- ① 同社は、**自主的情報開示**が第 1 位（84%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 4 位（82%）、**ESG 関連**が同得点第 4 位（85%）、**フェア・ディスクロージャー**が第 5 位（89%）、**説明会等**が第 10 位（80%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IR に積極的に関与していること」が、同得点第 1 位となった。また、「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」（第 3 位）も、高く評価された。これらに関連して、説明会とその後のミーティング等において経営陣が直接説明し、対話する体制ができていて、経営陣がそれぞれの役割分担で説明していることなどを評価する声寄せられた。また、戦略の方向性の説明が明確であること、ESG 関連の説明会が継続して開催されていることを評価する声もあった。なお、「IR 部門の機能、基本的スタンス」は、平均得点率と同程度となったが、これに関連して、多岐にわたる事業領域のため情報の集積、整理に困難な面があるとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「決算説明会におけるプレゼンテーション・補足資料が必要かつ十分な情報が網羅されていること」が、同得点第 1 位となり、「決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」も、同得点第 2 位と高く評価された。これらに関連して、各事業分野の売上高、営業利益、定性的な増減益要因の説明が十分であること、補足資料の内容が充実し、継続性もあることを評価する声寄せられた。一方、エンタテインメントの開示が充実したがエレクトロニクスの開示は後退したとの声もあった。「主要製品または事業の販売・受注動向が、数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもって十分に説明されていること」は、平均得点率と同程度となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、英語対応、資料の日本語・英語同時対応）を行っていること」が、最も高い評価となった。これに関連して、ウェブへの同時配信がオープンかつグローバルになされていること、決算説明会は質疑応答の内容を含めて後日視聴可能であることを評価する声寄せられた。なお、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」については、平均得点率と同程度となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していること」（同得点第 3 位）および「気候変動問題に限らず、各企業が重要と考える ESG に関連する情報を積極的に開示していること」（第 3 位）は共に、高く評価された。また、「資本政策、株主還元策が十分に説明されていること」（同得点第 5 位）および「ESG 情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していること」（同得点第 4 位）は、いずれも 80%以上の得点率となった。これらに関連して、ESG 説明会と統合報告書の内容で十分に説明がされている、レポートだけでなく ESG データ集も見やすいとの声寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は、最も高い評価となった。これに関連して、ESG 説明会、事業説明会、Technology Day、I&SS デモンストレーション体験会を評価する声寄せられ、また、厚木テクノロジーセンターの見学が有意義との声もあった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ ミネベアミツミ（総合評価点 82.6 点、同得点第 4 位）

- ① 同社は、本年度から新規に評価対象とした会社である。フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位（93%）、説明会等が第 2 位（84%）、ESG 関連が第 3 位（85%）、経営陣の IR 姿勢等が第 5 位（81%）、自主的情報開示が第 12 位（67%）と、4 分野で上位となり、総合評価点において同得点第 4 位となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」の 2 項目が、いずれも 80%以上の得点率となった。これに関連して、経営トップの説明が明快である、カーボンニュートラル関連の開示に積極的であるとの声が寄せられた。また、「IR 部門の機能、基本スタンス」は第 4 位となった。
- ③ 説明会等においては、「決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できること」が、最も高い評価となった。また、「決算説明会において、今後の方向性（翌四半期の見通し等）を具体的に十分説明していること」および「インタビュー等における開示」も共に、80%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において、第 1 位と僅差の第 2 位となった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」および「リモートツールによる情報提供・グローバル対応」が共に、90%以上の得点率となり、この分野において同得点第 1 位となった。これに関連して、説明会の質疑応答まで動画掲載していることを評価する声が寄せられたほか、質疑応答をまとめた議事録の開示は有益との声もあった。
- ⑤ ESG 関連においては、「ESG 情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していること」が、最も高い評価となった。また、「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していること」も、第 1 位と僅差の第 2 位となった。これらの結果、この分野において第 3 位となった。これらに関連して、温室効果ガス排出量に関して Scope3 を開示していること、また、自社製品によって削減した CO2 量を開示していることを評価する声が寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は、平均得点率をやや上回った。

○ 村田製作所（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 79.3 点〔昨年度比+1.8 点、一昨年度比+8.4 点〕、同得点第 7 位〔昨年度第 10 位、一昨年度第 13 位〕）

- ① 同社は、説明会等が第 1 位（85%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 6 位（88%）、ESG 関連が第 9 位（79%）、経営陣の IR 姿勢等が同得点第 9 位（78%）、自主的情報開示が第 14 位（65%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示を除く 4 分野で順位を上げた。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」が同得点第 4 位、「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」が第 9 位となった。これらに関連して、経営陣の企業価値向上に向けた意識が高いとの声や、企業価値拡大の戦略と ESG の取組みが一定程度紐づけられているとの声が寄せられた。また、IR 部門とのディスカッションが有益との声も寄せられた。なお、経営陣と投資家との接点をより一層望む声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会における開示」の 2 項目が共に、高く評価された。また、「インタビュー等における開示」（同得点第 3 位）および「説明会資料等における開示」（第 4 位）も共に、80%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、エンドマーケット別の需要見通しなどの詳細な想定が開示されていることを評価する声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること」が、90%以上の得点率となった。また、「リモートツールによる情報提供・グローバル対応」も 85%以上の得点率となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していること」および「ESG 情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していること」が共に、80%以上の得点率となった。これらに関連して、温室効果ガス排出量に関して Scope3 の一部を開示していることを評価する声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外

取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は、平均得点率と同程度にとどまったものの、昨年度に比べて 5 ポイント以上改善した。これに関連して、Information Meeting を評価する声が多く寄せられた。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

(参考) 部門別の第 1 位企業

【産業・民生エレクトロニクス部門】

オムロン（総合評価点 85.5 点、全体第 1 位）

【電子部品部門】

ミネベアミツミ（総合評価点 82.6 点、全体同得点第 4 位）

【精密機器部門】

東京エレクトロン（総合評価点 82.6 点、全体同得点第 4 位）

以 上

2022年度 ディスクロージャ―評価比較総括表 (電気・精密機器:全体)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャ―		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6645 オムロン	85.5	26.9	2	16.7	3	9.3	1	24.7	1	7.9	5	1
2	6501 日立製作所	84.5	27.1	1	16.1	9	8.8	6	24.5	2	8.0	3	3
3	6758 ソニーグループ	83.2	26.2	4	16.0	10	8.9	5	23.7	4	8.4	1	4
4	6479 ミネベアミツミ	82.6	26.0	5	16.8	2	9.3	1	23.8	3	6.7	12	
4	8035 東京エレクトロン	82.6	26.6	3	16.5	4	8.7	9	22.8	7	8.0	3	5
6	4901 富士フイルムホールディングス	79.6	25.5	7	15.2	13	8.5	14	22.3	8	8.1	2	2
7	6981 村田製作所	79.3	25.1	9	16.9	1	8.8	6	22.0	9	6.5	14	10
7	7752 リコー	79.3	25.1	9	14.5	17	8.6	11	23.4	6	7.7	6	6
9	6702 富士通	77.3	24.3	11	14.2	18	8.3	15	23.7	4	6.8	10	11
10	6594 日本電産	76.7	24.1	12	16.5	4	9.1	3	21.9	10	5.1	22	7
11	6724 セイコーエプソン	76.2	23.9	13	14.6	16	8.3	15	21.9	10	7.5	7	17
12	7951 ヤマハ	75.2	25.8	6	15.9	11	8.2	17	21.6	12	3.7	25	9
13	7741 HOYA	74.4	25.5	7	16.2	6	8.6	11	18.9	21	5.2	21	13
14	6857 アドバンテスト	74.3	23.5	14	15.1	14	7.8	21	20.9	15	7.0	8	8
15	6762 TDK	74.0	22.8	15	16.2	6	8.8	6	20.6	17	5.6	20	11
16	6963 ローム	72.8	21.9	18	15.3	12	8.7	9	21.0	14	5.9	17	15
17	6723 ルネサスエレクトロニクス	71.8	22.4	16	16.2	6	8.6	11	17.8	23	6.8	10	14
18	6701 日本電気	70.7	22.2	17	13.0	21	7.8	21	21.1	13	6.6	13	19
19	6146 デイスコ	68.8	21.2	19	14.8	15	8.2	17	18.5	22	6.1	16	16
20	6971 京セラ	68.3	20.3	21	13.5	19	9.0	4	19.7	20	5.8	19	18
20	7751 キヤノン	68.3	20.2	22	13.4	20	8.1	19	20.7	16	5.9	17	22
22	6752 パナソニックホールディングス	68.1	20.5	20	12.8	22	7.9	20	20.0	19	6.9	9	21
23	6503 三菱電機	66.1	19.5	23	12.7	23	7.3	24	20.4	18	6.2	15	24
24	6988 日東電工	59.8	18.4	24	12.4	24	7.5	23	16.5	24	5.0	23	20
25	6753 シャープ	52.2	16.5	25	9.3	25	7.1	25	15.2	25	4.1	24	23
	評価対象企業評価平均点	74.08	23.26		14.84		8.41		21.11		6.46		

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表（産業・民生エレクトロニクス部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. ESGに関連する 情報の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位
			評価項目3 (配点 32点)	評価項目4 (配点 20点)	評価項目2 (配点 10点)	評価項目4 (配点 28点)	評価項目1 (配点 10点)	
1	6645 オムロン	85.5	26.9	16.7	9.3	24.7	7.9	3
2	6501 日立製作所	84.5	27.1	16.1	8.8	24.5	8.0	2
3	6758 ソニーグループ	83.2	26.2	16.0	8.9	23.7	8.4	1
4	6702 富士通	77.3	24.3	14.2	8.3	23.7	6.8	5
5	7951 ヤマハ	75.2	25.8	15.9	8.2	21.6	3.7	10
6	6723 ルネサスエレクトロニクス	71.8	22.4	16.2	8.6	17.8	6.8	5
7	6701 日本電気	70.7	22.2	13.0	7.8	21.1	6.6	7
8	6752 パナソニックホールディングス	68.1	20.5	12.8	7.9	20.0	6.9	4
9	6503 三菱電機	66.1	19.5	12.7	7.3	20.4	6.2	8
10	6753 シャープ	52.2	16.5	9.3	7.1	15.2	4.1	9
	評価対象企業評価平均点	73.46	23.14	14.29	8.22	21.27	6.54	

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表（電子部品部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点 32点)	評価点	評価項目4 (配点 20点)	評価点	評価項目2 (配点 10点)	評価点	評価項目4 (配点 28点)	評価点	評価項目1 (配点 10点)	順位	
1	6479 ミネベアミツミ	82.6		26.0	1	16.8	2	9.3	1	23.8	6.7	1	
2	6981 村田製作所	79.3		25.1	2	16.9	1	8.8	4	22.0	6.5	2	2
3	6594 日本電産	76.7		24.1	3	16.5	3	9.1	2	21.9	5.1	6	1
4	6762 TDK	74.0		22.8	4	16.2	4	8.8	4	20.6	5.6	5	3
5	6963 ローム	72.8		21.9	5	15.3	5	8.7	6	21.0	5.9	3	4
6	6971 京セラ	68.3		20.3	6	13.5	6	9.0	3	19.7	5.8	4	5
7	6988 日東電工	59.8		18.4	7	12.4	7	7.5	7	16.5	5.0	7	6
	評価対象企業評価平均点	73.37		22.65		15.38		8.75		20.79	5.80		

2022年度 ディスクロージャリー評価比較総括表（精密機器部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目3 (配点 32点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目4 (配点 20点)		3. フェア・ディスクロージャー 評価項目2 (配点 10点)		4. ESGに関連する情報の開示 評価項目4 (配点 28点)		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1 (配点 10点)		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8035 東京エレクトロン	82.6	26.6	1	16.5	1	8.7	1	22.8	2	8.0	2	2
2	4901 富士フイルムホールディングス	79.6	25.5	2	15.2	3	8.5	4	22.3	3	8.1	1	1
3	7752 リコー	79.3	25.1	4	14.5	7	8.6	2	23.4	1	7.7	3	3
4	6724 セイコーエプソン	76.2	23.9	5	14.6	6	8.3	5	21.9	4	7.5	4	7
5	7741 HOYA	74.4	25.5	2	16.2	2	8.6	2	18.9	7	5.2	8	5
6	6857 アドバンテスト	74.3	23.5	6	15.1	4	7.8	8	20.9	5	7.0	5	4
7	6146 ディスコ	68.8	21.2	7	14.8	5	8.2	6	18.5	8	6.1	6	6
8	7751 キヤノン	68.3	20.2	8	13.4	8	8.1	7	20.7	6	5.9	7	8
	評価対象企業評価平均点	75.46	23.94		15.05		8.35		21.18		6.94		

2022年度評価項目および配点（電気・精密機器）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（32点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
②経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができますか。また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	12
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会における開示	
①決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	5
②決算説明会において、今後の方向性（翌四半期の見通し等）を具体的に十分説明していますか。	5
(2)説明会資料等における開示	
・決算説明会におけるプレゼンテーション・補足資料は、必要かつ十分な情報が網羅されていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
(3)インタビュー等における開示	
・主要製品または事業の販売・受注動向が、数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもって、十分に説明されていますか。	5
3. フェア・ディスクロージャー（10点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
(2)リモートツールによる情報提供・グローバル対応	
・新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、英語対応、資料の日本語・英語同時対応）を行っていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
4. ESGに関連する情報の開示（28点）	配点
①気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していますか。	7
②気候変動問題に限らず、各企業が重要と考えるESGに関連する情報を積極的に開示していますか。	7
③資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	7
④上記①～③のESG情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していますか。	7
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	配点
・ESG説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A説明会・社外取締役を含めたIR活動が実施され、その内容は有益でしたか。（前年7月から本年6月までの間） 【有益な説明会・見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	10

電気・精密機器専門部会委員

部 会 長	佐渡 拓実	大和証券
部会長代理	江澤 厚太	シティグループ証券
	綾田 純也	JP モルガン証券
	桂 竜輔	SMBC 日興証券
	富井 喜隆	MU 投資顧問
	福永 敬輔	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	和田木 哲哉	野村証券

評価実施アナリスト（75名）

饗場 大介	岩井コスモ証券	島本 隆司	岡三証券
秋月 学	野村証券	清水 俊宏	アセットマネジメント One
秋山 貢一	岡三証券	下森 浩	三菱 UFJ 信託銀行
綾田 純也	JP モルガン証券	平 秀昭	三井住友トラスト・アセットマネジメント
有沢 正一	岩井コスモ証券	高橋 豊	極東証券経済研究所
安藤 広樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	田中 健士	みずほ証券
石塚 大	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	田中 秀明	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
和泉 美治	SBI 証券	谷林 正行	QUICK
磯 光裕	野村アセットマネジメント	坪井 暁	ニッセイ アセット マネジメント
板倉 充知	SOMPO アセットマネジメント	勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント
伊藤 健悟	QUICK	富井 喜隆	MU 投資顧問
今津 拓洋	アセットマネジメント One	富田 展昭	極東証券経済研究所
上迫 和也	三井住友トラスト・アセットマネジメント	豊田 博幸	QUICK
内野 晃彦	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	中根 康夫	みずほ証券
浦 昌平	アムンティ・シージャパン	中名生 正弘	ジェフリース証券会社 東京支店
江澤 厚太	シティグループ証券	西平 孝	岡三証券
大芦 尚広	朝日ライフ アセットマネジメント	西村 美香	クレディ・スイス証券
大川 淳士	大和証券	長谷川 義人	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
大牧 実慶	立花証券	福永 敬輔	三井住友トラスト・アセットマネジメント
岡崎 優	野村証券	藤原 毅郎	シティグループ証券
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	藤原 重良	SOMPO アセットマネジメント
小野 雅弘	モルガン・スタンレー MUFG 証券	堀 雄介	みずほ証券
小野 まな実	三菱 UFJ 信託銀行	堀井 章	ニッセイ アセット マネジメント
小野 友嗣	野村アセットマネジメント	グレアム マクドナルド	シティグループ証券
片山 智宏	三井住友トラスト・アセットマネジメント	松浦 勇佑	丸三証券
桂 竜輔	SMBC 日興証券	道脇 祐介	三菱 UFJ 信託銀行
蒲生 宗央	野村アセットマネジメント	南 純一	りそなアセットマネジメント
川島 隆治	大和アセットマネジメント	森 貴宏	みずほ証券
久保田 悟	三井住友トラスト・アセットマネジメント	山崎 雅也	野村証券
小林 守伸	ニッセイ アセット マネジメント	山科 拓	マコーリーキャピタル証券会社
斉田 健一	みずほ証券	山田 幹也	みずほ証券
榮 哲史	大和証券	山本 真以人	ニッセイ アセット マネジメント
佐々木 健太郎	シュローダー・インベストメント・マネジメント	横山 礼文	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
佐渡 拓実	大和証券	横山 雄一	三菱 UFJ 信託銀行
佐藤 俊郎	極東証券経済研究所	吉積 和孝	SMBC 日興証券
佐原 孝輔	丸三証券	和田木 哲哉	野村証券
醒井 周太	ニッセイ アセット マネジメント	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券
芝野 正紘	シティグループ証券		

（注）上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

自動車・同部品・タイヤ

1. 評価対象企業（21 社）

トヨタ紡織、横浜ゴム、TOYO TIRE、ブリヂストン、住友ゴム工業、豊田自動織機、デンソー、日産自動車、いすゞ自動車、トヨタ自動車、日野自動車、三菱自動車工業、アイシン、マツダ、本田技研工業、スズキ、SUBARU、ヤマハ発動機、小糸製作所、豊田合成、ニフコ（新規）

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	20
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	10
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	40
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	10
計		9	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 77 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

（2） 評価実施アナリストは 29 名（所属先 23 社）である。（氏名等は 78 頁参照）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は 76 頁参照）

- ① 本年度は、新規の企業を加えたほか、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 64.8 点（昨年度 65.0 点）、総合評価点の標準偏差は 6.5 点（昨年度 5.0 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を比較すると、高得点順に、タイヤメーカー（4 社：横浜ゴム、TOYO TIRE、ブリヂストン、住友ゴム工業）65.9 点（昨年度 64.2 点）、自動車メーカー（10 社：日産自動車、いすゞ自動車、トヨタ自動車、日野自動車、三菱自動車工業、マツダ、本田技研工業、スズキ、SUBARU、ヤマハ発動機）64.8 点（昨年度 64.5 点）、自動車部品メーカー（7 社：トヨタ紡織、豊田自動織機、デンソー、アイシン、小糸製作所、豊田合成、ニフコ）64.1 点（昨年度 66.1 点）となった。タイヤメーカーにおいては得点率が改善した企業が多く、業態としても昨年度の総合評価平均点を上回った。なお、タイヤメーカーは、2006 年度に評価対象となって以来、業態別で初めてのトップとなった。一方、自動車部品メーカーは下がった。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 67%（昨年度 66%）、説明会等が 69%（昨年度 66%）、フェア・ディスクロージャーが 73%（昨年度 67%）、ESG 関連が 60%（昨年度 65%）、自主的情報開示が 63%（昨年度 62%）となった。昨年度に得点率を大きく

下げたフェア・ディスクロージャーが改善したが、ESG 関連は下がった。

- ④ 評価項目について見ると、70%以上となったものは次の2項目（フェア・ディスクロージャーの項目(a)、説明会等の中の1項目(b)）であった。そのほかは、50%台の1項目（次の⑤の項目）を除き、全て60%台であった（昨年度は、70%以上の項目はなく、50%台が1項目）。

- (a) 「経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか」（平均得点率73%〔昨年度67%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：60%台4社・70%台15社・80%台2社）
- (b) 「企業分析に必要かつ十分な情報が得られますか」（平均得点率70%〔昨年度67%〕）（得点率：50%台2社・60%台6社・70%台13社）

- ⑤ ESG 関連の次の項目（本年度の新設項目）は50%台となり、低い水準であった。

- ・「脱炭素に向けた長期ビジョンや、中期ロードマップなどを定性・定量両面で開示していますか。また、適切にアップデートしていますか」（平均得点率56%）（得点率：40%台4社・50%台10社・60%台6社・70%台1社）

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 プリヂストン（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点75.9点〔昨年度比+3.0点〕、昨年度第3位）

- ① 同社は、経営陣のIR姿勢等（得点率〈以下省略〉81%）、ESG 関連（74%）が第1位、フェア・ディスクロージャーが同得点第3位（79%）、説明会等が第5位（74%）、自主的情報開示が同得点第5位（76%）となった。2分野においてトップとなったほか、説明会等の得点率が昨年度に比べ大きく改善したことから、総合順位で第1位となった。タイヤメーカーとしては、初の第1位獲得である。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって理解が深まるようなディスカッションが行えていること。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」が、最も高い評価となった。また、「IR部門への経営資源の配分が充実していること（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど）」も第2位となったことから、この分野において第1位となった。これらに関連して、スモールミーティングを含めCEO、CFOによる情報発信の機会を多く設けていること、投資家ニーズに十分に対応した対話姿勢などを評価する声が寄せられた。また、説明会動画の長期配信を評価する声もあった。
- ③ 説明会等においては、「説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）が十分であること」（同得点第3位）および「企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」（同得点第6位）は共に、昨年度に比べ10ポイント以上得点率が改善した。これらに関連して、中期経営計画などのアップデートや取組内容の開示が充実していること、説明資料（ポイント）と付属資料（詳細）の使い分けが適切であることを評価する声が寄せられた。また、開示情報の改善が継続的に見られるとの声もあった。なお、原材料価格の業績影響に関して、定量的な前提数値の一層の充実を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は、同得点第3位となった。これに関連して、決算説明会動画の英語配信や、メディア向けも含めた情報発信の頻度の高さを評価する声が寄せられた。
- ⑤ ESG 関連においては、「脱炭素に限らず、ESGに関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」が、最も高い評価となり、「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」も、同得点第1位となった。また、「脱炭素に向けた長期ビジョンや、中期ロードマップなどを定性・定量両面で開示していること。また、適切にアップデートしていること」が第2位となり、これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、ESG

への取組みの開示、アップデートなど全般に充実しているとの声が寄せられた。

- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は、同得点第5位となり、昨年度と比べ得点率が改善した。これに関連して、マネジメントによるスモールミーティングや、ブリヂストンイノベーションパーク見学会などを評価する声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 デンソー（総合評価点 74.6 点〔昨年度比+1.1 点〕、昨年度第1位）

- ① 同社は、**説明会等**が第1位（77%）、**ESG 関連**（73%）、**自主的情報開示**（80%）が第2位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第3位（79%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第10位（70%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって理解が深まるようなディスカッションが行えていること。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」（第8位）は、昨年度と比べ得点率が下がった。これに関連して、**CFO** の市場との対話姿勢、事業説明会の開催などを評価する声がある一方で、取材対応に関して消極的になったことは残念との声もあった。「**IR 部門**への経営資源の配分が充実していること（十分な人員配置、**IR 部門**への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど）」については、平均得点率と同程度となった。これに関連して、**IR 部門**への情報集積を評価しつつ、人員体制のさらなる充実を望む声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）が十分であること」が、最も高い評価となった。これに関連して、**CFO** が他社との相対感などを積極的に発言し説明がわかりやすいとの声や、説明会における質疑応答では投資家の関心に応える姿勢が見られるとの声が寄せられた。「企業分析に必要な情報が得られること」は、同得点第6位となった。これに関連して、決算資料の利益増減に関する定義の変更が多く、理解がやや困難との声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および **IR 部門**が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は、同得点第3位となり、昨年度と比べ得点率が改善した。これに関連して、決算説明会での質疑応答を英語でウェブサイトに掲載していることを評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「脱炭素に向けた長期ビジョンや、中期ロードマップなどを定性・定量両面で開示していること。また、適切にアップデートしていること」が、最も高い評価となり、「脱炭素に限らず、**ESG** に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」も第2位となった。また、「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」は、同得点第4位となった。これらの結果、この分野において第2位となった。これらに関連して、**ESG** の取組みと企業価値向上とを結びつけた戦略を評価する声が寄せられたほか、**ESG** の取組みに積極的であり内容もアップデートされているとの声もあった。なお、業界の中では資本政策に踏み込んでいるものの、グループ共通のガバナンスの一層の説明が課題との声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は第2位となり、80%以上の得点率となった。これに関連して、半導体戦略説明会の開催を評価する声が多く寄せられた。

第3位 豊田合成（総合評価点 71.5 点〔昨年度比-1.8 点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**が第2位（80%）、**ESG 関連**が第3位（67%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第4位（75%）、**自主的情報開示**が同得点第5位（76%）、**説明会等**が同得点第9位（71%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって理解が深まるようなディスカッションが行えていること。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」および「**IR 部門**への経営資源の配分が充実していること（十分な人員配置、**IR 部門**への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど）」が共に、同得点第4位となった。これらに関連して、**IR 情報**に関する積極的なメール配信や、事業説明会における中期戦略の説明を評価する声

が寄せられた。また、IR 部門への情報集積が進んできているとの声もあった。

- ③ **説明会等**においては、「説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）が十分であること」（同得点第 8 位）および「企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」（第 10 位）は共に、平均得点率と同程度にとどまった。これに関連して、説明会資料における地域別増減要因分析の開示を評価しつつ、その説明がややわかりにくいとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」（第 2 位）は、80% 以上の得点率となった。これに関連して、適時開示やメールでのアップデートを評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「脱炭素に限らず、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」が第 3 位となり、「脱炭素に向けた長期ビジョンや、中期ロードマップなどを定性・定量両面で開示していること。また、適切にアップデートしていること」が第 4 位となった。「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」は第 8 位となったが、平均得点率を上回った。これらの結果、この分野において第 3 位となった。これらに関連して、事業説明会（ESG を含む）の内容は業界内で先進的であり開示姿勢も評価できるとの声があった。なお、開示内容について適時のアップデートを望む声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」（同得点第 5 位）は、平均得点率を 10 ポイント以上上回った。これに関連して、事業説明会の内容を評価する声が多く寄せられた。また、社長とのスモールミーティングや、海外拠点とのミーティングが有益との声もあった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ **TOYO TIRE**（総合評価点 66.3 点〔昨年度比+4.3 点〕、第 10 位〔昨年度第 15 位〕）

- ① 同社は、昨年度から評価対象とした会社である。**説明会等**が第 4 位（75%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 6 位（73%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 10 位（73%）、**ESG 関連**が第 12 位（58%）、**自主的情報開示**が第 14 位（63%）となった。昨年度に比べ、**ESG 関連**を除く 4 分野で得点率が改善した結果、順位が大きく上昇した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって理解が深まるようなディスカッションが行えていること。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」が第 6 位となり、「IR 部門への経営資源の配分が充実していること（十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど）」が、同得点第 7 位となった。これらの結果、この分野において第 6 位（昨年度第 16 位）となった。これらに関連して、社長スモールミーティングの開催など IR が積極的になった、市場との対話姿勢が向上しているとの声があった。また、IR 担当者間の引継ぎも円滑に行われているとの声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」が、同得点第 2 位となり、「説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）が十分であること」も、同得点第 3 位となった。この結果、この分野において第 4 位（昨年度第 7 位）となった。これらに関連して、開示項目が改善したとの声や、会社の説明が明快であるとの声があった。
- ④ **ESG 関連**においては、「脱炭素に限らず、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」および「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」は共に、平均得点率と同程度となった。これらに関連して、株主還元方針の開示内容や、サステナビリティ説明会の開催を評価する声があった。なお、「脱炭素に向けた長期ビジョンや、中期ロードマップなどを定性・定量両面で開示していること。また、適切にアップデートしていること」は、平均得点率に達しなかった。これに関連して、サステナビリティ説明会の定期的なアップデートを望む声があった。

以 上

2022年度 ディスクロージャリー評価比較総括表（自動車・同部品・タイヤ）

（単位：点）

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目2 (配点20点)		評価項目2 (配点20点)		評価項目1 (配点10点)		評価項目3 (配点40点)		評価項目1 (配点10点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5108 プリヂストン	75.9	16.2	1	14.8	5	7.9	3	29.4	1	7.6	5	3
2	6902 デンソー	74.6	14.0	10	15.4	1	7.9	3	29.3	2	8.0	2	1
3	7282 豊田合成	71.5	15.0	4	14.1	9	8.0	2	26.8	3	7.6	5	2
4	7203 トヨタ自動車	71.4	14.4	7	14.2	8	8.2	1	26.7	4	7.9	3	4
5	7270 SUBARU	69.3	15.2	2	15.1	2	7.6	7	23.9	10	7.5	7	5
6	7201 日産自動車	69.2	15.2	2	12.3	19	7.7	5	25.6	6	8.4	1	5
7	7202 いすゞ自動車	68.4	14.1	9	15.1	2	7.5	8	24.8	8	6.9	11	7
8	7272 ヤマハ発動機	68.0	14.3	8	13.7	11	7.3	10	24.8	8	7.9	3	10
9	7267 本田技研工業	66.7	13.5	11	13.5	13	7.3	10	25.9	5	6.5	13	13
10	5105 TOYO TIRE	66.3	14.6	6	14.9	4	7.3	10	23.2	12	6.3	14	15
11	7259 アイシン	65.9	12.1	18	13.5	13	7.7	5	25.4	7	7.2	9	8
12	3116 トヨタ紡織	65.6	12.9	13	14.4	6	7.3	10	23.6	11	7.4	8	8
13	7211 三菱自動車工業	64.3	14.7	5	14.4	6	7.2	15	21.4	17	6.6	12	12
14	5110 住友ゴム工業	61.4	12.1	18	13.3	15	7.1	17	21.9	15	7.0	10	18
15	7988 ニッポ	61.1	13.4	12	13.7	11	6.5	20	23.1	13	4.4	18	
16	7261 マツダ	60.3	12.8	14	14.1	9	7.4	9	21.8	16	4.2	19	11
17	5101 横浜ゴム	59.9	12.4	15	13.3	15	7.2	15	22.0	14	5.0	15	14
18	7269 スズキ	57.9	12.4	15	12.7	18	6.9	18	21.2	19	4.7	16	17
19	6201 豊田自動織機	57.7	12.3	17	13.2	17	7.3	10	21.3	18	3.6	20	16
20	7276 小糸製作所	52.6	11.6	20	11.9	20	6.1	21	19.6	21	3.4	21	19
21	7205 日野自動車	52.5	9.7	21	11.4	21	6.7	19	20.0	20	4.7	16	20
	評価対象企業評価平均点	64.79	13.47		13.77		7.34		23.89		6.32		

2022年度評価項目および配点（自動車・同部品・タイヤ）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（20点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって理解が深まるようなディスカッションが行えていますか。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。	10
(2)IR部門の機能	
・IR部門への経営資源の配分は充実していますか。（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど）	10
【経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンスに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会における開示	
・説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）は十分ですか。	10
(2)説明資料等における開示	
・企業分析に必要かつ十分な情報が得られますか。	10
【説明会、インタビュー、説明資料等における開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
3. フェア・ディスクロージャー（10点）	配点
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか。	10
【フェア・ディスクロージャーに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
4. ESGに関連する情報の開示（40点）	配点
①脱炭素に向けた長期ビジョンや、中期ロードマップなどを定性・定量両面で開示していますか。また、適切にアップデートしていますか。	20
②脱炭素に限らず、ESGに関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。	10
③資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていますか。	10
【ESGに関連する情報の開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	配点
・事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容は有益ですか。 [過去1年間を目安に評価]	10

自動車・同部品・タイヤ専門部会委員

部 会 長	箱守 英治	大和証券
部会長代理	高橋 耕平	UBS 証券
	岩井 徹	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	北川 知明	三井住友 DS アセットマネジメント
	楯本 将隆	野村証券
	坂口 大陸	みずほ証券
	吉田 有史	シティグループ証券

評価実施アナリスト（29 名）

秋田 昌洋	クレディ・スイス証券	坂牧 史郎	大和証券
新井 光樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	杉本 浩一	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
安藤 広樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	高田 悟	ライオン・アイ・タワース
石山 孝高	みずほ証券	高橋 耕平	UBS 証券
岩井 徹	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	田中 彰	三菱 UFJ 信託銀行
江口 由紀	野村アセットマネジメント	田中 健司	アセットマネジメント One
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	夏目 宏之	東京海上アセットマネジメント
垣内 真司	モルガン・スタンレー MUFG 証券	成瀬 伸弥	岡三証券
夏 文俊	CLSA 証券	箱守 英治	大和証券
北川 知明	三井住友 DS アセットマネジメント	花井 美穂	SOMPO アセットマネジメント
木下 壽英	SMBC 日興証券	広川 孝一	JP モルガン・アセット・マネジメント
楯本 将隆	野村証券	村井 翔	ニッセイ アセット マネジメント
久保田 悟	三井住友トラスト・アセットマネジメント	森本 章	極東証券経済研究所
小西 慶祐	QUICK	吉田 有史	シティグループ証券
坂口 大陸	みずほ証券株		

（注）上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

エネルギー

1. 評価対象企業（21 社）

【石油・鉱業部門】（5 社）

I N P E X、石油資源開発、出光興産、E N E O S ホールディングス、
コスモエネルギーホールディングス

【電力・ガス部門】（16 社）

日本瓦斯、東京電力ホールディングス、中部電力、関西電力、中国電力、北陸電力、
東北電力、四国電力、九州電力、北海道電力、電源開発、イーレックス（注）、
レノバ（注）、東京瓦斯、大阪瓦斯、東邦瓦斯

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）昨年度、トライアル評価を実施した（次年度の評価を見据えた予備的な評価で、評価結果は非公表）。

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	5
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	35
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的信息開示	1	5
計		11	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 87 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

（2） 評価実施アナリストは 23 名（所属先 19 社）である。（氏名等は 88 頁参照）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は 84～86 頁参照）

- ① 本年度は、新規の企業を加えたほか、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 62.7 点（昨年度 64.6 点）、総合評価点の標準偏差は 8.8 点（昨年度 6.6 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、石油・鉱業部門（5 社）が 72.4 点（昨年度 70.2 点）、電力・ガス部門（16 社）が 59.7 点（昨年度 62.8 点）となった。さらに業態を細分化して見ると点数の高い順に、石油 73.3 点（昨年度 71.7 点）、鉱業 71.2 点（昨年度 68.0 点）、ガス 68.1 点（昨年度同得点）、電力 56.9 点（昨年度 60.4 点）となった。昨年度に比べ、電力会社およびガス会社の多くが総合評価点を下げた。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 63%（昨年度 68%）、説明会等が 61%（昨年度 69%）、フェア・ディスクロージャーが 84%（昨年度 65%）、

ESG 関連が 60%（昨年度 58%）、自主的情報開示が 61%（昨年度同率）となった。なお、フェア・ディスクロージャーの平均得点率が、昨年度に比べ大幅に上昇しているが、これは、当該分野の各評価項目の得点率が大きく改善したこと（下記④参照）に加え、昨年度低水準であった評価項目（1 項目）が削除された影響がある。

- ④ 評価項目（全 11 項目）について見ると、次のとおり、フェア・ディスクロージャーの 2 項目は平均得点率が 80%以上となり、高い水準となった。

- (a) 「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢について、メディアを含む総合的な情報開示につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか」（平均得点率 98%〔昨年度 86%〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：80%2 社・90%1 社・100%18 社）
- (b) 「リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していますか」（平均得点率 81%〔昨年度 70%〕）（得点率：70%台 4 社・80%台 16 社・90%台 1 社）

- ⑤ 一方、次の、経営陣の IR 姿勢等の中の 1 項目（本年度の新設項目）は、平均得点率が 20%となり、全項目の中で最も低くなった。得点率を見ると、評価対象企業の多くが 10%台以下となっており、当該企業には今後の改善を強く求めたい。

- ・ 「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」（平均得点率 20%）（得点率：10%未満 7 社、10%台 10 社・30%台 1 社・70%台 3 社）

- ⑥ ESG 関連の 3 項目は、次のとおりとなった。

- (a) 「非財務情報（ESG 情報等）について、株式市場が求める定性および定量面での開示に積極的に取り組んでいますか」（平均得点率 62%〔昨年度同率〕）（得点率：40%台 1 社・50%台 6 社・60%台 11 社・70%台 3 社）
- (b) 「中・長期経営計画を公表し、株主還元策や資本政策、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか」（平均得点率 61%〔昨年度 59%〕）（得点率：40%台 8 社・50%台 11 社・60%台 2 社）
- (c) 「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報」（平均得点率 54%〔昨年度 57%〕）（得点率：30%台 1 社・40%台 4 社・50%台 6 社・60%台 5 社・70%台 3 社・80%台 2 社）

(2) 全体の上位 3 企業の評価概要

第 1 位 ENEOS ホールディングス（総合評価点 75.8 点〔昨年度同得点〕、昨年度第 2 位）

- ① 同社は、ESG 関連が第 1 位（得点率（以下省略）79%）、説明会等（74%）、自主的情報開示（72%）が第 4 位、経営陣の IR 姿勢等が第 5 位（73%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 5 位（86%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」の得点率が、昨年度に比べ大きく改善し、最も高い評価となった。「IR 部門の機能」（同得点第 6 位）も、得点率が改善した。これらに関連して、社長以下経営陣の IR 姿勢は積極的であり、経営の考え方を聞く機会が多いとの声や、経営陣に投資家の声を聴く姿勢が見られるとの声が寄せられた。また、IR 部門の質が高く、IR 活動もプロアクティブであるとの声もあった。なお、「社外取締役との対話」は、同得点第 10 位となった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」が、同得点第 2 位となった。これに関連して、事業環境の見通しに関する意見交換は参考になるとの声や、各キャッシュフローの見通しが説明されている点を評価する声が寄せられた。「説明資料等における開示」（第 6 位）については、昨年度に比べ得点率が大きく下がった。これに関連して、成長投資から期待するリターンの開示が不十分との声や、セグメント毎の増減益要因についての説明の充実を求める声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が、満点評価となった。また、「リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していること」（同得点第 5 位）は、昨年度に比べ得点率が改善し、

80%以上となった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「非財務情報（ESG 情報等）に関する開示」が、最も高い評価となった。また、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」および「コーポレート・ガバナンスに関する開示」が共に、第2位となった。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、カーボンニュートラル計画を迅速に発表するなど、開示面でも業界をリードしているとの声が寄せられた。また、ESG 情報の提供に積極的であり、データや説明が充実しているとの声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる定量情報（例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等）が十分に開示されていること」は第4位となった。なお、事業説明会の開催を望む声もあった。

なお、当専門部会において検討した結果、本年度の当業種における優良企業はなしとなった。

第2位 日本瓦斯（総合評価点 74.4 点〔昨年度比－2.0 点〕、昨年度第1位）

- ① 同社は、**自主的情報開示**が同得点第1位（80%）、**説明会等**が第2位（78%）、**ESG 関連**が第3位（70%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第3位（88%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第4位（74%）となった。昨年度に比べ、**フェア・ディスクロージャー**および**自主的情報開示**を除く3分野の得点率が下がった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」（第2位）および「経営陣の IR 姿勢」（第3位）は共に、評価された。これらに関連して、マネジメントおよび IR 部門が一体となって IR 活動に取り組み、内容にも工夫が見られるとの声や、役員が IR トップであり、責任をもって活動をしているとの声が寄せられた。なお、成長戦略について、ビジョンから具体的な数値に落とし込んでいくことを期待するとの声もあった。「社外取締役との対話」は、同得点第6位となった。
- ③ **説明会等**においては、「説明資料等における開示」が第2位、「説明会、インタビューにおける開示」も、同得点第2位となった。これらに関連して、定量データが充実しており、また、事業環境見通しに係る意見交換を行うなど有益であるとの声が寄せられたほか、四半期ベースの詳細な業績数値の開示を評価する声もあった。なお、業績数値に関するリスクの積極的な開示を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が、満点評価となった。また、「リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していること」（同得点第3位）も、高い評価となった。これらに関連して、決算説明会の動画を質疑応答まで含めてウェブ配信していることを評価する声がある一方、質疑応答を含む説明会議事録のウェブサイトへの掲載を求める声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」が、最も高い評価となった。また、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」が第3位となった。これらに関連して、統合報告書における、資本戦略や TCFD のシナリオ分析に関する記述を評価する声があった。「非財務情報（ESG 情報等）に関する開示」（同得点第13位）については、平均得点率と同程度であった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる定量情報（例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等）が十分に開示されていること」は、同得点第1位となった。これに関連して、テーマ性のあるスモールミーティングの開催や、月次情報の充実を評価する声があった。なお、長期的な収益ビジョンに関する定量面での開示の充実を望む声もあった。

第3位 出光興産（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 72.1 点〔昨年度比＋4.0 点、一昨年度比＋8.3 点〕、昨年度第6位〔一昨年度第12位〕）

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**が第1位（78%）、**ESG 関連**が第5位（67%）、**自主的情報開示**が同得点第6位（66%）、**説明会等**が第7位（70%）、**フェア・ディスクロージャー**が第18位（80%）となった。昨年度に比べ、**自主的情報開示**を除く4分野において得点率が改善したことから、総合評価点の大幅な上昇となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「社外取締役との対話」が、最も高い評価となった。「経営陣の IR 姿勢」（第5位）および「IR 部門の機能」（同得点第6位）は共に、昨年度に比べ得点率が改善した。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、経営陣が投資家との対話を重視していることや、IR ヘッドをはじめ IR 担当者の意識の高さを評価する声が寄せられた。また、社外取締役とのディスカッションが有意

義であるとの声があった。

- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」（第 5 位）は、昨年度に比べ得点率が改善し、順位も上げた。一方で、「説明資料等における開示」（同得点第 8 位）は、得点率が下がった。これに関連して、説明会資料の内容を評価しつつ、ROIC 関連の KPI の記載を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していること」（同得点第 10 位）が、平均得点率と同程度となった。なお、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」については、同得点第 20 位となった。これに関連して、質疑応答を含む説明会議事録のウェブサイトへの掲載を望む声のほか、グループ会社に関する報道が開示に先行したことは残念との声もあった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」および「コーポレート・ガバナンスに関する開示」が共に、同得点第 4 位となった。「非財務情報（ESG 情報等）に関する開示」（同得点第 6 位）については、昨年度に比べ得点率が下がった。これらに関連して、社外取締役が ESG トップセミナーに登壇したことを評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる定量情報（例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等）が十分に開示されていること」は、同得点第 6 位となった。これに関連して、事業見学会の機会に、注力する分野の説明を充実させた点を評価する声があった。なお、低炭素につながる技術説明会の開催を望む声もあった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「**ディスクロージャーの改善が著しい企業**」に選定した。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ **石油資源開発**（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 71.3 点〔昨年度比+3.5 点、一昨年度比+5.9 点〕、第 5 位〔昨年度第 8 位、一昨年度第 9 位〕）

- ① 同社は、**説明会等**が第 1 位（79%）、**自主的情報開示**が同得点第 1 位（80%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 3 位（88%）、**ESG 関連**が第 4 位（67%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 8 位（67%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて順位を上げた。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」が第 3 位となり、「経営陣の IR 姿勢」（第 8 位）も、昨年度に比べ得点率が改善した。これらに関連して、経営トップの積極的な対話姿勢や、IR 部門の細やかな数値開示を評価する声が寄せられた。なお、「社外取締役との対話」は、同得点第 16 位となった。
- ③ **説明会等**においては、「説明資料等における開示」が、最も高い評価となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」も第 4 位となったことから、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、決算説明資料は定量的なデータが豊富になり、わかりやすくなってきているとの声や、増減益説明などのプレゼンテーション資料が優れているとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が、満点評価となった。また、「リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していること」（同得点第 3 位）も、高い評価となった。なお、質疑応答を含む説明会議事録のウェブサイトへの掲載を望む声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「非財務情報（ESG 情報等）に関する開示」が第 4 位となり、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」も、同得点第 4 位となった。これらに関連して、統合報告書での TCFD シナリオ分析を評価する声があった。なお、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」は、平均得点率と同程度となった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる定量情報（例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等）が十分に開示されていること」は、同得点第 1 位となった。これに関連して、見学会の開催を評価する声があった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「**ディスクロージャーの改善が著しい企業**」に選定した。

(参考) 部門別の第 1 位企業

【石油・鉱業部門】

ENEOS ホールディングス (総合評価点 75.8 点、全体第 1 位)

【電力・ガス部門】

日本瓦斯 (総合評価点 74.4 点、全体第 2 位)

以 上

2022年度 ディスクロージャ－評価比較総括表（エネルギー:全体）

（単位:点）

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点 35点)		評価項目2 (配点 20点)		評価項目2 (配点 5点)		評価項目3 (配点 35点)		評価項目1 (配点 5点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5020 ENEOSホールディングス	75.8	25.7	5	14.7	4	4.3	5	27.5	1	3.6	4	2
2	8174 日本瓦斯	74.4	26.0	4	15.6	2	4.4	3	24.4	3	4.0	1	1
3	5019 出光興産	72.1	27.4	1	13.9	7	4.0	18	23.5	5	3.3	6	6
4	5021 コスモエネルギーホールディングス	72.0	26.6	3	15.2	3	4.2	10	23.0	6	3.0	9	4
5	1662 石油資源開発	71.3	23.6	8	15.7	1	4.4	3	23.6	4	4.0	1	8
6	1605 INPEX	71.0	23.8	7	13.1	9	4.3	5	26.8	2	3.0	9	5
7	9508 九州電力	68.7	26.9	2	10.6	14	4.5	2	23.0	6	3.7	3	6
8	9532 大阪瓦斯	67.4	23.0	10	14.1	5	4.2	10	22.8	9	3.3	6	3
9	9531 東京瓦斯	66.5	21.9	12	14.0	6	4.3	5	22.9	8	3.4	5	9
10	9503 関西電力	64.7	24.0	6	12.9	10	4.2	10	20.7	12	2.9	14	17
11	9533 東邦瓦斯	63.8	22.0	11	13.6	8	4.2	10	21.0	11	3.0	9	12
12	9519 レノバ	62.9	23.1	9	12.9	10	4.6	1	19.5	14	2.8	15	
13	9513 電源開発	60.9	19.6	17	12.7	12	4.1	17	21.5	10	3.0	9	13
14	9502 中部電力	58.3	20.8	15	10.5	15	4.2	10	20.3	13	2.5	17	10
15	9509 北海道電力	57.1	21.1	13	10.0	16	4.3	5	19.0	15	2.7	16	13
16	9507 四国電力	56.6	20.6	16	9.9	17	4.2	10	18.9	16	3.0	9	16
17	9517 イーレックス	54.5	21.1	13	11.1	13	3.8	20	15.4	21	3.1	8	
18	9504 中国電力	51.4	17.3	18	9.4	18	4.2	10	18.2	17	2.3	19	18
19	9506 東北電力	50.4	16.7	20	8.9	20	4.3	5	18.2	17	2.3	19	18
20	9505 北陸電力	49.9	16.5	21	9.1	19	3.9	19	18.1	19	2.3	19	20
21	9501 東京電力ホールディングス	46.7	16.8	19	8.1	21	3.6	21	15.8	20	2.4	18	21
	評価対象企業評価平均点	62.69	22.11		12.19		4.20		21.16		3.03		

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表（電力・ガス部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点 35点)		評価項目2 (配点 20点)		評価項目2 (配点 5点)		評価項目3 (配点 35点)		評価項目1 (配点 5点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8174 日本瓦斯	74.4	26.0	2	15.6	1	4.4	3	24.4	1	4.0	1	1
2	9508 九州電力	68.7	26.9	1	10.6	9	4.5	2	23.0	2	3.7	2	3
3	9532 大阪瓦斯	67.4	23.0	5	14.1	2	4.2	7	22.8	4	3.3	4	2
4	9531 東京瓦斯	66.5	21.9	7	14.0	3	4.3	4	22.9	3	3.4	3	4
5	9503 関西電力	64.7	24.0	3	12.9	5	4.2	7	20.7	7	2.9	9	12
6	9533 東邦瓦斯	63.8	22.0	6	13.6	4	4.2	7	21.0	6	3.0	6	7
7	9519 レノバ	62.9	23.1	4	12.9	5	4.6	1	19.5	9	2.8	10	
8	9513 電源開発	60.9	19.6	12	12.7	7	4.1	13	21.5	5	3.0	6	8
9	9502 中部電力	58.3	20.8	10	10.5	10	4.2	7	20.3	8	2.5	12	5
10	9509 北海道電力	57.1	21.1	8	10.0	11	4.3	4	19.0	10	2.7	11	8
11	9507 四国電力	56.6	20.6	11	9.9	12	4.2	7	18.9	11	3.0	6	11
12	9517 イーレックス	54.5	21.1	8	11.1	8	3.8	15	15.4	16	3.1	5	
13	9504 中国電力	51.4	17.3	13	9.4	13	4.2	7	18.2	12	2.3	14	13
14	9506 東北電力	50.4	16.7	15	8.9	15	4.3	4	18.2	12	2.3	14	13
15	9505 北陸電力	49.9	16.5	16	9.1	14	3.9	14	18.1	14	2.3	14	15
16	9501 東京電力ホールディングス	46.7	16.8	14	8.1	16	3.6	16	15.8	15	2.4	13	16
	評価対象企業評価平均点	59.66	21.09		11.47		4.19		19.99		2.92		

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表（石油・鉱業部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. ESGに関連する 情報の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位
			評価項目3 (配点 35点)	評価項目2 (配点 20点)	評価項目2 (配点 5点)	評価項目3 (配点 35点)	評価項目1 (配点 5点)	
1	5020 ENEOSホールディングス	75.8	評価点 25.7 順位 3	評価点 14.7 順位 3	評価点 4.3 順位 2	評価点 27.5 順位 1	評価点 3.6 順位 2	1
2	5019 出光興産	72.1	評価点 27.4 順位 1	評価点 13.9 順位 4	評価点 4.0 順位 5	評価点 23.5 順位 4	評価点 3.3 順位 3	4
3	5021 コスモエネルギーホールディングス	72.0	評価点 26.6 順位 2	評価点 15.2 順位 2	評価点 4.2 順位 4	評価点 23.0 順位 5	評価点 3.0 順位 4	2
4	1662 石油資源開発	71.3	評価点 23.6 順位 5	評価点 15.7 順位 1	評価点 4.4 順位 1	評価点 23.6 順位 3	評価点 4.0 順位 1	5
5	1605 INPEX	71.0	評価点 23.8 順位 4	評価点 13.1 順位 5	評価点 4.3 順位 2	評価点 26.8 順位 2	評価点 3.0 順位 4	3
	評価対象企業評価平均点	72.44	評価点 25.42	評価点 14.52	評価点 4.24	評価点 24.88	評価点 3.38	

2022年度評価項目および配点（エネルギー）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・会社主催の説明会に社長または会長が年2回以上出席し、今後の経営方針や株主還元策、ESG等について有意義なディスカッションができますか。経営陣が積極的に市場からのエンゲージメントを受け入れる意欲を持っていますか。	20
(2)社外取締役との対話	
・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	5
(3)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、業績の好不調にかかわらず、IR担当者等と有益なディスカッションができますか。	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明資料等における開示	
・決算の実績および業績の見通しについて、収益および財務分析に必要な定量情報が十分に記載されていますか。例えば、前提条件、感応度、主要費用。	10
(2)説明会、インタビューにおける開示	
・説明会やインタビュー等（ESG情報を含む）において、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	10
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢について、メディアを含む総合的な情報開示につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか。	1
(2)多様な情報提供	
・リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していますか。	4
4. ESGに関連する情報の開示（35点）	配点
(1)非財務情報（ESG情報等）に関する開示	
・非財務情報（ESG情報等）について、株式市場が求める定性および定量面での開示に積極的に取り組んでいますか。	15
(2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示	
・中・長期経営計画を公表し、株主還元策や資本政策、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか。	15
(3)コーポレート・ガバナンスに関する開示	
・コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（5点）	配点
・事業を理解する上で重要と思われる定量情報が十分に開示されていますか。例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等。	5

エネルギー専門部会委員

部 会 長	新家 法昌	みずほ証券
部会長代理	荻野 零児	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	大畠 彰雄	野村アセットマネジメント
	西川 周作	大和証券
	松本 繁季	野村證券
	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
	山崎 慎一	SBI 証券

評価実施アナリスト（23名）

安藤 誠悟	大和アセットマネジメント	新家 法昌	みずほ証券
安藤 広樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	富田 展昭	極東証券経済研究所
石井 宏	朝日ライフ アセットマネジメント	西川 周作	大和証券
和泉 美治	SBI 証券	野田 健介	ニッセイ アセット マネジメント
井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント	長谷川 義人	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
大野 高	三菱 UFJ 信託銀行	福元 千佳	JP モルガン証券
大畠 彰雄	野村アセットマネジメント	松浦 勇佑	丸三証券
荻野 零児	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	松本 繁季	野村證券
神近 広二	SMBC 日興証券	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
黒木 文明	ニッセイ アセット マネジメント	山崎 慎一	SBI 証券
佐久間 聡	QUICK	渡辺 真理子	UBS 証券
白川 祐	モルガン・スタンレー MUFG 証券		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

運 輸

1. 評価対象企業（17 社）

【陸 運】（12 社）

東急、東日本旅客鉄道、西日本旅客鉄道、東海旅客鉄道、西武ホールディングス、
阪急阪神ホールディングス、ヤマトホールディングス、山九、日立物流、九州旅客鉄道、
SG ホールディングス、NIPPON EXPRESS ホールディングス（注）

【海 運】（3 社）

日本郵船、商船三井、川崎汽船

【空 運】（2 社）

日本航空、ANA ホールディングス

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）日本通運を完全子会社化し、持株会社体制に移行した（2022 年 1 月）。

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	3	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	12
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	8
計		14	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 94 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

（2） 評価実施アナリストは 27 名（所属先 23 社）である。（氏名等は 95 頁参照）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は 93 頁参照）

- ① 本年度は、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 65.1 点（昨年度 66.3 点）、総合評価点の標準偏差は 7.2 点（昨年度 7.9 点）であった。昨年度に比べ、評価対象企業 17 社のうち 13 社の総合評価点が下がった。
- ② 業態別の総合評価平均点を比較して見ると、高得点順に、空運（2 社）71.2 点（昨年度 73.8 点）、海運（3 社）70.8 点（昨年度 71.4 点）、陸運（12 社）62.7 点（昨年度 64.7 点）となった。昨年度に比べ、各業態とも下げたが、海運の下げ幅が相対的に小さかったため、空運との差が縮まった。陸運については、一部の企業は

総合評価点を上げたものの、多くの企業は下げており、当該企業の改善努力が強く望まれる。

- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均／配点（以下省略））を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が63%（昨年度64%）、**説明会等**が67%（昨年度68%）、**フェア・ディスクロージャー**が81%（昨年度同率）、**ESG関連**が60%（昨年度62%）、**自主的情報開示**が63%（昨年度64%）となった。
- ④ 評価項目を見ると、平均得点率が80%以上と高水準のものは、次の3項目（全て**フェア・ディスクロージャー**）であった（昨年度2項目）。

- (a) 「経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか」（平均得点率84%〔昨年度85%〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：70%台3社・80%台13社・90%台1社）
- (b) 「ウェブサイトで有用な情報提供（過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画・質疑応答の状況等）を日英両言語でタイムリーに行っていますか」（平均得点率81%〔昨年度83%〕）（得点率：40%台1社・70%台2社・80%台12社・90%台2社）
- (c) 「新しい働き方に即して、多様なリモートツールを活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、英語対応）を行っていますか」（平均得点率80%〔昨年度75%〕）（得点率：60%台1社・70%台6社・80%台10社）

- ⑤ 一方、平均得点率が50%台と低水準のものは、4項目であったが（昨年度2項目）、**自主的情報開示**の中の次の1項目が、昨年度に続き最も低くなった。

- ・ 「ESG説明会・施設見学会・事業説明会・IR部門以外とのミーティング等を積極的に実施し、かつその内容が充実していますか」（平均得点率56%〔昨年度57%〕）（得点率：30%台2社・40%台3社・50%台6社・60%台3社・70%台3社）

- ⑥ **ESG関連**の3項目（全て本年度の新設項目）は、次のとおりとなった。

- (a) 「価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていますか」（平均得点率65%）（得点率：40%台1社・50%台2社・60%台9社・70%台5社）
- (b) 「ESGに関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか」（平均得点率59%）（得点率：30%台1社・50%台8社・60%台8社）
- (c) 「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていますか」（平均得点率58%）（得点率：30%台1社・40%台2社・50%台7社・60%台6社・70%台1社）

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 日本航空（ディスクロージャー優良企業〔2回連続4回目〕、総合評価点72.8点〔昨年度比－2.0点〕）

- ① 同社は、**ESG関連**が第1位（得点率（以下省略）68%）、**経営陣のIR姿勢等**（73%）、**自主的情報開示**（79%）が第3位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第4位（84%）、**説明会等**が同得点第7位（70%）となった。昨年度に比べ、**説明会等**および**ESG関連**の得点率が下がった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「IR部門の機能」が第2位となった。これに関連して、IR部門のクオリティは高く、自社の強みについてわかりやすく情報提供しているとの声が寄せられた。なお、**ESG関連**部署とのさらなる連携に期待するとの声もあった。「経営陣のIR姿勢」（2項目）は共に、第3位となり、このうち、「経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって有意義なメッセージを発信していること。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」は、第1位と僅差であった。これらに関連して、経営陣がIRに積極的であり、厳しい外部環境の中で企業価値向上を意識しつつ経営を行っていることが伝わってくるとの声が寄せられた。また、**ESG**を中期経営計画で押し出し、それについて投資家とも対話をするという姿勢は評価できるとの声もあった。
- ③ **説明会等**においては、3項目全てで、昨年度に比べ得点率および順位が下がった。そのうちの、「説明資料等

（短信およびその付属資料を含む）における開示」の 2 項目については、平均得点率と同程度にとどまった。これらに関連して、質疑に対する経営陣の適切な応答や、FSC、LCC、航空貨物などの詳細データの開示を評価する声が寄せられた一方で、会社計画の前提根拠がわかりにくいとの声や、国内線と国際線の収益性についての開示を求める声があった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツールによる情報提供」および「ウェブサイトにおける情報提供」が共に、同得点第 1 位となった。一方、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 15 位）については、平均得点率を下回った。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていること」および「ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」が共に、同得点第 1 位となった。「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること、また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」は、同得点第 5 位となり、これらの結果、この分野において第 1 位となった。ただし、第 2 位とは僅差であった。これらに関連して、運輸業界の中では ESG に積極的で、説明会の開催など理解を深める機会を提供していると評価する声があった。なお、ガバナンス面における情報開示の充実を望む声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「ESG 説明会・施設見学会・事業説明会・IR 部門以外とのミーティング等を積極的に実施し、かつその内容が充実していること」が第 2 位となった。また、「ウェブサイト、TDnet 等で有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていること」（同得点第 6 位）は、85%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において、第 1 位と僅差の第 2 位となった。これらに関連して、IR Day における各部門および社外取締役とのミーティングや、ESG に関する経営トップとの対話機会の設定を評価する声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 九州旅客鉄道（総合評価点 72.0 点〔昨年度比+1.0 点〕、昨年度第 6 位）

- ① 同社は、**自主的情報開示**が同得点第 1 位（80%）、**説明会等**が第 3 位（73%）、**経営陣の IR 姿勢等**（70%）、**ESG 関連**（67%）が第 4 位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 6 位（83%）となった。昨年度に比べ、**経営陣の IR 姿勢等**の得点率および順位の上昇が目立った。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営トップ等が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」（第 4 位）および「経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって有意義なメッセージを発信していること。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」（第 6 位）は共に、昨年度に比べ得点率が大きく改善した。また、「IR 部門の機能」も第 5 位となり、これらの結果、この分野において第 4 位（昨年度同得点第 11 位）となった。これに関連して、CFO が IR に積極的に対応しているとの声や、取材で経営陣の考え方がよく理解できるとの声が寄せられた。IR 部門については、簡潔に事業動向について情報提供していること、ESG 関連部門との連携をとった対応が見られることを評価する声があった。なお、新社長および新 CFO の今後の IR 姿勢に注目したいとの声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」の 2 項目が共に、得点率および順位を下げた。これらに関連して、現状分析のための情報は十分としつつ、不動産ホテルの収益性などのデータの開示や、新セグメントベースの開示の充実を望む声があった。「説明会における開示」は第 6 位となった。これに関連して、CFO が適切に補足するという形の質疑応答を評価する声もあったほか、コスト削減方針が定量的に説明されているとの声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 2 位）が、高い評価となった。「ウェブサイトにおける情報提供」および「リモートツールによる情報提供」は共に、平均得点率と同程度であった。なお、説明会の動画等の配信を望む声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること、また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」が第 2 位となった。また、他の 2 項目も平均得点率を上回った。これらに関連して、統合報告書の内容に、社会関連（安全や人材等）のデータや取組みも含め開示されており、会社の理解に参考になるとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「ESG 説明会・施設見学会・事業説明会・IR 部門以外とのミーティング等を積

積極的に実施し、かつその内容が充実していること」が、最も高い評価となった。また、「ウェブサイト、TDnet等では有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていること」（同得点第6位）は、85%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において同得点第1位となった。これらに関連して、IR Dayにおける各部門および社外取締役とのミーティングを評価する声が寄せられた。

第3位 商船三井（総合評価点 71.4 点〔昨年度比－1.4 点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（74%）、ESG 関連（68%）が第2位、説明会等が第5位（71%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第6位（83%）、自主的情報開示が同得点第11位（59%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示の得点率および順位が下がったが、ESG 関連が高く評価されたことなどもあり、総合順位を上げ、第3位となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって有意義なメッセージを発信していること。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」が、同得点第1位となった。また、「経営トップ等が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」が第2位となり、「IR 部門の機能」も第3位となった。これらに関連して、経営トップ、IR 部門が共に、IR の意識が高いとの声が寄せられた。また、業績だけでなく業界動向を含めた説明が有益との声もあった。
- ③ 説明会等においては、「説明会における開示」が、同得点第2位となった。一方、「収益および財務分析に必要な情報を十分に記載していること」（同得点第11位）は、平均得点率に達しなかった。これに関連して、マネジメントの説明がわかりやすいとの声がある一方で、自動車船事業の収益性に関する情報がわかりにくいとの声や、持分法適用会社である ONE 社に関する情報の充実を求める声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第2位）が、高い評価となった。「ウェブサイトにおける情報提供」および「リモートツールによる情報提供」は共に、平均得点率と同程度であった。なお、四半期ごとに説明会動画を配信していることを評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていること」が、同得点第1位となり、「ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」も第3位となった。また、「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること、また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」が、同得点第5位となり、これらの結果、この分野において、第1位と僅差の第2位となった。これらに関連して、ESG 説明会の開催を評価する声や、株主還元方針が明確であるとの声が寄せられた。なお、マテリアリティが設定されているが、目標が明確でないとの声もあった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「ESG 説明会・施設見学会・事業説明会・IR 部門以外とのミーティング等を積極的に実施し、かつその内容が充実していること」が、同得点第4位となったが、「ウェブサイト、TDnet 等では有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていること」（同得点第14位）は、平均得点率を大きく下回った。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ 川崎汽船（総合評価点 70.2 点〔昨年度比＋2.6 点、一昨年度比＋9.6 点〕、第5位〔昨年度第11位、一昨年度第15位〕）

- ・ 同社は、フェア・ディスクロージャーが第1位（88%）、ESG 関連が第3位（68%）、経営陣の IR 姿勢等（70%）、説明会等（71%）が第6位、自主的情報開示が第14位（54%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示を除く4分野において得点率が改善し、総合順位の大幅な上昇につながった。

以 上

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (運輸)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	9201 日本航空	72.8	21.9	3	14.0	7	10.1	4	20.5	1	6.3	3	1
2	9142 九州旅客鉄道	72.0	21.1	4	14.5	3	10.0	6	20.0	4	6.4	1	6
3	9104 商船三井	71.4	22.1	2	14.2	5	10.0	6	20.4	2	4.7	11	4
4	9101 日本郵船	70.9	22.4	1	13.7	10	10.3	2	19.8	6	4.7	11	3
5	9107 川崎汽船	70.2	20.9	6	14.1	6	10.6	1	20.3	3	4.3	14	11
6	9202 ANAホールディングス	69.5	21.0	5	14.9	1	10.0	6	18.5	8	5.1	9	5
7	9147 NIPPON EXPRESSホールディングス	68.7	19.4	7	13.5	11	9.8	11	19.9	5	6.1	4	2
8	9020 東日本旅客鉄道	68.3	19.4	7	14.0	7	10.2	3	18.3	9	6.4	1	8
9	9042 阪急阪神ホールディングス	67.0	18.4	11	14.4	4	9.9	10	18.9	7	5.4	6	13
10	9021 西日本旅客鉄道	66.0	18.8	10	13.9	9	9.6	13	18.2	10	5.5	5	9
11	9005 東急	65.3	18.1	12	14.6	2	10.0	6	17.9	11	4.7	11	10
12	9143 SGホールディングス	65.2	18.9	9	13.5	11	10.1	4	17.5	13	5.2	8	7
13	9086 日立物流	60.5	17.6	13	13.1	14	9.2	16	17.1	14	3.5	16	15
14	9064 ヤマトホールディングス	59.5	16.9	14	10.1	17	9.6	13	17.6	12	5.3	7	12
15	9022 東海旅客鉄道	57.8	15.6	16	13.3	13	9.7	12	14.3	16	4.9	10	17
16	9024 西武ホールディングス	57.7	16.6	15	12.4	15	9.4	15	15.1	15	4.2	15	14
17	9065 山九	44.5	12.8	17	10.9	16	7.5	17	10.6	17	2.7	17	18
	評価対象企業評価平均点	65.12	18.93		13.47		9.76		17.93		5.03		

2022年度評価項目および配点（運輸）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって有意義なメッセージを発信していますか。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
②経営トップ等が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、かつアナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、担当者と有益なディスカッションができますか。また、投資家のニーズに合わせ、ESG関連部門などと連携をとっていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会における開示	
・決算説明会等における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
①収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
②会社側が採用している情報開示のセグメント別・事業別の区分けは適切ですか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
3. フェア・ディスクロージャー（12点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	4
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
・ウェブサイトで有用な情報提供（過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画・質疑応答の状況等）を日英両言語でタイムリーに行っていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	3
(3)リモートツールによる情報提供	
・新しい働き方に即して、多様なリモートツールを活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、英語対応）を行っていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点
①価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていますか。	6
②ESGに関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。	12
③資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていますか。	12
【ESGに関連する情報の開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（8点）	配点
①ウェブサイト、TDnet等で有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていますか。	3
②ESG説明会・施設見学会・事業説明会・IR部門以外とのミーティング等を積極的に実施し、かつその内容は充実していますか。【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	5

運輸専門部会委員

部 会 長	一柳 創	大和証券
部会長代理	安藤 誠悟	大和アセットマネジメント
	尾坂 拓也	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	鈴木 克彦	みずほ証券
	土谷 康仁	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	手塚 裕一	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	姫野 良太	JP モルガン証券

評価実施アナリスト（27名）

饗場 大介	岩井コスモ証券	手塚 裕一	三井住友トラスト・アセットマネジメント
浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	戸田 浩司	りそなアセットマネジメント
安藤 誠悟	大和アセットマネジメント	富田 展昭	極東証券経済研究所
井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント	原嶋 悠也	SOMPO アセットマネジメント
今泉 達矢	アセットマネジメント One	坂東 俊輔	東京海上アセットマネジメント
大畠 彰雄	野村アセットマネジメント	一柳 創	大和証券
尾坂 拓也	モルガン・スタンレー MUFG 証券	姫野 良太	JP モルガン証券
唐木 健至	QUICK	広兼 賢治	野村證券
川嶋 宏樹	SMBC 日興証券	松崎 亘	JP モルガン・アセット・マネジメント
熊崎 崇文	三菱 UFJ 信託銀行	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
崎村 英治	野村アセットマネジメント	百田 史哉	三井住友トラスト・アセットマネジメント
三箇 和樹	三井住友 DS アセットマネジメント	山崎 慎一	SBI 証券
鈴木 克彦	みずほ証券	米澤 正祥	大和証券
土谷 康仁	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

通信・インターネット

1. 評価対象企業（11 社）

カカコム、ディー・エヌ・エー、GMO ペイメントゲートウェイ、インターネットイニシアティブ、Z ホールディングス、サイバーエージェント、楽天グループ、日本電信電話、KDDI、ソフトバンク、ソフトバンクグループ

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	28
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	7
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	5
計		15	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 101 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

（2） 評価実施アナリストは 43 名（所属先 26 社）である。（氏名等は 102 頁参照）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は 100 頁参照）

- ① 本年度は、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 71.6 点（昨年度 72.8 点）、総合評価点の標準偏差は 7.6 点（昨年度 4.6 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、通信（5 社：インターネットイニシアティブ、日本電信電話、KDDI、ソフトバンク、ソフトバンクグループ）は 76.7 点（昨年度 74.2 点）、インターネット（6 社：カカコム、ディー・エヌ・エー、GMO ペイメントゲートウェイ、Z ホールディングス、サイバーエージェント、楽天グループ）は 67.4 点（昨年度 71.4 点）となった。本年度も通信がインターネットを上回り、昨年度に縮小した両業態間の差は拡大した。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 74%（昨年度 75%）、説明会等が 71%（昨年度 72%）、フェア・ディスクロージャーが 83%（昨年度 84%）、ESG 関連が 70%（昨年度 68%）、自主的情報開示が 52%（昨年度 67%）となり、自主的情報開示は依然として低水準であった。
- ④ 評価項目について見ると、平均得点率が 90%以上の高水準となったもの（昨年度 3 項目）は、次の 1 項目

のみであった。

- ・ 「会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していますか」〔4 回以上出席：満点〕（平均得点率 100%〔昨年度同率〕）

⑤ 一方、次の 1 項目（**自主的情報開示**）は、昨年度に続き平均得点率は 50%台にとどまり、低水準であった。

- ・ 「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか」（平均得点率 52%〔昨年度 55%〕）（得点率：30%台 3 社・40%台 1 社・50%台 3 社・60%台 3 社・70%台 1 社）

⑥ なお、**ESG 関連**（4 項目）のうち、本年度に新設した項目（1 項目）は、次のとおりとなった。

- ・ 「E（環境）・S（社会）に関する情報を開示し、方向性を示し、投資家との対話を積み重ねていますか」（平均得点率 71%）（得点率：50%台 2 社・60%台 4 社・70%台 3 社・80%台 2 社）

（2）上位 3 企業の評価概要

第 1 位 日本電信電話（ディスクロージャー優良企業〔2 回連続 6 回目〕、総合評価点 82.4 点〔昨年度比+1.7 点〕

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**（得点率（以下省略）91%）、**ESG 関連**（88%）、**自主的情報開示**（74%）が第 1 位、**説明会等**が第 2 位（77%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 3 位（81%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していること」が満点となり、「会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができること」も、最も高い評価となった。また、「IR の基本スタンス」が第 2 位となり、「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」も、85%以上の得点率となった。これらに関連して、投資家との積極的なコミュニケーションや、スモールミーティングおよび IR DAY の開催を評価する声が寄せられた。なお、グループ再編に関連する十分な情報や海外事業の開示の充実を望む声があった。
- ③ **説明会等**においては、「キャッシュフロー計算書の実績および見通しがわかりやすく説明されていること」が、同得点第 2 位となった。また、「決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」および「アナリスト・投資家が分析・投資判断に有用な主要項目（オペレーションデータ等）の実績および見通しを十分に開示していること。情報開示の後退がないこと」が第 3 位となった。「会計基準の変更・セグメント見直し・KPI の定義変更等があった場合においても、一貫性のある財務諸表比較ができるよう配慮されていること」も同得点第 3 位となり、昨年度に比べ得点率が上がった。これらに関連して、説明時間および内容ともに十分であるとの声や、決算説明会や取材のリモート対応の迅速さを評価する声もあった。なお、非通信分野や法人事業の開示のさらなる充実を望む声や、利益増減について、図表などを用いた、より詳細な解説を求める声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていること」が、最も高い評価（満点）となった。また、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M&A、自然災害の影響等）の開示が、迅速かつ十分であること」も、同得点第 1 位となった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、説明会議事録の開示を評価する声があった。なお、NTT ドコモの業績について、より詳細な説明を望む声もあった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、4 項目全てが最も高い評価となり、いずれも昨年度と比べ得点率が上がった。特に、「目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分説明されていること」は、得点率が 95%以上で極めて高い評価となった。これらに関連して、世界の動向を踏まえ ESG 関連の開示に注力してきており、詳細な数値を開示するなど内容も優れているとの声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は、最も高い評価となった。これに関連して、IR

DAY の開催を評価する声が多く寄せられたほか、記者向け決算発表会のオープン化を評価する声や、研究所の成果の動画公開は有益であるとの声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 インターネットイニシアティブ（総合評価点 79.4 点〔昨年度比+4.4 点〕、昨年度第 4 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（84%）、説明会等（85%）が第 1 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 2 位（89%）、ESG 関連が第 4 位（72%）、自主的情報開示が第 5 位（56%）となった。昨年度に比べ、説明会等、ESG 関連および自主的情報開示の 3 分野において得点率が上がった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても情報開示を後退させることなく、積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」が、最も高い評価となり、「会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していること」も、同得点第 1 位（満点）となった。また、「IR 部門の機能」（第 2 位）が極めて高い評価となり、「会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができること」も、同得点第 3 位となった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、CFO 自ら経営課題などの議論ができ、ディスカッションが有益であるとの声もあった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」、「アナリスト・投資家が分析・投資判断に有用な主要項目（オペレーションデータ等）の実績および見通しを十分に開示していること。また、情報開示の後退がないこと」および「会計基準の変更・セグメント見直し・KPI の定義変更等があった場合においても、一貫性のある財務諸表比較ができるよう配慮されていること」の 3 項目が、最も高い評価となり、いずれも昨年度に比べ得点率が上がった。これらの結果、この分野において第 1 位（昨年度第 3 位）となった。これらに関連して、経営トップが説明会に必ず出席し、議論する機会を設けていること、重要な業績ドライバーなどに関する情報を積極的に開示していることを評価する声が寄せられた。また、説明会資料等を通じた各種情報開示が充実しているとの声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、2 項目共に高い評価となったが、そのうちの「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M&A、自然災害の影響等）の開示が、迅速かつ十分であること」は、昨年度と比べ得点率が下がった。これらの結果、この分野において同得点第 2 位（昨年度第 1 位）となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」と、本年度の新設項目である「E（環境）・S（社会）に関する取組み」が、平均得点率に達しなかった。ただし、新設項目以外の 3 項目の得点率が昨年度に比べ改善したことから、この分野において第 4 位（昨年度第 6 位）となった。これらに関連して、ESG への取組みに関しては課題が見られるものの、他社に追いつこうとする積極的な姿勢を評価する声が寄せられた。なお、ESG の取組みに関する開示の充実を望む声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は第 5 位であったが、昨年度に比べ得点率は大きく上がった。

第 3 位 KDDI（総合評価点 78.9 点〔昨年度比+4.0 点〕、昨年度第 5 位）

- ① 同社は、ESG 関連が第 2 位（83%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 2 位（89%）、自主的情報開示が第 3 位（66%）、経営陣の IR 姿勢等が第 4 位（79%）、説明会等が第 5 位（74%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示を除く 4 分野において、得点率が上がった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していること」が、同得点第 1 位（満点）となり、「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」が第 3 位となった。また、「会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができること」（同得点第 3 位）および「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても情報開示を後退させることなく、積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」（第 4 位）も、昨年度の得点率を上回った。これらの結果、この分野において第 4 位（昨年度第 6 位）となっ

た。これらに関連して、投資家との積極的なコミュニケーションを評価する声や、IR 部門と十分な議論ができるとの声が寄せられた。なお、四半期決算説明会への経営トップの積極的な参加を望む声があった。

- ③ **説明会等**においては、「キャッシュフロー計算書の実績および見通しがわかりやすく説明されていること」が、同得点第 2 位となったほか、4 項目全てで、昨年度に比べ得点率が上がった。なお、そのうちの「会計基準の変更・セグメント見直し・KPI の定義変更等があった場合においても、一貫性のある財務諸表比較ができるよう配慮されていること」については、得点率を大幅に改善させたものの、平均得点率に達しなかった。これらに関連して、新中期経営戦略に関して開示内容が充実したとの声や、投資家とのコミュニケーション力が高いとの声が寄せられた。また、決算説明会や取材のリモート対応の迅速さを評価する声があった。一方、非通信分野や法人事業の開示のさらなる充実を望む声や、ARPU 等 KPI の定義変更が多く過去との比較が困難との声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていること」（同得点第 2 位）および「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M&A、自然災害の影響等）の開示が、迅速かつ十分であること」（同得点第 3 位）が共に、昨年度と比べ得点率が上がった。これらの結果、この分野において同得点第 2 位（昨年度同得点第 4 位）となった。なお、説明会の議事録の開示を評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、4 項目全てが 80%以上の得点率となり、そのうちの「目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分説明されていること」は、85%以上となった。これらの結果、この分野において第 2 位となった。なお、新中期経営計画においても ESG の取組みを紹介していることを評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は、昨年度に比べ得点率が下がり、第 3 位（昨年度第 2 位）となった。なお、各種サービスに関する発表会の定期的な開催や法人事業説明会を評価する声があった。

以 上

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (通信・インターネット)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目4 (配点 30点)	評価点	評価項目4 (配点 28点)	評価点	評価項目2 (配点 7点)	評価点	評価項目4 (配点 30点)	評価点	評価項目1 (配点 5点)	順位	
1	9432 日本電信電話	82.4	3	24.2	2	21.6	1	6.4	1	26.5	1	3.7	1
2	3774 インターネットイニシアティブ	79.4	1	25.1	1	23.8	2	6.2	2	21.5	4	2.8	5
3	9433 KDDI	78.9	4	23.7	5	20.7	2	6.2	2	25.0	2	3.3	3
4	9434 ソフトバンク	76.8	5	23.2	3	21.1	2	6.2	2	22.9	3	3.4	2
5	3769 GMOペイメントゲートウェイ	75.4	2	24.5	3	21.1	5	6.0	5	21.3	5	2.5	6
6	2371 カカコム	70.0	6	22.0	6	20.4	7	5.6	6	20.3	6	1.7	11
7	4689 Zホールディングス	69.6	7	21.4	7	20.1	6	5.7	7	20.2	7	2.2	8
8	4755 楽天グループ	66.6	7	21.4	9	18.0	7	5.6	9	18.6	9	3.0	4
9	9984 ソフトバンクグループ	65.8	9	21.2	8	18.2	10	5.5	10	18.4	10	2.5	6
10	4751 サイバーエージェント	64.8	10	19.9	10	17.5	7	5.6	8	19.9	8	1.9	9
11	2432 ディー・エヌ・エー	57.9	11	18.3	11	16.3	11	5.2	11	16.3	11	1.8	10
	評価対象企業評価平均点	71.58		22.26		19.89		5.83		20.98		2.62	

2022年度評価項目および配点（通信・インターネット）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していますか。 [4回以上：2点 3回：1点 2回以下：0点]	2
②会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
(3)IRの基本スタンス	
・会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても情報開示を後退させることなく、積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（28点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
①アナリスト・投資家が分析・投資判断に有用な主要項目（オペレーションデータ等）の実績および見通しは、十分に開示されていますか。また、情報開示の後退はありませんか。	10
②キャッシュフロー計算書の実績および見通しは、分かりやすく説明されていますか。	3
③会計基準の変更・セグメント見直し・KPIの定義変更等があった場合においても、一貫性のある財務諸表比較ができるよう配慮されていますか。	5
3. フェア・ディスクロージャー（7点）	配点
①経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	2
②投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M&A、自然災害の影響等）の開示は、迅速かつ十分ですか。	5
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点
(1)コーポレート・ガバナンスに関する開示	
・社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。	6
(2)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策や株主還元策（配当・自社株買い・自社株売却等）の具体的な目標が明示され、合理的かつ十分に説明されていますか。	10
(3)目標とする経営指標等の開示	
・目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	4
(4)E（環境）・S（社会）に関する取組み	
・E（環境）・S（社会）に関する情報を開示し、方向性を示し、投資家との対話を積み重ねていますか。	10
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（5点）	配点
・会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか。 【過去1年間を目安に評価】 【充実していたサービスないし施設・設備名をコメント欄に記入して下さい】	5

通信・インターネット専門部会委員

部 会 長	増野 大作	野村證券
部会長代理	大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント
	安藤 義夫	大和証券
	醒井 周太	ニッセイアセットマネジメント
	寺島 正	大和アセットマネジメント
	森 はるか	JP モルガン証券

評価実施アナリスト（43名）

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	醒井 周太	ニッセイ アセット マネジメント
荒木 正人	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	山藤 秀明	QUICK
安藤 義夫	大和証券	柴崎 正人	三井住友トラスト・アセットマネジメント
ジャイ イーヅ	マコーリーキャピタル証券会社	鈴木 崇生	大和証券
石井 宏	朝日ライフ アセットマネジメント	田中 秀明	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
石井 孝一郎	三菱 UFJ 信託銀行	千葉 馨	JP モルガン証券
石原 太郎	大和証券	寺島 正	大和アセットマネジメント
伊藤 彰洋	三井住友 DS アセットマネジメント	得永 一樹	大和証券
岩渕 啓介	岡三証券	中川 雅嗣	三菱 UFJ 国際投信
江口 博康	クレディ・スイス証券	中島 智也	丸三証券
大浦 裕太	第一生命保険	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	納 博司	いちよし経済研究所
大場 剛平	野村アセットマネジメント	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
奥村 裕介	岡三証券	宝水 裕圭里	東海東京調査センター
小野 友嗣	野村アセットマネジメント	堀 雄介	みずほ証券
風早 隆弘	クレディ・スイス証券	前田 栄二	SMBC 日興証券
菊池 悟	SMBC 日興証券	増野 大作	野村證券
城戸 謙治	アセットマネジメント One	峯嶋 利隆	ニッセイ アセット マネジメント
栗城 拓也	りそなアセットマネジメント	森 はるか	JP モルガン証券
栗田 敦史	大和アセットマネジメント	森田 正司	岡三証券
栗原 智也	東海東京調査センター	渡辺 洋之	三井住友 DS アセットマネジメント
佐藤 啓吾	ニッセイ アセット マネジメント		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

商 社

1. 評価対象企業（7 社）

双日、伊藤忠商事、丸紅、豊田通商、三井物産、住友商事、三菱商事

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	15
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	10
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	40
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	5
計		12	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 108 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

(2) 評価実施アナリストは 14 名（所属先 14 社）である。（氏名等は 109 頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は 107 頁参照）

- ① 本年度は、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更したことに伴い、同分野を中心に項目内容・配点を大幅に見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 74.1 点（昨年度 78.0 点）、総合評価点の標準偏差は 5.0 点（昨年度 5.1 点）であった。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 79%（昨年度 78%）、説明会等が 78%（昨年度 82%）、フェア・ディスクロージャーが 77%（昨年度 81%）、ESG 関連が 68%（昨年度 74%）、自主的情報開示が 69%（昨年度 76%）となり、経営陣の IR 姿勢等を除く 4 分野は、昨年度を下回った。
- ③ 評価項目について見ると、本年度で最も高い平均得点率となったのは、次の項目（フェア・ディスクロージャーの中の 1 項目で、昨年度と同じ）であった。
 - ・ 「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、外国人投資家を含め不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」（平均得点率 80%〔昨年度 90%〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：70%台 1 社・80%台 6 社）
- ④ ESG 関連の 4 項目（全て本年度の新設項目）は、次のとおりとなった。なお、(b)は、全 12 項目の中で最も低い平均得点率であった。

- (a) 「重視する経営指標（例えば、ROE、リスク・リターン指標等）とその目標、それを採用する理由、目標達成のための具体的方策および進捗状況が十分に説明されていますか。また、ROE の改善に向けた資本政策、株主還元策に対する考え方が十分に説明されていますか」（平均得点率 73%）（得点率：60%台 3 社・70%台 3 社・80%台 1 社）
- (b) 「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」（平均得点率 60%）（得点率：50%台 4 社・60%台 2 社・70%台 1 社）
- (c) 「環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。例えば、温室効果ガス削減の具体的な計画を開示していますか。また、その成果を提示していますか」（平均得点率 67%）（得点率：60%台 5 社・70%台 2 社）
- (d) 「社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。例えば、ダイバーシティの推進や、サプライチェーンにおける人権デューデリジェンスの取組みについて開示が行われていますか。また、その成果を提示していますか」（平均得点率 68%）（得点率：60%台 5 社・70%台 2 社）

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 三井物産（ディスクロージャー優良企業〔6 回連続 7 回目〕、総合評価点 80.8 点〔昨年度比－4.1 点〕）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（得点率〈以下省略〉86%）、説明会等（84%）、フェア・ディスクロージャー（84%）、ESG 関連（75%）が第 1 位、自主的情報開示が第 2 位（76%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢（例えば、IR 対応組織の強化や、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策を積極的に説明していること、また、経営陣が IR 活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること）」および「IR 部門の機能」が共に、最も高く評価された。これらに関連して、スモールミーティングの開催や、株主還元、役員報酬等に代表されるように、投資家の意見を吸い上げる姿勢を評価する声が寄せられた。また、IR 部門が充実しており、建設的な対話を行いやすいとの声もあった。また、「経営トップが企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、具体的な行動計画と成果を提示していること」は、第 2 位となった。これに関連して、今後は自然資本、社会資本の充実についての開示を望むとの声もあった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」および「説明資料等における開示」が共に、最も高い評価となった。これらに関連して、資源の数量、価格等の情報が充実していることを評価する声が寄せられた。なお、業績を期中で修正した際はアップデートを望むとの声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、外国人投資家を含め不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」および「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、合併・提携、大規模な投融資、グループの再編、将来的な減損リスク等）の開示が遅滞なく、かつ説明会等の方法により十分に説明されていること」が共に、最も高い評価となった。これに関連して、大型投資については説明会を欠かさず行っていることを評価する声が寄せられた。
- ⑤ ESG 関連においては、「重視する経営指標（例えば、ROE、リスク・リターン指標等）とその目標、それを採用する理由、目標達成のための具体的方策および進捗状況が十分に説明されていること。また、ROE の改善に向けた資本政策、株主還元策に対する考え方が十分に説明されていること」および「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」が共に、最も高い評価となった。これらに関連して、基礎営業キャッシュフローに対する総還元性向を明確に提示していること、ROE 改善への意思を説明していることを評価する声が寄せられた。「環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していること。例えば、温室効果ガス削減の具体的な計画を開示していること。また、その成果を提示していること」は第 2 位となった。また、「社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していること。例えば、ダイバーシティの推進や、サプライチェーンにおける人権デューデリジェンスの取組みについて開示が行われていること。また、その成果を提示していること」は第 3 位となった。なお、GHG 削減のロードマップのさらなる情報充実や、サプライチェーンの人権デューデリジェンスの取組みについての開示を望む声が寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内

容が有益であること」は第2位となった。これに関連して、インベスターデイ、ESG Day、ヘルスケア事業説明会などの開催を評価する声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 伊藤忠商事（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、総合評価点 79.4 点〔昨年度比－0.6 点〕、昨年度第3位〔一昨年度第2位〕）

- ① 同社は、自主的情報開示が第1位（78%）、経営陣のIR姿勢等（85%）、説明会等（83%）、ESG 関連（75%）が第2位、フェア・ディスクロージャーが同得点第3位（78%）となった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「経営トップが企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、具体的な行動計画と成果を提示していること」が、最も高い評価となった。これに関連して、経営理念が明確で ESG と関連付けて、経営戦略を説明していることを評価する声が寄せられた。「経営陣のIR姿勢（例えば、IR 対応組織の強化や、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策を積極的に説明していること、また、経営陣がIR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること）」および「IR部門の機能」は共に、第2位となった。これらに関連して、経営トップが、企業価値向上のためのPDCAストーリーを語り、投資家との対話の機会を持つことや、きめ細かに投資家をサポートする姿勢を評価する声が寄せられた。なお、説明会への会長の参加を望む声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」が、同得点第1位となり、「説明資料等における開示」も第2位となった。これらに関連して、投資家ニーズを事前に把握した上での情報開示を評価する声があった。一方で、資源データの開示の改善を望む声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、合併・提携、大規模な投融資、グループの再編、将来的な減損リスク等）の開示が遅滞なく、かつ説明会等の方法により十分に説明されていること」が第3位となった。また、「経営陣およびIR部門が情報開示に際し、外国人投資家を含め不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」も、同得点第3位となった。これらに関連して、月1回のペースでトピックスをまとめたリマインドがあることを評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していること。例えば、温室効果ガス削減の具体的な計画を開示していること。また、その成果を提示していること」および「社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していること。例えば、ダイバーシティの推進や、サプライチェーンにおける人権デューデリジェンスの取組みについて開示が行われていること。また、その成果を提示していること」は共に、最も高い評価となった。これらに関連して、ステークホルダーに共感を与えた ESG 説明会が秀逸であることや、ESG データブックの開示量が他社比で多いことを評価する声が寄せられた。「重視する経営指標（例えば、ROE、リスク・リターン指標等）とその目標、それを採用する理由、目標達成のための具体的方策および進捗状況が十分に説明されていること。また、ROE の改善に向けた資本政策、株主還元策に対する考え方が十分に説明されていること」は第2位となった。これに関連して、統合報告書でわかりやすく説明できているとの声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は、最も高い評価となった。これに関連して、統合レポート説明会、分野別説明会、サステナビリティ説明会などの開催を評価する声があった。

同社は、3回連続して第2位または第3位の評価を受けたので、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」に選定した。

第3位 丸紅（総合評価点 75.2 点〔昨年度比－4.9 点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが第2位（80%）、経営陣のIR姿勢等（80%）、説明会等（81%）が第3位、ESG 関連が第4位（69%）、自主的情報開示が第5位（68%）となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて得点率が下がった。

- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」の 2 項目が共に、同得点第 3 位となった。これらに関連して、定期的なスモールミーティングの開催や、投資家の意見を吸い上げる経営陣の姿勢を評価する声が寄せられた。一方、「IR 部門に十分な情報がタイムリーに集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」については、平均得点率と同程度であった。これに関連して、事業部門に確認しないと分からないという対応が多いことを指摘する声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明資料等における開示」が、同得点第 2 位となり、「説明会、インタビューにおける開示」は第 3 位となった。これらに関連して、説明会資料の数値が豊富で、資料と取材対応が一貫していることや、実態純利益が開示されていることを評価する声があった。一方で、セグメントの数が多いため整理して開示してほしいとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、合併・提携、大規模な投融資、グループの再編、将来的な減損リスク等）の開示が遅滞なく、かつ説明会等の方法により十分に説明されていること」は第 2 位となり、「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、外国人投資家を含め不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」が、同得点第 3 位となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していること。例えば、ダイバーシティの推進や、サプライチェーンにおける人権デューデリジェンスの取組みについて開示が行われていること。また、その成果を提示していること」は第 2 位となった。これに関連して、サプライチェーンの人権デューデリジェンスの取組みについての開示を望む声があった。「経営陣の IR 姿勢（例えば、IR 対応組織の強化や、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策を積極的に説明していること、また、経営陣が IR 活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること）」および「環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していること。例えば、温室効果ガス削減の具体的な計画を開示していること。また、その成果を提示していること」は共に、第 4 位となった。なお、「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」は、平均得点率に達しなかった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は、平均得点率に達しなかった。

以 上

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (商社)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点 30点)	評価点	評価項目2 (配点 15点)	評価点	評価項目2 (配点 10点)	評価点	評価項目4 (配点 40点)	評価点	評価項目1 (配点 5点)	順位	
1	8031 三井物産	80.8	1	25.9	1	12.6	1	8.4	1	30.1	3.8	2	1
2	8001 伊藤忠商事	79.4	2	25.4	2	12.5	3	7.8	2	29.8	3.9	1	3
3	8002 丸紅	75.2	3	24.0	3	12.1	2	8.0	4	27.7	3.4	5	2
4	8058 三菱商事	74.0	4	23.6	4	11.5	5	7.5	3	27.9	3.5	3	6
5	8053 住友商事	71.9	6	22.9	6	11.3	3	7.8	5	26.4	3.5	3	4
6	2768 双日	70.8	5	23.4	4	11.5	6	7.4	6	25.2	3.3	6	5
7	8015 豊田通商	66.3	7	21.0	7	10.8	7	7.3	7	24.5	2.7	7	7
	評価対象企業評価平均点	74.05		23.75		11.75		7.74		27.37	3.44		

2022年度評価項目および配点（商社）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどのように評価しますか。例えば、IR対応組織を強化したり、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策を積極的に説明していますか。また、経営陣はIR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
②経営トップが企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、リーダーシップをもって、経営戦略に反映していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分な情報がタイムリーに集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（15点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・説明会やインタビューでの質疑応答は十分に満足できるものですか。	10
(2)説明資料等における開示	
・説明会資料等において投資家が求める情報（通期計画の段階損益、一過性の要因、投融資の金額およびリターン、価格・数量の前提および感応度等）が十分に開示されていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
3. フェア・ディスクロージャー（10点）	配点
①経営陣およびIR部門が情報開示に際し、外国人投資家を含め不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	3
②投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、合併・提携、大規模な投融資、グループの再編、将来的な減損リスク等）の開示は遅滞なく、かつ説明会等の方法により十分に説明されていますか。	7
4. ESGに関連する情報の開示（40点）	配点
①重視する経営指標（例えば、ROE、リスク・リターン指標等）とその目標、それを採用する理由、目標達成のための具体的方策および進捗状況が十分に説明されていますか。また、ROEの改善に向けた資本政策、株主還元策に対する考え方が十分に説明されていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
②社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	5
③環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。例えば、温室効果ガス削減の具体的な計画を開示していますか。また、その成果を提示していますか。	15
④社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。例えば、ダイバーシティの推進や、サプライチェーンにおける人権デューデリジェンスの取組みについて開示が行われていますか。また、その成果を提示していますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（5点）	配点
・事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容は有益ですか。【過去1年間を目安に評価】【充実していた会合等名をコメント欄に記入して下さい】	5

商社専門部会委員

部 会 長	成田 康浩	野村證券
部会長代理	森本 晃	SMBC 日興証券
	永野 雅幸	大和証券
	濱口 実	アセットマネジメント One
	堀内 敏成	QUICK

評価実施アナリスト（14名）

安藤 誠悟	大和アセットマネジメント	戸田 浩司	りそなアセットマネジメント
石井 宏	朝日ライフ アセットマネジメント	永野 雅幸	大和証券
大畠 彰雄	野村アセットマネジメント	成田 康浩	野村證券
河井 啓朗	明治安田アセットマネジメント	濱口 実	アセットマネジメント One
栗原 英明	東海東京調査センター	広川 孝一	JP モルガン・アセット・マネジメント
五老 晴信	UBS 証券	堀内 敏成	QUICK
竹川 克彦	三井住友トラスト・アセットマネジメント	森本 晃	SMBC 日興証券

（注）上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

小売業

1. 評価対象企業（22 社）

【百貨店】（4 社）

J.フロント リテイリング、三越伊勢丹ホールディングス、
高島屋、丸井グループ

【総合小売・コンビニエンスストア】（4 社）

ローソン、セブン & アイ・ホールディングス、
パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス、イオン

【ネット通販】（3 社）

アスクル、MonotaRO、ZOZO

【専門店】（11 社）

エービーシー・マート、ウエルシアホールディングス、ツルハホールディングス、
良品計画、スギホールディングス、しまむら、
ケーズホールディングス、ヤマダホールディングス、
ニトリホールディングス、ファーストリテイリング、サンドラッグ

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	27
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	5	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	5	18
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	27
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	2	8
計		19	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 117 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

（2） 評価実施アナリストは 36 名（所属先 27 社）である。（氏名等は 118 頁参照）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は 116 頁参照）

- ① 本年度は、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価点は 69.2 点（昨年度 68.5 点）、総合評価点の標準偏差は 9.7 点（昨年度 9.5 点）であった。

- ② 業態別の総合評価平均点は、高得点順に、百貨店（4社）：78.6点（昨年度74.5点）、総合小売・コンビニエンスストア（4社）：74.3点（昨年度73.4点）、ネット通販（3社）：68.5点（昨年度72.5点）、専門店（11社）：64.1点（昨年度63.5点）となった。百貨店は4社全てが昨年度を上回り、特に、三越伊勢丹ホールディングスは大幅な上昇（+11.4点）となった。一方、ネット通販は3社全てが昨年度を下回り、百貨店および総合小売・コンビニエンスストアとの差が再び広がった。なお、専門店については、昨年度をやや上回る程度であったが、その中で、ヤマダホールディングス（+8.7点）、しまむら（+6.1点）の上昇が目立った。一方、ドラッグストアの4社は全て昨年度を下回った。
- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が72%（昨年度68%）、**説明会等**が77%（昨年度76%）、**フェア・ディスクロージャー**が81%（昨年度83%）、**ESG関連**が60%（昨年度62%）、**自主的情報開示**が45%（昨年度52%）となった。
- ④ 評価項目について見ると、平均得点率80%以上の評価項目は5項目（昨年度7項目）となり、そのうち85%以上は次の2項目（**説明会等**の中の1項目(b)および**フェア・ディスクロージャー**の中の1項目(a)）（昨年度4項目）であった。
- (a) 「経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項（疫病や自然災害等を含む）を遅滞なく十分に、かつ公平に開示していますか」（平均得点率89%〔昨年度85%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：70%台1社・80%台4社・90%台17社）
- (b) 「月次の売上状況は、十分に記載されていますか」（平均得点率85%〔昨年度同率〕）（得点率：10%台2社・70%台1社・80%台2社・90%台13社・100%台4社）
- ⑤ 一方、平均得点率が50%台以下の評価項目は、次の3項目（**ESG関連**の中の1項目(c)および**自主的情報開示**の2項目(a)(b)）（昨年度3項目）となった。なお、得点率の分布を見ると、高い企業が見られる一方で低いものも少なくないため、低い評価の企業については一層の改善を求めたい。
- (a) 「会社主催の決算説明会、ESG説明会以外のIRイベントを積極的に実施し、かつその内容が充実していますか」（平均得点率44%〔昨年度45%〕）（得点率：10%台2社・20%台6社・40%台7社・50%台1社・60%台1社・70%台3社・80%台2社）
- (b) 「投資家やアナリストのニーズを踏まえ、IR部門以外のセクション（店舗、物流センター、海外拠点等）へのインタビュー等について積極的に対応していますか」（平均得点率46%〔昨年度43%〕）（得点率：20%台4社・30%台3社・40%台5社・50%台6社・60%台3社・80%台1社）
- (c) 「中期経営戦略や長期ビジョンを公表し、株主還元策や資本政策（資本コスト・リターン）、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか」（平均得点率53%）（得点率：20%台1社・30%台2社・40%台5社・50%台10社・60%台1社・70%台2社・80%台1社）
- ⑥ **ESG関連**の4項目（全て本年度の新設項目）は、次のとおりとなった。なお、(d)については、平均得点率が50%台と低水準となっており、特に改善が求められる。
- (a) 「企業価値の向上につながるようなマテリアリティの設定が行われ、開示されていますか」（平均得点率69%）（得点率：20%台1社・50%台6社・60%台5社・70%台3社・80%台6社・90%台1社）
- (b) 「ESGに関する十分なデータ、目標達成に向けての具体的な戦略、および進捗状況が開示されていますか」（平均得点率64%）（得点率：20%台1社・40%台3社・50%台3社・60%台7社・70%台4社・80%台3社・90%台1社）
- (c) 「ESGに関する取組みについて、統合報告書や説明会等（社外取締役との対話を含む）を通じて、市場関係者の理解を得るよう努めていますか」（平均得点率62%）（得点率：20%台1社・40%台4社・50%台5社・60%台4社・70%台4社・80%台3社・90%台1社）
- (d) 「中期経営戦略や長期ビジョンを公表し、株主還元策や資本政策（資本コスト・リターン）、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか」（平均得点率53%）（得点率：20%台1社・30%台2社・40%台5社・50%台10社・60%台1社・70%台2社・80%台1社）

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 丸井グループ（ディスクロージャー優良企業〔2回連続4回目〕、総合評価点 87.0 点〔昨年度比+0.8 点〕）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（得点率〈以下省略〉86%）、ESG 関連（88%）、自主的情報開示（80%）が第1位、フェア・ディスクロージャーが同得点第2位（92%）、説明会等が第4位（85%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能」が、最も高い評価となり、「IR の基本スタンス」も、同得点第1位となった。これらに関連して、経営トップが IR に積極的であり、投資家が求める内容を開示しているとの声や、資本市場から見た自社のポジショニング把握に努め、経営戦略に反映させているとの声が寄せられた。また、経営トップによるスモールミーティング、IR DAY の開催を評価する声があった。
- ③ 説明会等においては、「四半期情報開示」（同得点第3位）が高い評価となり、「実績および次期事業計画について、決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が開示されていること」（同得点第2位）および「決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」（同得点第3位）も共に評価された。また、そのほかの2項目についても、80%以上の得点率となった。これらに関連して、常にテーマや課題を明確にして説明会に臨んでいる姿勢を評価する声や、決算説明会などの説明資料が充実しており理解しやすいとの声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「外国人投資家向け情報提供」が満点となった。そのほかの4項目についても、全てが90%以上の得点率となった。
- ⑤ ESG 関連においては、4項目全てが最も高い評価となった。これらに関連して、統合レポート以外にも、VISION BOOK 2050 を発行するなど、投資家の理解が深まるような工夫をしているとの声や、中期経営計画の内容、資本政策、ESG への取組みは他社に先行しているとの声が寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「投資家やアナリストのニーズを踏まえ、IR 部門以外のセクション（店舗、物流センター、海外拠点等）へのインタビュー等について積極的に対応していること」が、最も高い評価となった。また、「会社主催の決算説明会、ESG 説明会以外の IR イベントを積極的に実施し、その内容が充実していること」も、同得点第1位となった。これらに関連して、説明会における適時のテーマ設定や、IR DAY の開催を評価する声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 J. フロント リテイリング（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、総合評価点 81.8 点〔昨年度比+2.8 点〕、昨年度第3位〔一昨年度第3位〕）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが第1位（94%）、ESG 関連が第2位（81%）、経営陣の IR 姿勢等が同得点第3位（81%）、自主的情報開示が同得点第5位（60%）、説明会等が同得点第6位（82%）となった。自主的情報開示を除く4分野において得点率が改善し、順位を上げた。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」（第3位）が評価された。これに関連して、トップマネジメントによる定期的な投資家ミーティングの開催や、投資家の意見を積極的に受け入れようとする姿勢について評価する声が寄せられた。また、「IR 部門の機能」（第8位）および「IR の基本スタンス」（同得点第6位）も共に、昨年度に比べ得点率が改善した。
- ③ 説明会等においては、「実績および次期事業計画について、決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が開示されていること」が、同得点第2位となった。また、「月次の売上状況が十分に開示されていること」（同得点第5位）、「決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」（第6位）および「四半期情報開示」（同得点第9位）が、いずれも80%以上の得点率となった。なお、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績変動、合併・提携等）が発生した場合、迅速かつ公平に十分な説明を行っていること。また、セグメント分類や IFRS の導入をはじめ会計方針等の制度変更が生じた場合、過去の数値と比較ができるような情報の開示が十分に行われていること」は、平均得点率に達しなかった。こ

れに関連して、パルコ、金融関連について十分な説明を求める声のほか、遡及修正がわかりにくいとの声があった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「外国人投資家向け情報提供」が満点となった。そのほかの4項目についても、全てが90%以上の得点率となり、この分野において第1位となった。これらに関連して、質疑応答の英語化だけでなく、動画についても英語対応しており評価できるとの声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「ESG に関する取組み」の3項目が、いずれも80%以上の得点率となった。これらに関連して、ESG 説明会を開催するなど、投資家の理解が深まるよう工夫しているとの声が寄せられた。また、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示」も第2位となり、これらの結果、この分野において第2位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「会社主催の決算説明会、ESG 説明会以外のIR イベントを積極的に実施し、その内容が充実していること」が第6位、「投資家やアナリストのニーズを踏まえ、IR 部門以外のセクション（店舗、物流センター、海外拠点等）へのインタビュー等について積極的に対応していること」が同得点第6位となった。評価できるイベントとして、事業戦略説明会を挙げる声があった。

同社は、3回連続して第2位または第3位の評価を受けたので、「**高水準のディスクロージャーを連続維持している企業**」に選定した。

第3位 セブン&アイ・ホールディングス（総合評価点 81.1 点〔昨年度比+2.4 点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、**自主的情報開示**が第2位（71%）、**説明会等**が同得点第2位（85%）、**ESG 関連**が第3位（76%）、**経営陣のIR 姿勢等**が同得点第3位（81%）、**フェア・ディスクロージャー**が第8位（88%）となった。昨年度に比べ、**自主的情報開示**を除く4分野において得点率が改善し、順位を上げた。
- ② **経営陣のIR 姿勢等**においては、3項目全てが昨年度に比べ得点率が改善し、80%以上の得点率となった。これらの結果、この分野で同得点第3位となった。これらに関連して、経営陣は、**IR 活動**で得られた意見を経営活動に活かしているとの声が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「実績および次期事業計画について、決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が開示されていること」が、最も高い評価となった。また、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績変動、合併・提携等）が発生した場合、迅速かつ公平に十分な説明を行っていること。また、セグメント分類やIFRSの導入をはじめ会計方針等の制度変更が生じた場合、過去の数値と比較ができるような情報の開示が十分に行われていること」（同得点第2位）および「四半期情報開示」（同得点第3位）も、高い評価となった。そのほかの2項目も、80%以上の得点率となった。なお、質疑時間の十分な確保を望む声や、北米事業に関して、より詳細な開示を求める声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「外国人投資家向け情報提供」が満点となった。そのほかの4項目も全てが80%以上の得点率となったが、「経営陣がメディアを含む総合的な情報開示や取材対応等につき、不公平や混乱が生じないようにしていること」（同得点第17位）については、平均得点率に達しなかった。これに関連して、報道が開示に先行する状況が見られるとの声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示」が第3位となった。「ESG に関する取組み」（3項目）については、「ESG に関する取組みについて、統合報告書や説明会等（社外取締役との対話を含む）を通じて、市場関係者の理解を得るよう努めていること」（第6位）を除き、80%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において第3位となった。これらに関連して、ESG 説明会の開催を求める声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「投資家やアナリストのニーズを踏まえ、IR 部門以外のセクション（店舗、物流センター、海外拠点等）へのインタビュー等について積極的に対応していること」が、同得点第2位となった。また、「会社主催の決算説明会、ESG 説明会以外のIR イベントを積極的に実施し、その内容が充実していること」も第3位となり、これらの結果、この分野において第2位となった。評価できるイベントとして、商品戦略説明会を挙げる声が多かった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ 三越伊勢丹ホールディングス（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 79.1 点〔昨年度比 +11.4 点、一昨年度比 +12.2 点〕、第 4 位〔昨年度第 13 位、一昨年度第 10 位〕）

- ① 同社は、自主的情報開示が第 3 位（70%）、ESG 関連が第 4 位（73%）、説明会等が同得点第 6 位（82%）、経営陣の IR 姿勢等が第 8 位（80%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 9 位（88%）となった。昨年度に比べ、フェア・ディスクロージャーを除く 4 分野で得点率が大きく改善したことから、順位を大幅に上げた。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」（同得点第 5 位）、「IR の基本スタンス」（同得点第 6 位）および「IR 部門の機能」（第 9 位）の得点率が、いずれも 10 ポイント以上改善した。これらの結果、この分野において第 8 位（昨年度第 16 位）となった。これらに関連して、新経営陣になって、IR における経営戦略や施策の狙いがわかりやすく伝わるようになったとの声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「月次の売上状況が十分に開示されていること」が満点となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」は、昨年度に比べ得点率が 20 ポイント以上改善し、同得点第 1 位となった。これらに関連して、月次データの詳細な開示が有用であるとの声や、決算説明会、中期経営計画などの資料は充実しており、わかりやすいとの声が寄せられた。なお、「四半期情報開示」（同得点第 13 位）は、平均得点率と同程度となった。これに関連して、第 1・第 3 四半期の開示資料の充実を求める声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「外国人投資家向け情報提供」を除く 4 項目が、いずれも 90%以上の得点率となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示」および「ESG に関する取組みについて、統合報告書や説明会等（社外取締役との対話を含む）を通じて、市場関係者の理解を得るよう努めていること」が第 4 位となった。また、そのほかの 2 項目も、平均得点率を上回った。これらに関連して、サステナビリティ説明会の開催を評価する声があった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「投資家やアナリストのニーズを踏まえ、IR 部門以外のセクション（店舗、物流センター、海外拠点等）へのインタビュー等について積極的に対応していること」が、同得点第 2 位となった。また、「会社主催の決算説明会、ESG 説明会以外の IR イベントを積極的に実施し、その内容が充実していること」が第 4 位となり、これらの結果、この分野において第 3 位（昨年度第 9 位）となった。評価できるイベントとして、事業戦略説明会を挙げる声が多く寄せられた。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

○ しまむら（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 74.4 点〔昨年度比 +6.1 点、一昨年度比 +13.8 点〕、第 9 位〔昨年度第 11 位、一昨年度第 19 位〕）

- ① 同社は、説明会等が第 1 位（86%）、経営陣の IR 姿勢等が同得点第 3 位（81%）、自主的情報開示が第 8 位（51%）、フェア・ディスクロージャー（84%）、ESG 関連（60%）が第 12 位となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善し、総合評価点が大きく上昇した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が同得点第 3 位、「経営陣の IR 姿勢」が第 4 位となり、共に 80%以上の得点率となった。また、「IR の基本スタンス」（第 8 位）も、昨年度に比べ得点率が改善した。これらの結果、この分野において同得点第 3 位となった。これらに関連して、経営トップの積極的な IR 活動や、投資家との対話を重視する姿勢を評価する声のほか、IR 担当者の説明能力が高いとの声が寄せられた。また、いずれの開示項目においても継続的に改善が見られるとの声もあった。
- ③ 説明会等においては、「月次の売上状況が十分に開示されていること」が、95%以上の得点率となり、「説明会、インタビューにおける開示」が、同得点第 1 位となった。そのほかの 3 項目も評価され、いずれも 80%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において第 1 位（昨年度第 5 位）となった。これらに関連して、月次発表時も含め説明会全般において、その内容が質・量共に改善・充実してきているとの声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「外国人投資家向け情報提供」を除く 4 項目が、いずれも 85%以上の得点率となった。
- ⑤ ESG 関連においては、4 項目のいずれも平均得点率と同程度となった。なお、ESG 説明会の開催を評価する

声があった。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、「会社主催の決算説明会、ESG 説明会以外の IR イベントを積極的に実施し、その内容が充実していること」（第 7 位）および「投資家やアナリストのニーズを踏まえ、IR 部門以外のセクション（店舗、物流センター、海外拠点等）へのインタビュー等について積極的に対応していること」（同得点第 9 位）は共に、平均得点率を上回った。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「**ディスクロージャーの改善が著しい企業**」に選定した。

以 上

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表（小売業）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点 27点)		評価項目5 (配点 20点)		評価項目5 (配点 18点)		評価項目4 (配点 27点)		評価項目2 (配点 8点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8252 丸井グループ	87.0	23.3	1	16.9	4	16.6	2	23.8	1	6.4	1	1
2	3086 J. フロントリテイリング	81.8	21.9	3	16.4	6	16.9	1	21.8	2	4.8	5	3
3	3382 セブン&アイ・ホールディングス	81.1	21.9	3	17.0	2	15.9	8	20.6	3	5.7	2	4
4	3099 三越伊勢丹ホールディングス	79.1	21.5	8	16.4	6	15.8	9	19.8	4	5.6	3	13
5	2678 アスクル	78.2	23.0	2	17.0	2	16.2	6	18.3	6	3.7	10	2
6	9983 ファーストリテイリング	76.8	21.6	6	15.5	11	16.6	2	19.7	5	3.4	13	7
7	2651 ローソン	76.3	20.5	10	16.6	5	15.8	9	18.1	7	5.3	4	6
8	7532 パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス	74.5	21.6	6	16.0	8	16.2	6	16.5	9	4.2	7	5
9	8227 しまむら	74.4	21.9	3	17.1	1	15.2	12	16.1	12	4.1	8	11
10	7453 良品計画	70.4	19.2	12	14.6	17	16.3	4	16.3	10	4.0	9	14
11	3092 ZOZO	67.7	20.6	9	14.1	19	16.3	4	14.8	15	1.9	19	9
12	8282 ケーズホールディングス	66.8	18.6	13	16.0	8	14.8	13	15.0	14	2.4	17	16
13	8233 高島屋	66.2	18.0	18	15.1	14	14.3	15	15.3	13	3.5	11	17
14	3141 ウエルシアホールディングス	65.5	19.8	11	15.5	11	13.9	16	14.0	16	2.3	18	12
15	8267 イオン	65.3	15.9	20	13.0	21	15.3	11	17.6	8	3.5	11	19
16	3391 ツルハホールディングス	65.0	18.4	14	15.6	10	14.7	14	13.6	18	2.7	15	8
17	7649 スギホールディングス	62.2	18.2	15	14.9	15	13.4	18	13.2	19	2.5	16	10
18	9989 サンドラッグ	61.3	18.2	15	15.5	11	12.9	19	12.9	20	1.8	21	18
19	9831 ヤマダホールディングス	61.1	17.3	19	10.8	22	11.9	20	16.3	10	4.8	5	21
20	3064 MonotaRO	59.6	18.1	17	14.7	16	13.7	17	11.2	21	1.9	19	15
21	9843 ニトリホールディングス	54.4	13.7	22	14.2	18	9.2	22	14.0	16	3.3	14	20
22	2670 エービーシー・マート	47.3	15.3	21	14.1	19	9.5	21	6.8	22	1.6	22	22
	評価対象企業評価平均点	69.19	19.48		15.32		14.61		16.17		3.61		

2022年度評価項目および配点（小売業）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（27点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップがIR活動に理解を示し、注力していますか。また、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	9
(2)IR部門の機能	
・IR部門にグループ会社を含む十分な情報がタイムリーに集積されており、IR部門が経営陣の代弁者として有益なディスカッションができますか。	9
(3)IRの基本スタンス	
・当該企業のディスクロージャー・IR全体を通じて、企業理念・中長期ビジョンを含め、アナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、適切なレベルの情報開示を維持または改善していますか。	9
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・決算説明会等における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	6
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示（以下①～③については、持株会社の場合、主要事業会社についての記載を評価する）	
①実績および次期事業計画について、決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が開示されていますか。	6
②月次の売上状況は、十分に開示されていますか。	2
③投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績変動、合併・提携等）が発生した場合、迅速かつ公平に十分な説明を行っていますか。また、セグメント分類やIFRSの導入をはじめ会計方針等の制度変更が生じた場合、過去の数値と比較ができるような情報の開示が十分に行われていますか。	2
(3)四半期情報開示	
・四半期決算発表後、電話会議や補足資料などを通じて速やかに業績動向が把握できるようにしていますか。また、説明会の日程等に十分配慮していますか。	4
3. フェア・ディスクロージャー（18点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
①経営陣がメディアを含む総合的な情報開示や取材対応につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか。	5
②経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項（疫病や自然災害等を含む）を遅滞なく十分に、かつ公平に開示していますか。	2
(2)ウェブサイトやリモートツールによる情報提供	
①決算説明会等の内容（質疑応答を含む）を迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していますか。	5
②リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供を行っていますか。	2
(3)外国人投資家向け情報提供	
・英文による情報提供は充実していますか。（0～4点の整数で評価）	4
4. ESGに関連する情報の開示（27点）	配点
(1)ESGに関する取組み	
①企業価値の向上につながるようなマテリアリティの設定が行われ、開示されていますか。	5
②ESGに関する十分なデータ、目標達成に向けての具体的な戦略、および進捗状況が開示されていますか。	5
③ESGに関する取組みについて、統合報告書や説明会等（社外取締役との対話を含む）を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていますか。	5
(2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示	
・中期経営戦略や長期ビジョンを公表し、株主還元策や資本政策（資本コスト・リターン）、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか。	12
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（8点）	配点
①会社主催の決算説明会、ESG説明会以外のIRイベントを積極的に実施し、かつその内容が充実していますか。【過去1年間を目安に評価】 【充実していたIRイベント等名をコメント欄に記入して下さい】	4
②投資家やアナリストのニーズを踏まえ、IR部門以外のセクション（店舗、物流センター、海外拠点等）へのインタビュー等について積極的に対応していますか。	4

小売業専門部会委員

部 会 長	小場 啓司	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
部会長代理	高橋 俊雄	みずほ証券
	風早 隆弘	クレディ・スイス証券
	金森 都	SMBC 日興証券
	仲西 恭子	アセットマネジメント One
	西村 俊一	三井住友 DS アセットマネジメント
	村田 大郎	JP モルガン証券

評価実施アナリスト（36名）

饗場 大介	岩井コスモ証券	高田 訓弘	三菱 UFJ 国際投信
荒木 正人	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	高橋 俊雄	みずほ証券
安藤 広樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	田村 真一	極東証券経済研究所
五十崎 義将	東京海上アセットマネジメント	津田 和徳	大和証券
石井 孝一郎	三菱 UFJ 信託銀行	勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント
伊藤 彰洋	三井住友 DS アセットマネジメント	寺島 正	大和アセットマネジメント
井上 昂洋	シティグループ証券	永田 和子	QUICK
江上 誠	三井住友トラスト・アセットマネジメント	仲西 恭子	アセットマネジメント One
大場 剛平	野村アセットマネジメント	納 博司	いちよし経済研究所
奥村 裕介	岡三証券	仁井田 将	りそなアセットマネジメント
風早 隆弘	クレディ・スイス証券	西村 俊一	三井住友 DS アセットマネジメント
金森 都	SMBC 日興証券	林 晃弘	朝日ライフ アセットマネジメント
金森 淳一	岡三証券	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
川原 潤	大和証券	堀井 章	ニッセイ アセット マネジメント
高 英詞	野村アセットマネジメント	村田 大郎	JP モルガン証券
小場 啓司	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	守屋 のぞみ	UBS 証券
篠崎 真紀	モルガン・スタンレー MUFG 証券	山岡 久紘	野村證券
角 英樹	東海東京調査センター	横山 雄一	三菱 UFJ 信託銀行

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

銀行

1. 評価対象企業（13 社）

しずおかフィナンシャルグループ（注）、めぶきフィナンシャルグループ、ゆうちょ銀行、
コンコルディア・フィナンシャルグループ、あおぞら銀行、三菱 UFJ フィナンシャル・グループ、
りそなホールディングス、三井住友トラスト・ホールディングス、
三井住友フィナンシャルグループ、千葉銀行、ふくおかフィナンシャルグループ、
セブン銀行、みずほフィナンシャルグループ

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）静岡銀行が、株式移転により持株会社に移行した（2022 年 10 月）。

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	20
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	7	32
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	7
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	6	28
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	2	13
計		21	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 124 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

（2） 評価実施アナリストは 23 名（所属先 22 社）である。（氏名等は 125 頁参照）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は 123 頁参照）

- ① 本年度は、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目数、内容、配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 75.0 点（昨年度 75.6 点）、総合評価点の標準偏差は、6.2 点（昨年度同点）であった。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 77%（昨年度 75%）、説明会等が 79%（昨年度 77%）、フェア・ディスクロージャーが 85%（昨年度 83%）、ESG 関連が 70%（昨年度 75%）、自主的な情報開示が 68%（昨年度 69%）となった。
- ③ 評価項目（21 項目）について見ると、次の 7 項目が平均得点率で 80%以上となり、高い水準となった。7 項目の内訳を見ると、説明会等の中の 4 項目（(c) (d) (f) (g)）およびフェア・ディスクロージャーの 3 項目（(a) (b) (e)）であった。

(a) 「経営陣および IR 部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていますか。また、投資家にとって重

要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか」(平均得点率 89% [昨年度 95%]) (得点率 (評価点/配点<以下省略>) : 80%1 社・85%4 社・90%5 社・95%3 社)

- (b)「ウェブサイト等を活用した有用かつ、速やかな情報提供(説明会、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ)を行っていますか」(平均得点率 84% [昨年度 76%]) (得点率 : 70%台 2 社・80%台 8 社・90%台 3 社)
- (c)「第 1 四半期、第 3 四半期の開示資料の内容は適切ですか」(平均得点率 84% [昨年度 83%]) (得点率 : 70%台 2 社・80%台 8 社・90%台 3 社)
- (d)「決算発表および説明会は迅速に行われていますか」(平均得点率 83% [昨年度同率]) (得点率 : 70%台 5 社・80%台 5 社・90%台 3 社)
- (e)「英文による情報提供は迅速で、かつ充実していますか」(平均得点率 83% [昨年度 82%]) (得点率 : 70%台 3 社・80%台 7 社・90%台 3 社)
- (f)「決算補足説明資料は、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか」(平均得点率 83% [昨年度 81%]) (得点率 : 70%台 3 社・80%台 7 社・90%台 3 社)
- (g)「自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示(規制変更の影響など自主的開示を含む)が十分になされていますか」(平均得点率 82% [昨年度同率]) (得点率 : 70%台 6 社・80%台 4 社・90%台 3 社)

- ④ **ESG 関連**の 6 項目は、次のとおりとなった(b)(e)(f)は、本年度の新設項目)。なお、(f) については、平均得点率が 50%台となり、全 21 項目の中で最も低くなった。

- (a)「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか」(平均得点率 79% [昨年度 77%]) (得点率 : 70%台 7 社・80%台 5 社・90%台 1 社)
- (b)「社外取締役の関与について、十分な説明がなされていますか」(平均得点率 64%) (得点率 : 40%台 1 社・50%台 4 社・60%台 4 社・70%台 3 社・80%台 1 社)
- (c)「資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか」(平均得点率 74% [昨年度 77%]) (得点率 : 60%台 4 社・70%台 7 社・80%台 1 社・90%台 1 社)
- (d)「中・長期経営計画(ROE など目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的な方策が、十分に説明されていますか」(平均得点率 72% [昨年度同率]) (得点率 : 60%台 6 社・70%台 5 社・80%台 2 社)
- (e)「E(環境)・S(社会)に関する KPI を含む情報開示は十分になされていますか」(平均得点率 71%) (得点率 : 60%台 7 社・70%台 3 社・80%台 3 社)
- (f)「ESG 関連の説明会を開催していますか。また、それは充実していますか」(平均得点率 59%) (得点率 : 30%台 2 社・40%台 4 社・60%台 3 社・70%台 1 社・80%台 3 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 三菱UFJフィナンシャル・グループ (ディスクロージャー優良企業(8 回目)、総合評価点 86.6 点 [昨年度比+2.1 点]、昨年度第 2 位)

- ① 同社は、5 分野全てにおいて第 1 位となった。具体的には、**経営陣の IR 姿勢等**(得点率<以下省略> 89%)、**ESG 関連**(86%)、**自主的情報開示**(86%) が第 1 位、**説明会等**(85%)、**フェア・ディスクロージャー**(89%) が同得点第 1 位となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能・姿勢」が共に、最も高い評価となり、「IR の基本スタンス」も、同得点第 1 位となった。これらに関連して、経営トップが決算説明会や統合報告書等において経営方針を十分に説明しているとの声や、経営陣の IR 姿勢が積極的であり、投資家目線を強く意識しているとの声が寄せられた。IR 部門については、必要な情報が集積されていることや、経営陣との連携の良さを評価する声があった。
- ③ **説明会等**においては、「事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていること」および「決算補足説明資料が、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容であること」が共に、最も高い評価となった。また、「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況が十分に説明されていること(合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む)」および「自己資本規制をはじめとする金融規制に関連

した開示（規制変更の影響など自主的開示を含む）が十分になされていること」も共に、同得点第1位となった。これらに関連して、説明会の配布資料が充実しているとの声や、事業買収・売却や地政学リスクなどの事象に関する、開示資料の迅速な公表や説明会の適時の開催を評価する声が寄せられた。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツールによる情報提供」および「英文による情報提供」が共に、同得点第1位となった。これらに関連して、ウェブや電話会議などのリモートツールによる開示、英語での開示が充実しているとの声が寄せられた。また、決算説明会における説明や質疑応答が開示されている点を評価する声もあった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、6項目全てが、第1位または同得点第1位となった。特に、「資本政策、株主還元策の開示」および「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」は共に、90%以上の得点率となった。これらに関連して、資本政策（必要資本、資本配賦の方針、株主還元等）が明確に示されているとの声や、プログレスレポートにおいてカーボンニュートラルの取組みの進捗状況がわかりやくまとめられているとの声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、2項目全てが、最も高い評価となった。そのうちの、「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、積極的に実施していること。また、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示していること」は、90%以上の得点率となった。これらに関連して、IR Day、カーボンニュートラル実現への取組みに関する説明会、社外取締役とのミーティングなどを評価する声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 三井住友フィナンシャルグループ（総合評価点 82.7 点〔昨年度比－2.7 点〕、昨年度第1位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（84%）、ESG 関連（81%）、自主的情報開示（82%）が第2位、説明会等（83%）、フェア・ディスクロージャー（87%）が第3位となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて得点率が下がった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」（第2位）および「IR 部門の機能・姿勢」（第2位）が共に、高い評価となった。そのうちの、「IR 部門の機能・姿勢」は、昨年度に比べ得点率が改善し、90%以上の得点率となった。これらに関連して、経営トップの IR 姿勢が前向きであり、決算説明会や統合報告書等で経営方針を十分に説明しているとの声が寄せられた。IR 部門については、十分な情報が集約されており、有益な対話ができるとの声があった。なお、子会社の不祥事に関する投資家への情報発信が弱いとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示（規制変更の影響など自主的開示を含む）が十分になされていること」が、同得点第1位となった。また、「事業セグメント別・項目別等、財務の分析に必要なデータが、継続性を保つたちで十分に開示・説明されていること」（同得点第2位）が評価され、「事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていること」も、同得点第2位となった。これに関連して、説明資料の内容には定性的な説明も織り込まれており、業績やリスクについてわかりやすいとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツールによる情報提供」が、同得点第1位となった。また、「英文による情報提供」（同得点第4位）は、85%以上の得点率となった。これらに関連して、説明会をハイブリッド形式で開催しており評価できるとの声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「E（環境）・S（社会）に関する KPI を含む情報開示が十分になされていること」が、同得点第1位となった。「ESG 関連の説明会を開催していること。また、それが充実していること」（第2位）および「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」（同得点第2位）も共に、高い評価となった。これらに関連して、ESG 説明会の定期的な開催を評価する声があった。なお、政策保有株式について、ROE 目標と整合する定量的な説明を望む声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、2項目全てが第2位となったが、いずれの項目も、昨年度に比べ得点率が下がった。なお、IR Day、成長投資・資本政策に関するスモールミーティングを評価する声が多く寄せられた。

第3位 三井住友トラスト・ホールディングス（総合評価点 80.2 点〔昨年度比－0.1 点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、説明会等が同得点第1位（85%）、ESG 関連が第4位（77%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第4位（86%）、自主的情報開示が第5位（75%）、経営陣の IR 姿勢等が同得点第5位（79%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能・姿勢」が、昨年度に比べ得点率を改善し、85%以上となった。これに関連して、IR 部門の対応が真摯であることや、必要な情報が集約され、有益な対話ができることを評価する声があった。
- ③ 説明会等においては、「事業セグメント別・項目別等、財務の分析に必要なデータが、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていること」および「第1四半期、第3四半期の開示内容が適切であること」が共に、最も高い評価となった。また、「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況が十分に説明されていること（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）」および「自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示（規制変更の影響など自主的开示を含む）」が十分になされていること」が共に、同得点第1位となった。これらの結果、この分野において同得点第1位となった。これらに関連して、説明資料が詳細でありかつ見やすい、決算同時配布資料では説明に工夫が見られるとの声や、四半期決算の開示データを評価する声が寄せられた。なお、セグメント別 ROE の前提となる数値の開示を今後も期待するとの声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「リモートツールによる情報提供」および「英文による情報提供」が共に、同得点第4位となり、85%以上の得点率となった。これらに関連して、決算説明会における説明や質疑応答が開示されている点を評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」（同得点第2位）が、高い評価となった。また、「資本政策、株主還元策の開示」および「目標とする経営指標等」が共に、同得点第3位となった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、積極的に実施していること。また、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示していること」が、昨年度に比べ得点率を改善した。これに関連して、IR Day、気候変動への取組み等に関するセミナーを評価する声があった。

以 上

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表（銀行）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点 20点)	評価点	評価項目7 (配点 32点)	評価点	評価項目3 (配点 7点)	評価点	評価項目6 (配点 28点)	評価点	評価項目2 (配点 13点)	評価点	
1	8306 三菱UFJフィナンシャル・グループ	86.6	1	17.8	1	27.2	1	6.2	1	24.2	1	11.2	2
2	8316 三井住友フィナンシャルグループ	82.7	2	16.8	3	26.4	3	6.1	2	22.8	2	10.6	1
3	8309 三井住友トラスト・ホールディングス	80.2	5	15.7	1	27.2	4	6.0	4	21.6	4	9.7	4
4	8411 みずほフィナンシャルグループ	79.8	5	15.7	6	25.8	1	6.2	3	22.1	3	10.0	3
5	8331 千葉銀行	78.9	3	16.7	4	26.2	4	6.0	5	20.1	4	9.9	5
6	8308 りそなホールディングス	75.6	4	15.8	7	25.7	10	5.8	6	19.1	6	9.2	6
7	8410 セブン銀行	73.4	7	15.4	5	26.1	4	6.0	9	17.9	9	8.0	9
8	7186 コンコルディア・フィナンシャルグループ	72.0	9	14.7	8	24.9	4	6.0	8	18.3	8	8.1	12
9	7182 ゆうちょ銀行	71.5	9	14.7	11	23.8	10	5.8	7	18.7	7	8.5	14
10	5831 しずおかフィナンシャルグループ	70.0	8	14.8	9	24.7	9	5.9	11	17.3	11	7.3	8
11	7167 めぶきフィナンシャルグループ	68.0	12	14.0	11	23.8	12	5.6	12	16.9	12	7.7	13
12	8304 あおぞら銀行	67.9	11	14.2	13	23.6	4	6.0	10	17.4	10	6.7	11
12	8354 ふくおかフィナンシャルグループ	67.9	13	13.7	10	23.9	12	5.6	13	16.8	13	7.9	10
	評価対象企業評価平均点	74.98		15.38		25.33		5.95		19.49		8.83	

2022年度評価項目および配点（銀行）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（20点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップが決算説明会、統合報告書等において経営方針等を十分に説明していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)IR部門の機能・姿勢	
・IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	6
(3)IRの基本スタンス	
・会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても、積極的に開示する姿勢が見られますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（32点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示(連・単の両決算)	
①事業セグメント別・項目別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていますか。	7
②事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていますか。	7
③主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）。	5
④自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示（規制変更の影響など自主的開示を含む）が十分になされていますか。	4
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
①決算補足説明資料は、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか。	4
②第1四半期、第3四半期の開示内容は適切ですか。	3
(3)決算発表	
・決算発表および説明会は迅速に行われていますか。	2
3. フェア・ディスクロージャー（7点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていますか。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか。	2
(2)リモートツールによる情報提供	
・ウェブサイト等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていますか。	3
(3)英文による情報提供	
・英文による情報提供は迅速で、かつ充実していますか。	2
4. ESGに関連する情報の開示（28点）	配点
(1)コーポレート・ガバナンス	
①コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。	4
②社外取締役の関与について、十分な説明がされていますか。	4
(2)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
(3)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画（ROEなど目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	5
(4)E（環境）・S（社会）に関する情報開示	
①E（環境）・S（社会）に関するKPIを含む情報開示は十分になされていますか。	5
②ESG関連の説明会を開催していますか。また、それは充実していますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（13点）	配点
①決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、積極的に実施していますか。また、その際の実説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていますか。【過去1年間を目安に評価】【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	6
②統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていますか。【充実していた資料名・取組事例等をコメント欄に記入して下さい】	7

銀行専門部会委員

部 会 長	高井 晃	大和証券
部会長代理	鮫島 豊喜	SBI 証券
	高宮 健	野村証券
	西原 里江	JP モルガン証券
	西村 英一郎	野村アセットマネジメント
	花岡 宏行	JP モルガン・アセット・マネジメント
	藪谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント

評価実施アナリスト（23名）

幾代 孝四郎	大和アセットマネジメント	丹羽 孝一	シティグループ 証券
今井 雅	アセットマネジメント One	花岡 宏行	JP モルガン・アセット・マネジメント
佐藤 雅彦	SMBC 日興証券	伴 英康	ジェフリース 証券会社 東京支店
佐野 滉介	第一生命保険	終 宏二	QUICK
鮫島 豊喜	SBI 証券	藤原 重良	SOMPO アセットマネジメント
柴崎 正人	三井住友トラスト・アセットマネジメント	摩嶋 竜生	東海東京調査センター
高井 晃	大和証券	松野 真央樹	みずほ証券
高宮 健	野村証券	峯嶋 利隆	ニッセイ アセット マネジメント
戸田 浩司	りそなアセットマネジメント	森本 章	極東証券経済研究所
永本 成克	MU 投資顧問	矢野 貴裕	大和証券
西原 里江	JP モルガン証券	藪谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント
西村 英一郎	野村アセットマネジメント		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

保険・証券・その他金融

1. 評価対象企業（9 社）

- 【損保】（3 社） SOMPO ホールディングス、MS&AD インシュアランスグループホールディングス、東京海上ホールディングス
- 【生保】（3 社） かんぽ生命保険、第一生命ホールディングス、T&D ホールディングス
- 【証券】（2 社） 大和証券グループ本社、野村ホールディングス
- 【その他金融】（1 社） オリックス

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	5	26
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	31
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	7
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	6	28
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	8
計		21	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 131 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

（2） 評価実施アナリストは 20 名（所属先 20 社）である。（氏名等は 132 頁参照）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は 130 頁参照）

- ① 本年度は、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目数・内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 70.5 点（昨年度 70.3 点）、総合評価点の標準偏差は、8.0 点（昨年度 7.0 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、損保（3 社）が 77.2 点（昨年度 76.3 点）、生保（3 社）が 67.2 点（昨年度 67.5 点）、証券（2 社）が 64.7 点（昨年度 66.8 点）となり、本年度も、損保が生保、証券を上回った。その他金融（1 社）は 72.0 点（昨年度 67.5 点）となり、大きく上がった。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 71%（昨年度同率）、説明会等が 72%（昨年度 71%）、フェア・ディスクロージャーが 80%（昨年度 79%）、ESG 関連が 69%（昨年度同率）、自主的情報開示が 62%（昨年度 61%）となり、5 分野いずれも昨年度と同程度であった。
- ④ 評価項目について見ると、全 21 項目中、80%以上の平均得点率は次の 2 項目となった（いずれもフェア・ディスクロージャーの項目で、昨年度と同じ）。

- (a) 「投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく十分なものです。短期、中期での業績見通し上有益な情報（月次開示を含む）、ガイダンスをプレスリリース、ウェブサイトなどで広く開示していますか」（平均得点率 84%〔昨年度 80%〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：70% 台 2 社・80% 台 4 社・90% 台 3 社）
- (b) 「経営陣および IR 部門が、株価に影響を及ぼす重要情報について、公平な情報開示に十分な注意を払っていますか（報道機関等への対応含む）」（平均得点率 81%〔昨年度 83%〕）（得点率：70% 台 2 社・80% 台 6 社・70% 台 1 社）
- ⑤ 一方、次の項目（**経営陣の IR 姿勢等**の中の 1 項目（本年度の新設項目））は、平均得点率が最も低かった。
- ・「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」（平均得点率 51%）（得点率：30% 台 1 社・40% 台 5 社・60% 台 1 社・70% 台 2 社）
- ⑥ **ESG 関連**の 6 項目は、次のとおりとなった（(b) (e) (f) は、本年度の新設項目）。
- (a) 「コーポレートガバナンス・コードの各項目（例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報）について、進捗状況や、経営陣としての目的などが十分に説明されていますか」（平均得点率 73%〔昨年度 70%〕）（得点率：60% 台 2 社・70% 台 6 社・80% 台 1 社）
- (b) 「社外取締役の選定プロセスや関与について、十分に説明されていますか」（平均得点率 63%）（得点率：50% 台 1 社・60% 台 7 社・70% 台 1 社）
- (c) 「資本政策（資本コストの考え方を含む）、株主還元方針が十分に説明されていますか」（平均得点率 70%〔昨年度同率〕）（得点率：50% 台 2 社・60% 台 4 社・70% 台 1 社・80% 台 2 社）
- (d) 「中・長期経営計画（ROE の他、業界の特性を踏まえた利益指標や収益性指標やその他の KPI）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか」（平均得点率 69%〔昨年度 67%〕）（得点率：50% 台 3 社・60% 台 1 社・70% 台 3 社・80% 台 2 社）
- (e) 「E（環境）・S（社会）に関する適切な目標設定はなされていますか」（平均得点率 70%）（得点率：50% 台 1 社・60% 台 3 社・70% 台 4 社・80% 台 1 社）
- (f) 「上記（e）の目標の達成に向け、適切に PDCA サイクルを回し、適宜アップデートしていますか」（平均得点率 67%）（得点率：50% 台 1 社・60% 台 5 社・70% 台 3 社）

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 東京海上ホールディングス（ディスクロージャー優良企業〔5 回連続 5 回目〕、総合評価点 83.4 点〔昨年度比+4.5 点〕）

- ① 同社は、5 分野全てにおいて第 1 位となった。具体的には、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉88%）、**説明会等**（82%）、**フェア・ディスクロージャー**（87%）、**ESG 関連**（82%）、**自主的情報開示**（78%）となり、いずれの分野においても、昨年度に比べ得点率が改善した。特に、**経営陣の IR 姿勢等**および **ESG 関連**においては他社との差を上げた。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「社外取締役との対話」（第 2 位）を除く 4 項目において、第 1 位となった。これらに関連して、CEO、CFO がリーダーシップを持って IR を推進するというスタンスが際立っているとの声や、決算電話会議にもマネジメントが関与するなど積極的かつ丁寧な対話を行っているとの声が寄せられた。また、投資家の意向を踏まえて開示内容を適宜見直すなど、企業価値向上のために市場に耳を傾ける姿勢が見られるとの声や、社外取締役の説明会出席を評価する声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「決算発表日」を除く 5 項目において、第 1 位または同得点第 1 位となった。特に、「決算説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）や資料が十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていること」は、昨年度に比べ得点率が 10 ポイント以上改善し、90%以上の得点率となった。これらに関連して、決算説明会や説明資料において、会社が伝えたいポイントが明瞭に整理されているとの声や、投資家の疑問点等を的確に認識し開示内容を充実させているとの声が寄せられた。なお、米国子会社を含む海外事業における地域ごとの財務情報についてさらなる充実を望む声があった。「決算発表日」については、昨年度に続き

て平均得点率に達しなかった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」の2項目は共に、最も高い評価となり、90%以上の得点率となった。また、「リモートツールによる情報提供」は、同得点第1位となった。なお、財務関連データのエクセル開示の一層の充実を望む声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、6項目全てが最も高い評価となった。なお、定量的な目標に関してより細やかな中間目標の設定を望む声があった。また、他社に先んじて、社外取締役の選任プロセスについての一層の明確化や、社会課題の解決にもう一段踏み込んだ取組みと説明を行うことを期待する声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG 関連説明会等を積極的に実施していること」は、昨年度に比べ得点率が改善し、第1位（昨年度第2位）となった。評価できるイベントとして、海外事業説明会、再生可能エネルギーマーケットに関する説明会を挙げる声が多かった。また、現場の声が聞くことができるとして D&I 説明会を評価する声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 第一生命ホールディングス（総合評価点 78.1 点〔昨年度比+0.5 点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（82%）、説明会等（81%）、ESG 関連（76%）が第2位、フェア・ディスクロージャーが同得点第2位（81%）、自主的情報開示が第6位（60%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」（第2位）および「IR 部門の機能」（第2位）が共に、90%以上の得点率となった。「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られること」（第2位）も、85%以上の得点率となった。これらに関連して、CEO、CFO の説明が的確かつ具体的であるとの声や、マネジメントの考えが一貫しており、経営に浸透しているとの声が寄せられた。また、経営陣の IR 姿勢はここ数年で顕著な改善が見られるとの声もあった。「社外取締役との対話」は第3位となった。
- ③ **説明会等**においては、「事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、社内リスク管理上のリスク量等（自主的開示を含む）の開示を十分にしていること」が、同得点第1位となった。また、「決算説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）や資料が十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていること」（同得点第2位）および「決算資料・統合報告書等における開示」（第2位）は共に、85%以上の得点率となった。「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況を十分に説明していること（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）」（第2位）も評価された。これらに関連して、図表の使い方を工夫しており、主要子会社ごとのサマリーも見やすいとの声や、資本政策や保険会計の業界特有の複雑さを丁寧に説明しているとの声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（2項目）は共に、昨年度に比べ得点率が改善し、85%以上の得点率となった。一方で、「リモートツールによる情報提供」（第7位）は昨年度に比べ、順位、得点率共に下がった。これに関連して、海外子会社等の開示資料のウェブサイトへの掲載やリンクの表示を望む声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策の開示」（同得点第1位）が、85%以上の得点率となった「コーポレートガバナンス」は、2項目共に、同得点第2位となった。また、「目標とする経営指標等」も第3位となった。これらに関連して、資本政策を見る上で重要な要素（リスク削減取組方針、ESR のターゲットレンジなど）がわかりやすく説明されているとの声が寄せられた。「E（環境）・S（社会）に関する情報開示」（2項目）は共に、平均得点率を上回った。
- ⑥ **自主的情報開示**の「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG 関連説明会等を積極的に実施していること」（第6位）は、平均得点率に達しなかった。

第3位 SOMPO ホールディングス（総合評価点 74.7 点〔昨年度比+0.7 点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが同得点第2位（81%）、ESG 関連（76%）、自主的情報開示（68%）が第3位、経営陣の IR 姿勢等（74%）、説明会等（75%）が第4位となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」（第3位）および「IR 部門の機能」（第3位）が共に、

85%以上の得点率となった。本年度の新設項目である「社外取締役との対話」（同得点第4位）は、平均得点率に達しなかった。「IRの基本スタンス」の2項目は共に、同得点第4位となったが、そのうちの「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られること」は、平均得点率に達しなかった。なお、CEO、COOの役割を明確にした積極的なIR姿勢を望む声があった。

- ③ **説明会等**においては、「事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、社内リスク管理上のリスク量等（自主的開示を含む）の開示を十分にしていること」が第3位となった。また、「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況を十分に説明していること（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）」も、同得点第3位となった。なお、海外情報の一層の充実を望む声、開示情報をより幅広い投資家に伝える努力を求める声があった。「決算発表日」については、昨年度に続いて平均得点率に達しなかった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「投資家にとって重要と判断される事項の開示が、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものであること。短期、中長期での業績見通し上有益な情報（月次開示を含む）、ガイダンスをプレスリリース、ウェブサイト上などで広く開示していること」が、同得点第2位となった。「経営陣およびIR部門が、株価に影響を及ぼす重要情報について、公平な情報開示に十分な注意を払っていること（報道機関等への対応含む）」（同得点第3位）および「リモートツールによる情報提供」（同得点第4位）は共に、平均得点率と同程度となった。
- ⑤ **ESG関連**においては、「目標とする経営指標等」が第2位となった。また、「資本政策、株主還元策の開示」および「E（環境）・S（社会）に関する情報開示」（2項目）は、いずれも第3位となった。なお、「コーポレートガバナンス」（2項目）のうちの「社外取締役の選定プロセスや関与について、十分に説明していること」（同得点第6位）は、平均得点率に達しなかった。これらに関連して、株主還元について、基礎還元と追加還元に整理されていて理解しやすいとの声があったほか、パーパス経営浸透のための取組み（社員のマイパーパスの設定）に期待するとの声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG関連説明会等を積極的に実施していること」は、第3位となった。評価できるイベントとして、海外保険事業戦略説明会や事業別説明会を挙げる声が多く寄せられた。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ オリックス（総合評価点 72.0 点〔昨年度比+4.5 点〕、第 5 位〔昨年度第 6 位〕）

- ① 同社は、昨年度から評価対象とした会社である。**フェア・ディスクロージャー**が同得点第2位（81%）、**説明会等**が第3位（76%）、**経営陣のIR姿勢等**（73%）、**ESG関連**（70%）が第5位、**自主的情報開示**が第8位（51%）となった。昨年度に比べ、**自主的情報開示**を除く4分野で得点率が改善した結果、総合評価点が大幅（+4.5 点）に上がった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣のIR姿勢」（第4位）が、80%以上の得点率となり、「IRの基本スタンス」（2項目）が、共に第3位となった。これに関連して、経営トップが企業価値向上を強く意識し、IR姿勢に改善が見られる、経営トップの説明は的確かつ具体的であるとの声が寄せられた。また、事業別での中期利益見通しの開示を評価する声もあった。なお、各施策について、より定量的な説明を望む声があった。
- ③ **説明会等**においては、「決算説明会における会社側の説明（質疑応答含む）、資料は十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていること」（同得点第2位）が、85%以上の得点率となった。また、「部門別・地域別等、財務分析に必要なデータは、一貫して十分に開示・説明されていること」も、同得点第2位となった。これらに関連して、マネジメントの回答は明快、簡潔で好印象を与える、中期目標や方向性に関する説明の改善に努めているとの声が寄せられた。また、財務関連データのエクセル開示の使いやすさを評価する声もあった。「決算発表日」（第3位）については、平均得点率を15ポイント以上上回った。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツールによる情報提供」が、同得点第1位となった。また、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（2項目）も共に、80%以上の得点率となり、この分野において同得点第2位となった。なお、M&Aに関する情報の詳細について適時の説明を望む声があった。
- ⑤ **ESG関連**においては、「資本政策、株主還元策の開示」が、平均得点率に達せず、資本政策の開示内容について一層の改善を求める声があった。そのほかの5項目は、いずれも平均得点率を上回った。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、事業説明会の開催を望む声があった。

以 上

2022年度 ディスクロージャリー評価比較総括表 (保険・証券・その他金融)

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
			評価項目5 (配点 26点)	評価項目6 (配点 31点)	評価項目3 (配点 7点)	評価項目6 (配点 28点)	評価項目1 (配点 8点)						
1	8766 東京海上ホールディングス	83.4	22.8	1	25.4	1	6.1	1	22.9	1	6.2	1	1
2	8750 第一生命ホールディングス	78.1	21.2	2	25.0	2	5.7	2	21.4	2	4.8	6	2
3	8630 SOMPOホールディングス	74.7	19.2	4	23.2	4	5.7	2	21.2	3	5.4	3	4
4	8725 MS&ADインシュアランスグループホールディングス	73.4	19.4	3	22.0	5	5.6	5	20.4	4	6.0	2	3
5	8591 オリックス	72.0	19.1	5	23.6	3	5.7	2	19.5	5	4.1	8	6
6	8795 T&Dホールディングス	66.3	16.8	6	21.0	6	5.5	7	18.1	6	4.9	4	5
7	8604 野村ホールディングス	65.3	16.2	7	20.6	8	5.6	5	18.0	7	4.9	4	7
8	8601 大和証券グループ本社	64.1	16.0	8	20.8	7	5.3	8	17.3	8	4.7	7	7
9	7181 かんぽ生命保険	57.2	14.5	9	18.7	9	5.1	9	15.6	9	3.3	9	9
	評価対象企業評価平均点	70.48	18.35		22.25		5.59		19.37		4.92		

2022年度評価項目および配点（保険・証券・その他金融）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（26点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなどIRに積極的に関与していますか。経営陣が積極的に市場と十分にコミュニケーションをとる意欲を持っていますか。	10
(2)社外取締役との対話	
・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	5
(3)IR部門の機能	
・IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。IR部門が投資家の意見を経営陣にフィードバックする機能を果たしていますか。	5
(4)IRの基本スタンス	
①会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られますか。	2
②パンデミック、気候変動、サイバー攻撃などのリスクと機会に対する取組みを積極的に開示する姿勢が見られますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（31点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①部門別・地域別等、財務分析に必要なデータは、一貫して十分に開示・説明されていますか。	7
②事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、社内リスク管理上のリスク量等（自主的開示を含む）の開示が十分になされていますか。	7
③主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）。	4
④決算説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）、資料は十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていますか。	5
(2)決算資料・統合報告書等における開示	
・業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか。	5
(3)決算発表日	
・決算発表の迅速化に積極的に取り組んでいますか。	3
3. フェア・ディスクロージャー（7点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
①経営陣およびIR部門が、株価に影響を及ぼす重要情報について、公平な情報開示に十分な注意を払っていますか（報道機関等への対応含む）。	2
②投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものです。短期、中長期での業績見通し上有益な情報（月次開示を含む）、ガイダンスをプレスリリース、ウェブサイト上などで広く開示していますか。	2
(2)リモートツールによる情報提供	
・ウェブサイト等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会等の開催、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を日英両言語で行っていますか。	3
4. ESGに関連する情報の開示（28点）	配点
(1)コーポレートガバナンス	
①コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況や、経営陣としての目的などが十分に説明がなされていますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報。	4
②社外取締役の選定プロセスや関与について、十分に説明されていますか。	2
(2)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策（資本コストの考え方を含む）、株主還元方針が十分に説明されていますか。	6
(3)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画（ROEの他、業界の特性を踏まえた利益指標や収益性指標やその他のKPI）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	6
(4)E（環境）・S（社会）に関する情報開示	
①E（環境）・S（社会）に関する適切な目標設定はなされていますか。	5
②上記の目標の達成に向け、適切にPDCAサイクルを回し、適宜アップデートしていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（8点）	配点
・決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG関連説明会等を積極的に実施していますか。 [過去1年間を目安に評価] 【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	8

保険・証券・その他金融専門部会委員

部 会 長	村木 正雄	SMBC 日興証券
部会長代理	丹羽 孝一	シティグループ証券
	大塚 亘	JP モルガン証券
	辻野 菜摘	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	伴 英康	ジェフリース証券会社 東京支店
	峯嶋 利隆	ニッセイ アセット マネジメント

評価実施アナリスト（20 名）

幾代 孝四郎	大和アセットマネジメント	戸田 浩司	りそなアセットマネジメント
今井 雅	アセットマネジメント One	西村 英一郎	野村アセットマネジメント
大芦 尚広	朝日ライフ アセットマネジメント	丹羽 孝一	シティグループ証券
大塚 亘	JP モルガン証券	花岡 宏行	JP モルガン・アセット・マネジメント
熊崎 崇文	三菱 UFJ 信託銀行	伴 英康	ジェフリース証券会社 東京支店
坂巻 成彦	野村証券	摩嶋 竜生	東海東京調査センター
佐藤 耕喜	みずほ証券	峯嶋 利隆	ニッセイ アセット マネジメント
佐野 滉介	第一生命保険	村木 正雄	SMBC 日興証券
柴崎 正人	三井住友トラスト・アセットマネジメント	簀谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント
辻野 菜摘	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	渡辺 和樹	大和証券

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

I Tサービス・ソフトウェア

1. 評価対象企業（13 社）

日鉄ソリューションズ、TIS、野村総合研究所、オービック、トレンドマイクロ、日本オラクル、オービックビジネスコンサルタント、伊藤忠テクノソリューションズ、大塚商会、ネットワンシステムズ、BIPROGY(注)、エヌ・ティ・ティ・データ、SCSK

(証券コード協議会銘柄コード順)

(注) 日本ユニシスが商号を変更した（2022 年 4 月）。

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	20
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	24
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的信息開示	1	6
計		11	100

(注) 具体的な評価項目の内容および配点は 138 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

(2) 評価実施アナリストは 24 名（所属先 20 社）である。（氏名等は 139 頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は 137 頁参照）

- ① 本年度は、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は、69.1 点（昨年度 67.6 点）であった。なお、総合評価点の標準偏差は 14.1 点（昨年度 15.3 点）となった。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 66%（昨年度 64%）、説明会等が 70%（昨年度同率）、フェア・ディスクロージャーが 83%（昨年度同率）、ESG 関連が 61%（昨年度 58%）、自主的信息開示が 72%（昨年度 61%）となった。
- ③ 評価項目について見ると、全 11 項目のうち平均得点率が 80%以上のものは、次の 1 項目となった（フェア・ディスクロージャーの中の 1 項目で、昨年度も同じ。）。
 - ・ 「外国人投資家向けの IR 活動（海外 IR・英文による情報提供）に努めていますか〔海外 IR・英文による情報提供あり：満点〕」（平均得点率 100%〔昨年度同率〕）

④ 一方、経営陣の IR 姿勢等の中の次の 1 項目は、40%台となり、昨年度に続き最も低かった。

- ・ 「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか」(平均得点率 47% [昨年度 42%]) (得点率(評価点/配点 <以下省略>) : 10%台 1 社・20%台 5 社・30%台 2 社・60%台 1 社・70%台 3 社・90%台 1 社)

⑤ ESG 関連の 3 項目は、次のとおりとなり、(a) (b) の平均得点率は共に 50%台と低い水準であった。

- (a) 「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標(例えば、営業利益率、ROE 等)が、十分に説明されていますか」(平均得点率 59% [昨年度 57%]) (得点率 : 20%台 3 社・30%台 1 社・40%台 1 社・50%台 1 社・70%台 4 社・80%台 2 社・90%台 1 社)
- (b) 「資本政策(キャッシュポジション、金庫株等)、株主還元策(配当性向、自社株買い等)に関し十分に説明されていますか」(平均得点率 59% [昨年度 58%]) (得点率 : 30%台 1 社・40%台 3 社・50%台 3 社・60%台 3 社・70%台 1 社・80%台 1 社・90%台 1 社)
- (c) 「非財務情報(ESG 情報、統合報告書等)を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていきますか」(平均得点率 63% [昨年度 58%]) (得点率 : 20%台 1 社・40%台 2 社・50%台 3 社・60%台 1 社・70%台 5 社・90%台 1 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 野村総合研究所(ディスクロージャー優良企業[6 回連続 14 回目]、総合評価点 91.9 点 [昨年度比 +3.3 点])

- ① 同社は、5 分野全てにおいて第 1 位となった。具体的には、経営陣の IR 姿勢等(得点率 <以下省略> 93%)、説明会等(85%)、フェア・ディスクロージャー(100% (同得点第 1 位))、ESG 関連(92%)、自主的情報開示(83%)となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となり、95%以上の得点率となった。これに関連して、経営トップの説明力が高く、特に、経営戦略、業界ビューの説明や数値目標の背景などの説明が有益であるなどの声が多く寄せられた。また、「IR 部門の機能」(2 項目)も共に、最も高い評価となった。特に、「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していること。併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していること」は、90%以上の得点率となり、昨年度に比べ 10 ポイント以上上昇した。これに関連して、事業説明会を評価する声が多く寄せられ、特にグローバル戦略に関する説明が有益とする声が多かった。また、IR 対応に関しては、IR のスタンスが安定している、質問に対するレスポンスが良いとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合(合併等を含む)、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」および「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目(労務費、外注費、機器販売原価等)および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」が共に、最も高い評価となった。これらに関連して、事業別・顧客業種別・国別などの多角的な開示内容を評価する声があった。なお、買収を加速させている中でオーガニックとインオーガニックの区別を明確にすることを望む声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」および「外国人投資家向け情報提供」が共に、満点評価となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「目標とする経営指標等」、「資本政策、株主還元策の開示」および「ESG に関する情報の開示」の 3 項目全てにおいて最も高い評価となり、いずれも 90%以上の得点率であった。これらに関連して、事業としての ESG、会社運営上での ESG のそれぞれの方針が明確に説明されているとの声が多く寄せられた。また、非財務情報の開示として、統合報告書を評価する声が多く寄せられ、そのほかサステナビリティブック、ESG データブックを評価する声もあった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業または財務上のリスク情報(不採算案件の発生、COVID-19 の影響、情報漏洩、製

品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等)の開示が十分になされていること」は、最も高い評価となった。これに関連して、定量的な開示内容を状況に応じて適宜充実させている点を評価する声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 T I S (高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、総合評価点 83.1 点〔昨年度比－0.8 点〕、昨年度第2位〔一昨年度第2位〕)

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位(100%)、経営陣の IR 姿勢等(81%)、ESG 関連(81%)が第2位、自主的情報開示が同得点第2位(77%)、説明会等が第3位(74%)となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していること、併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していること」が第2位となった。これに関連して、「事業説明会(サステナビリティ経営)」を評価する声が多く寄せられた。また、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」が共に、第3位となった。これらに関連して、経営トップによる経営戦略等のメッセージが明快である、戦略説明が有益であるとの声が寄せられた。なお、成長戦略に関する一層の説明を望む声があった。
- ③ 説明会等においては、「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合(合併等を含む)、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」が、同得点第3位となった。また、「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目(労務費、外注費、機器販売原価等)および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」が、同得点第4位となった。これらに関連して、開示資料の内容は質が高いと評価する声があるとともに、成長戦略上重要なビジネスに関しての継続的なアップデートを望む声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」および「外国人投資家向け情報提供」が共に、満点評価となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「資本政策(キャッシュポジション、金庫株等)、株主還元策(配当性向、自社株買い等)に関し十分に説明していること」(第2位)が高い評価となり、「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標(例えば、営業利益率、ROE等)を、十分に説明していること」(第3位)も評価された。また、「非財務情報(ESG 情報、統合報告書等)を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が第4位となった。非財務情報の開示として、統合報告書を評価する声が多く寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業または財務上のリスク情報(不採算案件の発生、COVID-19の影響、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等)の開示が十分になされていること」は、昨年度に比べ、得点率が大幅に改善し、同得点第2位となった。

同社は、3回連続して第2位の評価を受けたので、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」に選定した。

第3位 伊藤忠テクノソリューションズ (総合評価点 79.5 点〔昨年度比－2.2 点〕、昨年度第3位)

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位(100%)、自主的情報開示が同得点第2位(77%)、経営陣の IR 姿勢等が第3位(77%)、ESG 関連が第4位(71%)、説明会等が同得点第4位(74%)となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していること、併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していること」が第3位となった。また、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」が共に、第6位となった。これらに関連して、数値目標の背景等を経営トップ自らが説明し説得力があること、事業説明会や勉強会等コミュニケーションの機会が多いことを評価する声があった。また、セグメント別の開示内容が優れている、IR 担当者の対応が迅速との声もあった。なお、事業説明会における、各部門の定量目標等の説明の充実を望む声があった。

- ③ **説明会等**においては、「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」（第3位）および「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」（第5位）が共に、昨年度に比べ得点率をやや下げた。これらに関連して、分析に必要な実績データは概ね開示されているが、会社ガイダンスにおけるセグメント毎の業績見通しが他社に比べて不十分との声や、情報通信事業の競争環境に関する一層の情報を望むとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」および「外国人投資家向け情報提供」が共に、満点評価となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「資本政策（キャッシュポジション、金庫株等）、株主還元策（配当性向、自社株買い等）に関し十分に説明していること」および「非財務情報（ESG 情報、統合報告書等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が共に、第5位となった。また、「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE 等）を、十分に説明していること」が、同得点第6位となった。非財務情報の開示として、統合レポートを評価する声が多く寄せられた。なお、従業員エンゲージメントなど人的資本に関する開示内容の充実を望む声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、COVID-19 の影響、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」は、昨年度に比べ得点率が改善し、同得点第2位となった。

以 上

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (ITサービス・ソフトウェア)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目3 (配点 30点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目2 (配点 20点)		3. フェア・ディスクローチャー 評価項目2 (配点 20点)		4. ESGに関連する情報の開示 評価項目3 (配点 24点)		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1 (配点 6点)		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4307 野村総合研究所	91.9	27.9	1	16.9	1	20.0	1	22.1	1	5.0	1	1
2	3626 TIS	83.1	24.3	2	14.8	3	20.0	1	19.4	2	4.6	2	2
3	4739 伊藤忠テクノソリューションズ	79.5	23.2	3	14.7	4	20.0	1	17.0	4	4.6	2	3
4	7518 ネットワンシステムズ	78.0	20.9	5	15.1	2	20.0	1	17.7	3	4.3	8	5
5	9613 エヌ・ティ・ティ・データ	77.4	22.7	4	13.7	9	20.0	1	16.7	7	4.3	8	6
6	9719 SCSK	75.2	19.0	7	14.7	4	20.0	1	16.9	5	4.6	2	4
7	8056 BIPROGY	72.0	17.3	10	13.8	8	20.0	1	16.8	6	4.1	10	7
8	2327 日鉄ソリューションズ	70.3	20.1	6	13.6	10	20.0	1	12.1	8	4.5	5	8
9	4704 トレンドマイクロ	68.3	18.3	8	14.4	6	20.0	1	11.1	11	4.5	5	9
10	4733 オービックビジネスコンサルタント	53.3	18.2	9	14.3	7	5.0	11	11.4	9	4.4	7	13
11	4716 日本オラクル	50.1	10.5	13	9.0	13	20.0	1	6.9	13	3.7	13	10
11	4768 大塚商会	50.1	17.1	11	12.9	12	5.0	11	11.3	10	3.8	11	11
13	4684 オービック	49.0	16.7	12	13.5	11	5.0	11	10.0	12	3.8	11	12
	評価対象企業評価平均点	69.10	19.71		13.96		16.54		14.57		4.32		

2022年度評価項目および配点（ITサービス・ソフトウェア）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・決算説明会などに経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)IR部門の機能	
①IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	10
②有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。併せて、IR部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか。【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
①売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていますか。セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていますか。	10
②顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画は十分に記載されていますか。また変動要因について十分に説明されていますか。	10
3. フェア・ディスクロージャー（20点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認ができますか。【終了後同日中にできる：15点 後日できる：7点 できない：0点】	15
(2)外国人投資家向け情報提供	
・外国人投資家向けのIR活動（海外IR・英文による情報提供）に努めていますか。【海外IR・英文による情報提供あり：5点 海外IRのみ：3点 英文による情報提供のみ：3点 なし：0点】	5
4. ESGに関連する情報の開示（24点）	配点
(1)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE等）が、十分に説明されていますか。	7
(2)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策(キャッシュポジション、金庫株等)、株主還元策（配当性向、自社株買い等）に関し十分に説明されていますか。	7
(3)ESGに関する情報の開示	
・非財務情報（ESG情報、統合報告書等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていますか。【充実していた資料名・その内容等をコメント欄に記入して下さい】	10
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（6点）	配点
・事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、COVID-19の影響、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていますか。	6

IT サービス・ソフトウェア専門部会委員

部 会 長	上野 真	大和証券
部会長代理	菊池 悟	SMBC 日興証券
	黒木 文明	ニッセイ アセット マネジメント
	桜井 雄太	野村アセットマネジメント
	田中 誓	ゴールドマン・サックス証券
	田中 秀明	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	堀 雄介	みずほ証券

評価実施アナリスト（24 名）

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	山藤 秀明	QUICK
新井 光樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	平 秀昭	三井住友トラスト・アセットマネジメント
石井 宏	朝日ライフ アセットマネジメント	田中 誓	ゴールドマン・サックス証券
岩渕 啓介	岡三証券	田中 秀明	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
上野 真	大和証券	千葉 馨	JP モルガン証券
大浦 裕太	第一生命保険	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	堀 雄介	みずほ証券
菊池 悟	SMBC 日興証券	前田 俊明	QUICK
栗城 拓也	りそなアセットマネジメント	森本 章	極東証券経済研究所
黒木 文明	ニッセイ アセット マネジメント	山科 拓	マッコーリーキャピタル証券会社
小林 亮	みずほ証券	吉林 拓馬	東海東京調査センター
桜井 雄太	野村アセットマネジメント	渡辺 洋之	三井住友 DS アセットマネジメント

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

広告・メディア・エンタテインメント

1. 評価対象企業（22 社）

【広告・メディア】（10 社）

博報堂 DY ホールディングス、電通グループ、フジ・メディア・ホールディングス、リクルートホールディングス、TBS ホールディングス、日本テレビホールディングス、テレビ朝日ホールディングス、テレビ東京ホールディングス、KADOKAWA、東宝

【エンタテインメント】（12 社）

コーエーテクモホールディングス、ネクソン、コロプラ、ガンホー・オンライン・エンターテイメント、オリエンタルランド、セガサミーホールディングス、バンダイナムコホールディングス、任天堂、エイチ・アイ・エス、スクウェア・エニックス・ホールディングス、カプコン、コナミグループ（注）

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）コナミホールディングスが商号を変更した（2022 年 7 月）。

2. 評価方法

（1）評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	10
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	25
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的信息開示	1	10
計		10	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 145 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

（2） 評価実施アナリストは 35 名（所属先 25 社）である。（氏名等は 146 頁参照）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は 144 頁参照）

- ① 本年度は、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 62.4 点（昨年度 64.1 点）、総合評価点の標準偏差は 10.1 点（昨年度 7.9 点）となった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、広告・メディア（10 社）が 59.6 点（昨年度 60.7 点）、エンタテイン

メント（12社）が64.8点（昨年度67.2点）となった。両業態共に下がったが、エンタテインメントの下げ幅がやや大きかった。

- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が66%（昨年度67%）、**説明会等**が68%（昨年度67%）、**フェア・ディスクロージャー**が72%（昨年度71%）、**ESG関連**が58%（昨年度60%）、**自主的情報開示**が41%（昨年度53%）となった。**自主的情報開示**は、昨年度に続き平均得点率が下がり、40%台となった。
- ④ 評価項目について見ると、昨年度に続き、平均得点率80%以上はなく、次の**フェア・ディスクロージャー**の中の1項目が70%以上となった（昨年度は70%以上が2項目）。

- ・ 「経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか」（平均得点率77%〔昨年度79%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：60%台2社・70%台10社・80%台9社・90%台1社）

- ⑤ 一方、次の**自主的情報開示**の項目は、昨年度に比べ平均得点率が下がり、最も低い水準となった。

- ・ 「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IRデーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか」（平均得点率41%〔昨年度47%〕）（得点率：20%台5社・30%台7社・40%台4社・50%台4社・60%台1社・70%台1社）

- ⑥ **ESG関連**の3項目（全て本年度の新設項目）は、次のとおりとなり、いずれも50%台と低い水準であった。

- (a) 「統合報告書等を通じ、ESGに関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか」（平均得点率59%）（得点率：40%台9社・50%台5社・70%台7社・80%台1社）
- (b) 「価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていますか」（平均得点率58%）（得点率：30%台3社・40%台4社・50%台7社・70%台4社・80%台4社）
- (c) 「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていますか」（平均得点率55%）（得点率：30%台4社・40%台5社・50%台4社・60%台3社・70%台5社・80%台1社）

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 オリエンタルランド（ディスクロージャー優良企業〔4回連続4回目〕、総合評価点77.8点〔昨年度比－1.6点〕）

- ① 同社は、**自主的情報開示**が第1位（得点率〈以下省略〉76%）、**経営陣のIR姿勢等**が第2位（81%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第2位（79%）、**説明会等**が第4位（78%）、**ESG関連**が第5位（74%）となった。昨年度に比べ、**フェア・ディスクロージャー**および**ESG関連**を除く3分野において、得点率が下がった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣のIR姿勢」が、最も高い評価となった。また、「IR部門の機能・基本スタンス」も第3位となった。これらに関連して、経営陣が投資家との対話を行い、その意見を経営に活かそうとする姿勢を評価する声や、IR部門の質が高く、数字の前提や背景説明などを含めた有用なディスカッションができるとの声が寄せられた。なお、経営トップのスマールミーティングを望む声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」が第3位となったが、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」は、昨年度に比べ得点率が下がり、第6位となった。これらに関連して、全体として詳細に情報開示がなされているとの声や、説明会での経営トップの発言をIR部門が的確にフォローしているとの声が寄せられた。一方で、中期経営計画の十分な説明や、四半期開示の内容充実を求める声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が、最も高い評価となった。これに関連して、フェア・ディスクロージャーを意識したIR対応がなされているとの声のほか、説明会の音声配信や質疑応答の開示を評価する声もあった。なお、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第9位）は、平均得点率と同程度となった。これに関連して、決算発表後に月次動向をヒアリングで

きる点を評価する声がある一方で、四半期での入場者数、客単価等の開示を求める声もあった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていること」（同得点第 3 位）が評価された。また、「統合報告書等を通じ、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」も、同得点第 4 位となった。なお、「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること、また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」については、同得点第 8 位となった。これに関連して、政策保有株式の保有目的の説明や、社外取締役の選任基準、独立性の説明が不十分との声があった。なお、ESG の取組みの軸を従業員に向けた点を評価する声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IR デーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は、最も高い評価となり、第 2 位に 10 ポイント以上の差をつけた。これに関連して、定期的に開催される施設見学会が有益であるとの声が多数寄せられた。また、注目される事業の担当者とのミーティングを評価する声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 セガサミーホールディングス（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、 総合評価点 77.2 点〔昨年度比+1.6 点〕、昨年度第 2 位〔一昨年度第 2 位〕）

- ① 同社は、**説明会等**が同得点第 1 位（81%）、**経営陣の IR 姿勢等**（81%）、**自主的情報開示**（58%）が第 3 位、**ESG 関連**が同得点第 3 位（77%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 5 位（77%）となった。昨年度に比べ、**説明会等**の上昇が目立った。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」が第 2 位となった。これに関連して、IR 担当者とのディスカッションは有益であり、情報の信頼性も高いとの声や、IR 部門と事業部門との関係が密であると評価する声が寄せられた。「経営陣の IR 姿勢」は第 5 位となった。これに関連して、経営陣には、投資家やアナリストの意見をくみあげようとする意識があり、経営にも反映しているとの声が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」および「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が共に、昨年度に比べ得点率を改善し、同得点第 1 位となった。これらに関連して、経営トップが戦略や見通しなどを詳細に説明しているとの声や、説明会資料は質・量共に充実しており、各ビジネスの売上・利益・KPI が丁寧に開示されているとの声が寄せられた。なお、家庭用とモバイルの営業利益内訳の開示を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」が、同得点第 4 位となり、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が、同得点第 5 位となった。これらに関連して、説明会の動画配信、質疑応答の開示や、個人投資家向けサイトを評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること、また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」が、最も高い評価となった。また、「統合報告書等を通じ、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」も、同得点第 4 位となった。これに関連して、統合レポートの内容が充実しており、最適資本配分などに関する説明も評価できるとの声があったほか、サステナビリティレポートが簡潔でわかりやすいとの声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IR デーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は第 3 位となった。これに関連して、ゲーム事業の説明、ミーティングが有益との声のほか、各種媒体を通じて業界全体の情報発信に取り組む姿勢を評価する声があった。

同社は、3 回連続して第 2 位の評価を受けたので、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」に選定した。

第3位 バンダイナムコホールディングス（総合評価点 76.1 点〔昨年度比+2.7 点〕、昨年度第3位）

- ① 同社は、ESG 関連が第2位（78%）、説明会等が第3位（80%）、経営陣の IR 姿勢等が第4位（79%）、自主的情報開示が同得点第4位（56%）、フェア・ディスクロージャーが第8位（75%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示を除く4分野において、得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が第2位となり、「IR 部門の機能、基本スタンス」は第7位となった。いずれの項目も昨年度に比べ得点率が改善した。これらに関連して、経営陣の IR 姿勢は積極的で、スモールミーティングを適宜開催するなど投資家・アナリストとの対話に意欲的との声が寄せられた。IR 部門については、投資家・アナリストのニーズに前向きに対応しており、ディスカッションで得られる情報の信頼性も高いとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が、昨年度に比べ得点率が改善し、同得点第1位となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」は第4位となった。これらに関連して、説明会資料等は質・量共に充実しており、決算内容や計画を定量的に理解しやすいとの声が寄せられた。また、自社の強みや方向性を伝えており、説明にもオリジナリティがあるとの声もあった。なお、各ビジネスの売上・利益・KPI の開示を評価しつつ、トイやゲームの将来性についての KPI の開示を望む声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は第11位であったが、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」は、昨年度に比べ得点率が改善し、同得点第4位となった。これに関連して、説明会の説明概要、質疑応答の開示を評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「統合報告書等を通じ、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」および「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること、また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」が共に、第2位となった。これらの結果、この分野において第2位となった。これらに関連して、統合レポートの内容は充実しており有益であるとの声や、サステナビリティに関する活動に積極的でありウェブサイトでも開示しているとの声が寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IR デーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は、同得点第4位となった。これに関連して、経営トップおよび主要役員による説明会、GUNDAM FACTORY YOKOHAMA 見学会、メタバース等の取組みに関する説明などを評価する声があった。

以 上

2022年度 ディスクロージャ―評価比較総括表 (広告・メディア・エンタテインメント)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
			評価項目2 (配点 35点)		評価項目2 (配点 20点)		評価項目2 (配点 10点)		評価項目3 (配点 25点)		評価項目1 (配点 10点)		
1	4661 オリエンタルランド	77.8	28.4	2	15.5	4	7.9	2	18.4	5	7.6	1	1
2	6460 セガサミーホールディングス	77.2	28.2	3	16.2	1	7.7	5	19.3	3	5.8	3	2
3	7832 バンダイナムコホールディングス	76.1	27.6	4	15.9	3	7.5	8	19.5	2	5.6	4	3
4	9697 カプコン	75.5	29.3	1	16.2	1	7.4	9	18.1	7	4.5	7	8
5	4324 電通グループ	72.1	26.9	6	14.8	8	7.3	11	19.3	3	3.8	11	7
6	7974 任天堂	70.3	27.4	5	14.9	7	7.8	4	14.6	10	5.6	4	4
7	2433 博報堂DYホールディングス	70.2	26.3	7	15.3	5	7.3	11	18.3	6	3.0	16	6
8	6098 リクルートホールディングス	70.0	22.4	13	14.6	10	6.7	18	19.9	1	6.4	2	9
9	9468 KADOKAWA	67.2	24.3	9	15.1	6	7.7	5	14.7	9	5.4	6	10
10	3635 コーエーテックモホールディングス	64.0	23.1	11	14.7	9	7.4	9	14.3	11	4.5	7	5
11	9401 TBSホールディングス	62.3	22.0	14	12.7	14	7.0	16	16.8	8	3.8	11	15
12	3659 ネクソン	61.9	23.8	10	14.4	12	7.2	13	12.4	16	4.1	10	13
13	9684 スクウェア・エニックス・ホールディングス	59.4	24.7	8	12.2	15	6.9	17	12.9	12	2.7	20	17
14	9766 コナミグループ	58.2	22.9	12	12.1	17	7.1	14	12.9	12	3.2	14	12
15	9603 エイチ・アイ・エス	54.8	20.5	15	14.6	10	7.9	2	9.4	22	2.4	22	11
16	9404 日本テレビホールディングス	53.3	18.8	19	12.2	15	6.7	18	12.5	15	3.1	15	18
17	9413 テレビ東京ホールディングス	53.1	18.0	21	13.4	13	8.4	1	10.0	19	3.3	13	14
18	3765 ガンホー・オンライン・エンターテイメント	51.9	19.4	17	10.8	20	7.6	7	9.6	21	4.5	7	16
19	9409 テレビ朝日ホールディングス	50.4	18.2	20	11.4	18	6.7	18	11.1	17	3.0	16	19
20	3668 コロプラ	50.2	19.2	18	10.0	21	5.6	22	12.6	14	2.8	19	
21	9602 東宝	50.0	19.6	16	10.9	19	7.1	14	9.9	20	2.5	21	20
22	4676 フジ・メディア・ホールディングス	47.4	17.8	22	10.0	21	6.4	21	10.3	18	2.9	18	21
	評価対象企業評価平均点	62.41	23.12		13.54		7.24		14.40		4.11		

2022年度評価項目および配点（広告・メディア・エンタテインメント）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動に注力していますか。例えば、IR対応組織を整備したり、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策を積極的に説明していますか。また、経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	20
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者と有益なディスカッションができていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・説明資料等（決算説明資料を含む）で、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な主要項目（各事業のKPI等）の実績および見通しは、ウェブ等を活用し、十分かつ継続性を持って開示されていますか。また、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な情報（経営環境、事業戦略、資本政策等）が、分かりやすかつ十分に記載されていますか。	10
3. フェア・ディスクロージャー（10点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
(2)タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・アナリスト・投資家にとって重要と判断される事項（例えば、月次売上高および重要指標の月次動向、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、自然災害の影響等）の開示は、迅速かつ十分ですか。	5
4. ESGに関連する情報の開示（25点）	配点
①統合報告書等を通じ、ESGに関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。	11
②価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていますか。	7
③資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていますか。	7
【ESGに関連する情報の開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください（新たな追加項目で企業も関心が高い項目なので、積極的にコメントしてください）】	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	配点
・会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IRデーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか。 【過去1年間を目安に評価】 【充実していたサービスないし施設・設備・事業名をコメント欄に記入して下さい】	10

広告・メディア・エンタテインメント専門部会委員

部 会 長	前田 栄二	SMBC 日興証券
部会長代理	城戸 謙治	アセットマネジメント One
	石原 太郎	大和証券
	大場 剛平	野村アセットマネジメント
	岸本 晃知	みずほ証券
	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	山村 淳子	シティグループ証券

評価実施アナリスト（35名）

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	中川 雅嗣	三菱 UFJ 国際投信
新井 勝己	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	中島 智也	丸三証券
石井 宏	朝日ライフ アセットマネジメント	永田 和子	QUICK
石橋 剛	三井住友 DS アセットマネジメント	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
石原 太郎	大和証券	坂東 俊輔	東京海上アセットマネジメント
板倉 充知	SOMPO アセットマネジメント	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	久田 有貴	三井住友トラスト・アセットマネジメント
大場 剛平	野村アセットマネジメント	宝水 裕圭里	東海東京調査センター
尾坂 拓也	モルガン・スタンレー MUFG 証券	前田 栄二	SMBC 日興証券
岸本 晃知	みずほ証券	道脇 祐介	三菱 UFJ 信託銀行
城戸 謙治	アセットマネジメント One	村上 宏俊	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
栗田 敦史	大和アセットマネジメント	森田 正司	岡三証券
栗原 智也	東海東京調査センター	森本 章	極東証券経済研究所
佐竹 一仁	ニッセイ アセット マネジメント	山科 拓	マッコーリーキャピタル証券会社
佐藤 啓吾	ニッセイ アセット マネジメント	山村 淳子	シティグループ証券
山藤 秀明	QUICK	渡辺 洋之	三井住友 DS アセットマネジメント
鈴木 崇生	大和証券	渡辺 真理子	UBS 証券
寺島 正	大和アセットマネジメント		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

新興市場銘柄

1. 評価対象企業（30 社）

ティーケーピー、GA Technologies（再評価）、PKSHA Technology（注）、GMO フィナンシャルゲート（新規）、Sun Asterisk（新規）、ブレイド（新規）、ヤプリー（新規）、ENECHANGE（新規）、ココナラ（新規）、i-Plug（新規）、ビジョナル（新規）、スマレジ、カオナビ、ミンカブ・ジ・インフォノイド（新規）、Chatwork、HENNGE、BASE、フリー、マクアケ、JTOWER、AI inside（新規）、ビザスク（新規）、そーせいグループ（再評価）、サンバイオ、ヘリオス、弁護士ドットコム、QD レーザ（新規）、Macbee Planet（新規）、ウェルスナビ（新規）、BuySell Technologies（新規）

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）グロース市場からスタンダード市場へ市場変更した（2022 年 9 月）。

2. 対象企業の選定方法および評価方法

（1）対象企業の選定方法

本年度における新興市場銘柄の評価対象企業は、グロース、ネクスト、Q-Board およびアンビシャスの 4 つの市場に上場している企業（注 1）の中で、時価総額が上位（注 2）であって、かつ、その企業を調査対象としているアナリストの数（注 3）が一定数以上の 30 社（昨年度 28 社）とした。なお、30 社のうち、継続評価企業が 13 社、新規評価企業が 15 社、再評価企業（2 年以上前に評価対象としたことがある企業）が 2 社となっている。

（注 1） アナリストへのスコアシート発送時点（本年 5 月下旬）で、上場後 1 年未満の企業および上記 4 市場以外への移行を公表している企業は除外した。

（注 2） 昨年 11 月末時点の時価総額を基準とした。

（注 3） 本年 1 月に当協会が証券会社等に新興市場銘柄をカバーするアナリスト数を照会して得られた数。

（2） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	3	25
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	15
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	5
計		13	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 152 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

（3） 評価実施アナリストは 56 名（所属先 29 社）である。（153 頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は151頁参照）

- ① 本年度は、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目内容・配点を見直した。また、新規評価（15社）および再評価（2社）の企業もある。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 67.7 点（昨年度 67.0 点）、総合評価点の標準偏差は 6.4 点（昨年度 6.7 点）であった。
- ② 総合評価点については、70 点台が 10 社（昨年度同）、60 点台が 16 社（昨年度 14 社）、50 点台が 4 社（昨年度 3 社）となり、80 点台以上（昨年度なし）および 40 点台以下（昨年度 1 社）はなかった。
- ③ 5 つの評価分野の平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 73%（昨年度 71%）、説明会等が 68%（昨年度 65%）、フェア・ディスクロージャーが 72%（昨年度 74%）、ESG 関連が 58%（昨年度 62%）、自主的情報開示が 57%（昨年度 54%）となった。
- ④ 全 13 項目の平均得点率を見ると、最高で 75%（2 項目）、最低で 57%（3 項目）となった。最低となった 3 項目（ESG 関連の 2 項目（a）（b））、自主的情報開示の項目（c）は次のとおりであり、他に 50% 台の項目はなかった。
 - (a) 「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていますか」（平均得点率 57%）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：30% 台 1 社・40% 台 6 社・50% 台 10 社・60% 台 10 社・70% 台 3 社）
 - (b) 「非財務情報の開示に取り組んでいますか」（平均得点率 57%）（得点率：40% 台 4 社・50% 台 15 社・60% 台 9 社・70% 台 2 社）
 - (c) 「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいますか」（平均得点率 57%）（得点率：40% 台 4 社・50% 台 12 社・60% 台 10 社・70% 台 4 社）
- ⑤ ESG 関連の 3 項目の平均得点率を見ると、2 項目（上記④（a）（b））が 50% 台、1 項目（次の項目）が 60% 台と、いずれの項目も低水準となった。
 - ・ 「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明されていますか」（平均得点率 60%）（得点率：40% 台 2 社・50% 台 12 社・60% 台 12 社・70% 台 4 社）

(2) 優良企業（上位 3 企業）の評価概要

第 1 位 BuySell Technologies（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点 79.9 点）

- ① 同社（事業内容：着物・切手・ブランド品等の高価格帯商材を中心とした買取・販売を提供する総合リユースサービス。市場：グロース（2019 年 12 月マザーズ上場）、新規評価企業）は、説明会等（得点率〈以下省略〉85%）、ESG 関連（73%）、自主的情報開示（76%）が第 1 位、経営陣の IR 姿勢等が第 2 位（83%）、フェア・ディスクロージャーが第 9 位（76%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣が、IR 活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していること」が、最も高い評価となった。これに関連して、経営トップが積極的に IR 対応していること、KPI を設定した上で投資家との目線を共有していることを評価する声が寄せられた。また、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」が、同得点第 3 位となり、「フェア・ディスクロージャー・ルール of the 趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が、80% 以上の得点率となった。これらの結果、この分野において第 1 位と僅差の第 2 位となった。
- ③ 説明会等においては、「中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていること」が、最も高い評価となった。「今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていること、また、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われていること」も、同得点第 1 位となり、「収益および財務分

析に必要なデータが十分に記載されていること」(同得点第3位)も、評価された。これらの結果、この分野において第1位となった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「投資家にとって重要と判断される事項(業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等)の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」は、同得点第6位となった。「ウェブサイトを利用して有用な情報提供(決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ)を行っていること。また、英文による情報提供を行っていること」は、平均得点率をやや上回った。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明していること」および「非財務情報の開示に取り組んでいること」が共に、第2位となり、「経営機構(社外取締役の独立性等)、経営資源および内部統制について十分に説明していること」も、同得点第2位となった。これらの結果、この分野において第1位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示(工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など)に取り組んでいること」は、最も高い評価となった。

**第2位 スマレジ(ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点 79.6 点〔昨年度比+8.8 点〕、
昨年度第8位)**

- ① 同社(事業内容:販売データの収集と活用を行う「販売データプラットフォーム運営事業」を展開。市場:グロース(2019年2月マザーズ上場)、継続評価企業)は、**経営陣の IR 姿勢等**(83%)、**フェア・ディスクロージャー**(84%)が第1位、**説明会等**が第2位(81%)、**自主的情報開示**が同得点第2位(72%)、**ESG 関連**が第3位(70%)となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて得点率が改善し、総合評価点は大幅に上昇した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していること」および「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が共に、最も高い評価となった。また、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」が、同得点第1位となった。「経営陣が、IR 活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していること」も平均得点率を上回った。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、毎四半期において経営トップが IR 対応を行っていること、決算説明資料の内容に投資家の要望を反映させていることを評価する声が寄せられた。また、IR 部門は経営陣との距離が近く、経営陣の考えを代弁できているとの声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「収益および財務分析に必要なデータが十分に記載されていること」が、最も高い評価となった。「今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていること、また、四半期の情報開示は経営実態に即して十分に行われていること」も、同得点第1位となった。これらに関連して、実績について図表などを用い、定量・定性両面でわかりやすく説明している、決算説明資料の内容が年々充実しているなどの声が寄せられ、また、月次開示、店舗数などの情報、販管費の内訳などの詳細な開示を評価する声もあった。なお、業績計画における利益増減の記載について一層工夫を求める声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「ウェブサイトを利用して有用な情報提供(決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ)を行っていること。また、英文による情報提供を行っていること」が、最も高い評価となった。これに関連して、説明会の動画配信および質疑応答等の書き起こし掲載を評価する声が寄せられた。また、「投資家にとって重要と判断される事項(業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等)の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」も、同得点第1位となった。これに関連して、メール配信の活用を評価する声があった。これらの結果、この分野において第1位となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明していること」および「非財務情報の開示に取り組んでいること」が共に、第3位となった。「経営機構(社外取締役の独立性等)、経営資源および内部統制について十分に説明していること」も、平均得点率を上回った。これらの結果、この分野において第3位となった。なお、株主還元策の一層の開示や、説明会資料での経営体制の記載の充実を望む声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示(工場・施設見学会の実施、主要事業に

関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」は、同得点第2位となった。これに関連して、統合報告書作成の取組みに期待する声や、マンスリーレポートの配信を評価する声があった。

第3位 i-plug（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点 77.5 点）

- ① 同社（事業内容：新卒向けダイレクトリクルーティングサービスである「OfferBox（オファーボックス）」シリーズを運営。市場：グロース（2021年3月マザーズ上場）、新規評価企業）は、ESG 関連が第2位（72%）、自主的情報開示が同得点第2位（72%）、説明会等が第3位（80%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第4位（77%）、経営陣のIR 姿勢等が第6位（80%）となった。
- ② 経営陣のIR 姿勢等においては、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」が、同得点第3位となった。これに関連して、投資拡大やその後の再成長について十分に説明している点を評価する声があった。また、「経営者のIR 姿勢」、「IR 部門の機能」および「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」は、いずれも80%以上の得点率となった。これらに関連して、CEO、CFOなどが主体的にIR 対応をしていることを評価する声が寄せられた。また、開示資料等を定期的にアップデートしているとの声もあった。なお、IR 部門の機能について一層の充実を期待する声があった。
- ③ 説明会等においては、「今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていること、また、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われていること」が第3位となった。「収益および財務分析に必要なデータが十分に記載されていること」も、同得点第3位となった。また、「中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていること」も、平均得点率を大きく上回った。これらの結果、この分野において第3位となった。これらに関連して、中期経営計画を提示するなど投資家の理解を深めようとしていること、中期経営計画の前提や事業別の損益状況を詳細に開示していることを評価する声があった。なお、投資項目について一層の開示を望む声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等）の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」が第4位となった。一方、「ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていること。また、英文による情報提供を行っていること」は、平均得点率と同程度にとどまった。
- ⑤ ESG 関連においては、「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明していること」が、最も高い評価となり、「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明していること」も、同得点第2位となった。また、「非財務情報の開示に取り組んでいること」が、同得点第4位となり、これらの結果、この分野においてトップと僅差の第2位となった。
- ⑥ 自主的情報開示の「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」は、同得点第2位となった。

上記の **BuySell Technologies**、**スマレジ**、**i-plug** の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、これら3社を本年度の新興市場銘柄における優良企業として選定した。

以 上

2022年度 ディスクロージャ―評価比較総括表（新興市場銘柄）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャ―	4. ESGに関連する 情報の開示	5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示	前回 順位
			評価項目4 (配点 35点)	評価項目3 (配点 25点)	評価項目2 (配点 15点)	評価項目3 (配点 20点)	評価項目1 (配点 5点)	
			評価点	評価点	評価点	評価点	評価点	
1	7685 BuySell Technologies	79.9	29.0	21.2	1	11.4	14.5	1
2	4431 スマレジ	79.6	29.2	20.3	2	12.6	13.9	3
3	4177 i-plug	77.5	28.0	19.9	3	11.6	14.4	2
4	3479 ティーケーピー	74.7	28.5	19.0	5	11.5	12.7	7
5	4169 ENECHANGE	74.1	27.4	18.2	9	11.5	13.6	4
6	4051 GMOフィナンシャルゲート	73.2	27.7	19.6	4	11.5	11.5	16
7	4436 ミンカブ・ジ・インフオノイド	72.1	26.2	18.0	10	11.7	13.0	6
8	7095 Macbee Planet	71.5	26.7	18.6	8	10.3	12.6	8
9	4435 カオナビ	70.9	25.7	18.9	6	11.2	12.5	9
10	4168 ヤプリー	70.1	28.5	18.0	10	9.8	10.8	23
11	4053 Sun Asterisk	69.5	26.6	16.6	20	10.0	13.3	5
12	6027 弁護士ドットコム	69.3	26.9	16.9	18	11.1	11.8	13
13	4485 JTOWER	69.2	25.2	18.8	7	10.5	11.5	16
13	4565 そーせいバグループ	69.2	28.7	14.9	24	11.7	11.0	19
15	4194 ビジョナル	67.6	25.2	17.3	14	10.6	12.0	12
15	4490 ビザスク	67.6	25.5	17.0	17	10.5	12.4	10
17	4478 フリー	67.3	25.2	17.5	13	11.2	10.9	22
18	4477 BASE	66.8	24.6	16.8	19	11.1	11.6	15
18	7342 ウェルスナビ	66.8	25.5	17.1	15	10.4	11.2	18
20	4488 AI inside	66.2	25.0	16.2	21	11.2	10.2	24
21	4475 HENNGE	65.8	24.0	17.1	15	11.0	11.0	19
22	4176 ココナラ	65.7	24.1	17.6	12	11.0	11.0	19
23	3491 GA technologies	65.3	23.9	15.7	22	10.5	12.1	11
24	4165 プレイド	62.9	24.4	14.7	25	11.6	10.0	25
25	6613 QDレーザ	61.3	24.3	15.4	23	9.0	10.0	25
26	4479 マクアケ	61.1	23.0	14.3	26	10.7	10.0	25
27	4448 Chatwork	59.2	22.2	14.0	27	8.6	11.8	13
28	4593 ヘリオス	58.4	23.7	12.9	29	9.5	9.2	28
29	3993 PKSHA Technology	56.1	21.5	13.8	28	9.8	9.0	30
30	4592 サンバイオ	53.2	19.7	12.5	30	9.3	9.2	28
	評価対象企業評価平均点	67.73	25.54	16.96		10.74	11.62	2.87

2022年度評価項目および配点（新興市場銘柄）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していますか。 [1点～15点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
(2)IR部門の機能	
・IR部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していますか。 [1点～10点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(3)IRの基本スタンス	
①フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか。 [1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
②会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていますか。 [1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（25点）	配点
(1)決算説明会、インタビューにおける開示	
①今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていますか。また、四半期の情報開示は経営実態に即して十分に行われていますか。 [1点～10点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
②中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていますか。 [1点～10点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・収益および財務分析に必要なデータは十分に記載されていますか。 [1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
3. フェア・ディスクロージャー（15点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等）の開示は迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。[1点～10点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
・ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていますか。また、英文による情報提供を行っていますか。[1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
4. ESGに関連する情報の開示（20点）	配点
(1)資本政策、株主還元策等の開示	
・資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていますか。 [1点～8点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
(2)経営機構、経営資源および内部統制について	
・経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明されていますか。 [1点～7点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	7
(3)ESGに関する情報の開示	
・非財務情報の開示に取り組んでいますか。 [1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（5点）	配点
・ウェブサイトでの開示や決算説明会以外での開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいますか。（前年7月から本年6月までの間） [1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5

新興市場銘柄専門部会委員

部 会 長	古 島 次郎	大和証券
部会長代理	渡 辺 真理子	UBS 証券
	新 谷 嘉史	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	岩 本 誠一郎	アセットマネジメント One
	大 寺 貴仁	野村証券
	高 祥太郎	日興アセットマネジメント
	中 川 雅嗣	三菱 UFJ 国際投信
	納 博司	いちよし経済研究所
	東 田 暁	野村アセットマネジメント

評価実施アナリスト（56名）

饗 場 大介	岩井コスモ証券	清 水 康之	QUICK
新 谷 嘉史	三井住友トラスト・アセットマネジメント	関 根 哲	大和証券
姉 川 俊幸	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	高 祥太郎	日興アセットマネジメント
新 井 勝己	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	宝 田 晋介	ニッセイ アセット マネジメント
荒 木 正人	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	田 村 真一	極東証券経済研究所
飯 塚 恭平	第一生命保険	千 葉 馨	JP モルガン証券
石 井 孝一郎	三菱 UFJ 信託銀行	都 築 伸弥	みずほ証券
石 原 太郎	大和証券	寺 島 正	大和アセットマネジメント
伊 藤 彰洋	三井住友 DS アセットマネジメント	得 永 一樹	大和証券
入 沢 健	立花証券	富 田 展昭	極東証券経済研究所
岩 崎 利昭	水戸証券	中 川 雅嗣	三菱 UFJ 国際投信
岩 本 誠一郎	アセットマネジメント One	中 島 智也	丸三証券
上 野 有輝	第一生命保険	納 博司	いちよし経済研究所
大 浦 裕太	第一生命保険	畑 田 真	SBI 証券
大 野 剛	丸三証券	原 田 大輔	QUICK
大 場 剛平	野村アセットマネジメント	久 田 有貴	三井住友トラスト・アセットマネジメント
大 牧 実慶	立花証券	東 田 暁	野村アセットマネジメント
小 澤 公樹	SBI 証券	福 田 真望	丸三証券
鎌 田 聡	大和アセットマネジメント	藤 根 靖晃	ティール・アイ・データ・リユ
城 戸 謙治	アセットマネジメント One	宝 水 裕圭里	東海東京調査センター
古 島 次郎	大和証券	松 浦 勇佑	丸三証券
古 西 正幸	第一生命保険	松 原 弘幸	野村証券
小 林 亮	みずほ証券	三 浦 勇介	大和証券
桜 井 雄太	野村アセットマネジメント	村 岡 真一郎	モルガン・スタンレー MUFG 証券
佐 藤 啓吾	ニッセイ アセット マネジメント	山 口 秀丸	シティグループ 証券
佐 野 滉介	第一生命保険	山 科 拓	マコーリーキャピタル証券会社
佐 原 孝輔	丸三証券	山 本 真以人	ニッセイ アセット マネジメント
鮫 島 豊喜	SBI 証券	渡 辺 真理子	UBS 証券

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

個人投資家向け情報提供

1. 評価対象企業（30 社）

大和ハウス工業、麒麟ホールディングス、味の素、J．フロント リテイリング、セブン&アイ・ホールディングス、T I S、インターネットイニシアティブ、住友化学、日産化学、i-plug、野村総合研究所、塩野義製薬、第一三共、出光興産、日本製鉄、JFE ホールディングス、小松製作所、荏原製作所、セガサミーホールディングス、ソニーグループ、デンソー、豊田合成、BuySell Technologies、三井物産、三菱UFJフィナンシャル・グループ、三井住友フィナンシャルグループ、東京海上ホールディングス、九州旅客鉄道、日本航空、日本電信電話

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

（1） 評価対象企業の選定

優良企業選定の評価対象企業は、本年度のディスクロージャー優良企業選定対象である各業種（18 業種）および新興市場銘柄についての選定結果において、各業種等の上位 1 割（評価対象企業の数 を 10 で割った数（小数点第 1 位を切上げ））のうち、2021 年 7 月から 2022 年 6 月までの間において、「個人投資家向け会社説明会」を開催した 30 社とした。

（2） 評価分野の構成

評価分野	本文中の略称	評価 項目(注 1)数	配点
①個人投資家向け会社説明会の開催等	個人投資家向け会社説明会	4	19
②ウェブサイトにおける開示等	ウェブサイト	9	60
③事業報告書等（注 2）の内容	事業報告書等	3	21
		16	100

（注 1） 具体的な評価項目の内容および配点は 160 頁参照。

（注 2） 直近事業年度の事業・業績の概況について、個人投資家が容易に取得でき、わかりやすい解説を行っている IR 関連資料（事業報告書、株主通信、アニュアルレポート、統合報告書等）の中から、会社側が提示したいいずれか 1 種類。

（3） 評価方法

評価項目（全 16 項目）のうち、個人投資家向け会社説明会の開催の有無等 5 項目についての評価は、各評価対象企業にアンケート調査を実施し、その回答結果を基に評点を付した。残りの 11 項目の評価は、個人投資家向け情報提供専門部会の委員（14 名。161 頁参照）が行い、最終評価は両者の評点を合算して行った。

3. 評価結果

（1） 総括（「個人投資家向け情報提供における評価比較総括表」は 159 頁参照）

本年度の評価対象企業は、上記 2.（1）のとおりを選定しており、昨年度からは相当数が入れ替わっている。また、本年度において、項目内容・配点を見直している。このため、昨年度（評価対象企業 22 社）と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 79.2 点（昨年度 77.0 点）となった。その内訳は、評価点 80 点台が 16 社（昨年度 10 社）、70 点台が 12 社（昨年度 9 社）、70 点未満 2 社（昨年度 3 社）となった。

3つの評価分野の平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**個人投資家向け会社説明会**が79%（昨年度81%）、**ウェブサイト**が79%（昨年度76%）、**事業報告書等**が80%（昨年度77%）となり、**ウェブサイトおよび事業報告書等**が、昨年度を上回った。

(2) **評価対象企業に対するアンケート結果を基にした評価**

- ① 評価対象企業へのアンケート結果を基に評価した5項目について見ると、**個人投資家向け会社説明会**に関しては、昨年7月から本年6月までの1年間の平均開催回数は、2.4回（昨年度2.5回）であり、経営トップが説明を行っている企業は、評価対象企業30社中14社（47%）で、その割合は、昨年度（45%）をやや上回った。
- ② 個人投資家向け会社説明会の内容をウェブサイトに掲載している企業は29社（97%）で、その割合は、昨年度（95%）をやや上回った。当該29社のうち、配布資料に加え、動画または音声配信により視聴できる企業は28社（97%）で、その割合は、昨年度（90%）を上回った。
- ③ ウェブサイトに関しては、独立した個人投資家向けサイトを設けている企業は29社（97%）で、その割合は昨年度（82%）に比べ、大幅に上昇した。
- ④ 「各種説明会（個人投資家向け説明会を除く）の内容は、ウェブサイトに掲載されて誰でも動画で視聴できること」については、視聴できる企業が29社（97%）で、その割合は昨年度（95%）をやや上回った。

(3) **専門部会委員による評価**

専門部会委員は、ウェブサイト等における開示内容が一般投資家に理解できるように具体的にわかりやすく説明・記載されているか、また、利用しやすいように工夫がされているかといった観点から、11項目（下記(a)～(i)）について評価を実施した。その結果は次のとおりであり、(b)の平均得点率が昨年度を下回ったが、その他の項目は、昨年度と同率または上回った。なお、(e)Cは今年度の新設項目である。

【個人投資家向け会社説明会】

- (a) 「ウェブサイトに掲載されている個人投資家向け会社説明会の内容は、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）、かつ充実していますか」（平均得点率76%〔昨年度75%〕）

（参考：個人投資家向け会社説明会の内容がウェブサイトに掲載されている企業（29社）のみの平均得点率78%〔昨年度77%〕）

【ウェブサイト】

- (b) 「IRに関するウェブサイトは、探しやすい・画面構成等にも配慮して利用しやすく、かつわかりやすく工夫されていますか」（平均得点率81%〔昨年度83%〕）

- (c) 「個人投資家向けサイトは、探しやすい・画面構成等にも配慮して、充実した内容であり、かつ、わかりやすく工夫されていますか。また、IR情報のメール配信サービスなどの付加サービス機能を提供していますか」（平均得点率75%〔昨年度72%〕）

（参考：上記(2)③の独立した個人投資家向けサイトを設けている企業（29社）のみの平均得点率77%〔昨年度78%〕）

- (d) 「事業内容（主力商品、主力サービス等）が具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか」（平均得点率83%〔昨年度78%〕）

- (e) 「ウェブサイトに掲載されている各種説明会資料（個人投資家向け会社説明会資料およびその他掲載資料を含む）について」

A 「業績の動きが、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか」（平均得点率79%〔昨年度76%〕）

B 「経営目標・経営戦略が、会社の強み（業界シェアや他社との差別化等を含む）や課題等を踏まえて、具体的にかつ、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか」（平均得点率

81% [昨年度 77%])

C 「ESG について、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか」（平均得点率 77%）

(f) 「ウェブサイトに掲載のよくある質問と回答（FAQ）は、会社の事業内容や業績を理解するうえで、有益な質問項目が設定されている等、全体的に充実し、わかりやすいですか」（平均得点率 67% [昨年度同率]）

【事業報告書等】

(g) 「全体として、図表等を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が見やすく、かつ、理解しやすいように十分な工夫がなされて作成されていますか」（平均得点率 84% [昨年度 79%]）

(h) 「経営方針、中・長期経営ビジョンがわかりやすく、かつ、簡潔に説明されていますか」（平均得点率 80% [昨年度 76%]）

(i) 「業績の動きがわかりやすく（読み手が理解しやすいように）説明されていますか」（平均得点率 79% [昨年度 77%]）

(4) 上位3企業の評価概要

第1位 日本製鉄（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点 87.5 点 [昨年度比+8.7 点]）

- ① 同社は、**個人投資家向け会社説明会**が第2位（得点率（以下省略）93%）、**事業報告書等**（「当社経営の概況」）が同得点第2位（88%）、**ウェブサイト**が同得点第4位（86%）となった。
- ② **個人投資家向け会社説明会**においては、アンケート項目（全3項目）が、全て満点評価となったことに加え、「ウェブサイトに掲載されている個人投資家向け会社説明会の内容は、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）、かつ充実していること」も、高い評価となり、この分野において第2位となった。これらに関連して、市場環境や目標指標などが細かく丁寧に説明されているとの声や、資料に掲載されている鉄鋼製造プロセス、製品構成、および需要分野別出荷構成は同社のビジネスを理解する上で有用と感じたとの声が寄せられた。また、経営概況説明会資料は必要な項目が網羅されており、動画は各項目別に分割されていて利用しやすいとの声もあった。
- ③ **ウェブサイト**においては、掲載されている各種説明会資料について「経営目標・経営戦略が、会社の強み（業界シェアや他社との差別化等を含む）や課題等を踏まえて、具体的にかつ、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていること」および「ESG について、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていること」が共に、最も高い評価となった。また、「業績の動きが、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていること」も、高く評価された。これらに関連して、厳しい事業環境をイラストや図表等を用いて分かりやすく説明した上で、選択と集中など事業基盤強化に向けた成長戦略を説明していると評価する声のほか、カーボンニュートラルに向けた取組みが、工夫の凝らされたイラストや具体的な数値を示すことによって簡潔に説明されているとの声も寄せられた。一方で、「ウェブサイトに掲載のよくある質問と回答（FAQ）は、会社の事業内容や業績を理解するうえで、有益な質問項目が設定されている等、全体的に充実し、わかりやすいこと」は、平均得点率と同程度であった。これに関連して、「よくあるご質問」で3つの項目ごとにわかりやすく掲載され、使い勝手がよいとの声がある一方で、業績などについてはより詳細なものを求める声や、ウェブサイトに辿り着くまでのリンクが多く、やや使いにくいとの声もあった。
- ④ **事業報告書等**においては、「業績の動きがわかりやすく（読み手が理解しやすいように）説明していること」が、同得点第2位となった。また、「経営方針、中・長期経営ビジョンがわかりやすく、かつ簡潔に説明されていること」が、同得点第3位となった。これらに関連して、統合報告書 2021 において、各セグメントの動向に加え、財務情報で時系列の業績の動きがビジュアルにまとまっているとの声や、経営ビジョンの方向性がしっかり示されていると評価する声が寄せられた。また、説明会動画やスクリプトがあり、分かりやすいとの声もあった。なお、長期の数値がやや不足しているとの声もあった。

第2位 野村総合研究所（ディスクロージャー優良企業〔3回連続3回目〕、総合評価点 86.9 点〔昨年度比 +1.9 点〕）

- ① 同社は、個人投資家向け会社説明会が第1位（96%）、ウェブサイトが第2位（86%）、事業報告書等（「NRI 統合レポート 2022」）が第18位（80%）となった。
- ② 個人投資家向け会社説明会においては、アンケート項目（全3項目）が、全て満点評価となったことに加え、「ウェブサイトに掲載されている個人投資家向け会社説明会の内容は、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）、かつ充実していること」も、最も高い評価となり、この分野において第1位となった。これらに関連して、創業の経緯など、ストーリー仕立てで分かりやすく説明されているとの声や、B2B で一般消費者の目に留まりにくい分、取引先や競合会社の具体例を挙げており、理解が進みやすいとの声が寄せられた。また、写真や図表を多く用いて、説明が難しい SI（システムインテグレーション）事業をわかりやすく解説していることを評価する声もあった。
- ③ ウェブサイトにおいては、「個人投資家向けサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して、充実した内容であり、かつ、わかりやすく工夫されていること。また、IR 情報のメール配信サービスなどの付加サービス機能を提供していること」が、高い評価となった。これに関連して、説明会の動画などのページが見つけやすいとの声や、自社の強みから始まり、具体例や業績などの説明へと流れの良さを感じるとの声も寄せられた。「ウェブサイトに掲載のよくある質問と回答（FAQ）は、会社の事業内容や業績を理解するうえで、有益な質問項目が設定されている等、全体的に充実し、わかりやすいこと」も、評価された。これに関連して、必要な情報がどこにあるかこのページで理解できるとの声や、質問に過不足がなく、うまく出来ているとの声があった。また、「経営目標・経営戦略が、会社の強み（業界シェアや他社との差別化等を含む）や課題等を踏まえて、具体的にかつ、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていること」も、評価された。これに関連して、会社の強みを軸に、経営目標、経営戦略が説明できていると評価する声のほか、他社との比較が1枚の図表で明快に示されていると評価する声も寄せられた。一方、「ESG について、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていること」は、同得点第14位であった。
- ④ 事業報告書等においては、「全体として、図表等を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が見やすく、かつ、理解しやすいように十分な工夫がなされて作成されていること」が第10位であった。これに関連して、写真や図表を多用し、文字も適量との声や、数字が適宜強調されていて見やすいとの声が寄せられた。一方で、「経営方針、中・長期経営ビジョンがわかりやすく、かつ、簡潔に説明されていること」および「業績の動きがわかりやすく（読み手が理解しやすいように）説明していること」は共に、平均得点率と同程度であった。これらに関連して、重要指標については、もう少しグラフ化した方がわかりやすいとの声もあった。

第3位 味の素（ディスクロージャー優良企業〔2回連続2回目〕、総合評価点 86.3 点〔昨年度比 +1.7 点〕）

- ① 同社は、事業報告書等（「味の素グループ統合報告書 2021」）が同得点第2位（88%）、ウェブサイトが第3位（86%）、個人投資家向け会社説明会が同得点第11位（85%）となった。
- ② 個人投資家向け会社説明会においては、「ウェブサイトに掲載されている個人投資家向け会社説明会の内容は、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）、かつ充実していること」が、同得点第8位となった。これに関連して、プレゼン動画も資料も充実しており、特設ページにはプレゼンのポイントまでよくまとまっておろわかりやすいとの声や、自社の原点である味の素の開発エピソードから始まり、近年注目が高まっている半導体向けの電子材料の話題も盛り込むなど、説明会は簡潔だが興味を持たせる内容であったとの声が寄せられた。また、説明会で、社長自らがプレゼンから質疑応答まで対応していることを評価する声もあった。なお、46 ページのボリュームはやや多いとの声や、業績に関してさらなる記載を望む声もあった。
- ③ ウェブサイトにおいては、掲載されている各種説明会資料について「事業内容（主力商品、主力サービス等）が具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていること」が、最も高い評価となった。これに関連して、事業ごとに参入した経緯を記述している点がユニークであるとの声があったほか、具体的な商品を交えて事業展開を説明していることや、近年の市場動向も簡潔で分かりやすい内容にまとまっていることを評価する声が寄せられた。「ウェブサイトに掲載のよくある質問と回答（FAQ）は、会社の事業内容や業績を理解するうえで、有益な質問項目が設定されている等全体的に充実し、わかりやすいこと」も、最も高い評価となった。これに関連して、「よくあるご質問」は4項目に分類され、使いやすさを意識した作りになっている

ると評価する声があった。また、「IR に関するウェブサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して利用しやすく、かつわかりやすく工夫されていること」は、同得点第 1 位であった。これに関連して、必要な情報が探しやすいとの声や、サイトがコーポレートカラーの赤を基調に、食品会社らしく清潔、整頓された作りになっていると評価する声が寄せられた。

- ④ **事業報告書等**においては、「全体として、図表等を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が見やすく、かつ、理解しやすいように十分な工夫がなされて作成されていること」が、最も高い評価となった。これに関連して、統合報告書 2021 は、経営の基本方針＝ASV（Ajinomoto Group Shared Value）経営を巻頭に据え、数値、写真および図表も交えてわかりやすく説明されていると評価する声のほか、文字の大きさも読みやすく配慮されているとの声も寄せられた。

上記の**日本製鉄、野村総合研究所、味の素**の 3 社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、これら 3 社を本年度の個人投資家向け情報提供における優良企業として選定した。

以 上

2022年度 個人投資家向け情報提供における評価比較総括表

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 個人投資家向け会社説明会 の開催等		2. ウェブサイトにおける 開示等		3. 事業報告書等の内容	
			(配点 19点)		(配点 60点)		(配点 21点)	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位
1	5401 日本製鉄	87.5	17.7	2	51.4	4	18.4	2
2	4307 野村総合研究所	86.9	18.2	1	51.8	2	16.9	18
3	2802 味の素	86.3	16.2	11	51.7	3	18.4	2
	評価対象企業(30社) 評価平均点	79.24	15.08		47.33		16.83	

経営方針、中・長期経営ビジョン
や業績動向の説明の分かりやす
さ等3項目

個人投資家向けサイトの有無
や、事業内容、各種説明会資
料の分かりやすさ等9項目

開催回数、社長等代表役員
の説明の有無等4項目

2022年度評価項目および配点（個人投資家向け情報提供）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 個人投資家向け会社説明会の開催等（19点）	配点
(1)過去1年間（前年7月から本年6月までの間）に個人投資家向け会社説明会を何回開催していますか。 [A.2回以上：2点、B.1回:1点]	2
(2)個人投資家向け会社説明会は、経営トップが説明を行いましたか。 [A.経営トップが行った：3点、B.経営トップ以外が行った：1点]	3
(3)個人投資家向け会社説明会の内容は、ウェブサイトに掲載されて閲覧できますか。 [A.配布資料に加え動画または音声で視聴できる：4点、B.配布資料の掲載のみ：2点、C.掲載なし：0点]	4
(4)ウェブサイトに掲載されている個人投資家向け会社説明会の内容は、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）、かつ充実していますか。 【個人投資家向け会社説明会に限定して評価】 [1点～10点の整数で評価。掲載なし：0点]	10
2. ウェブサイトにおける開示等（60点）	配点
(1)IRに関するウェブサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して利用しやすく、かつ、わかりやすく工夫されていますか。 [1点～4点の整数で評価]	4
(2)個人投資家向けサイト（個人投資家の皆様へ等の独立したサイト）が設けられていますか。 [A.あり：1点、B.なし：0点]	1
(3)個人投資家向けサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して、充実した内容であり、かつ、わかりやすく工夫されていますか。また、IR情報のメール配信サービスなどの付加サービス機能を提供していますか。 [1点～8点の整数で評価。個人投資家向けサイトがない場合：0点]	8
(4)事業内容（主力商品、主力サービス等）が具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
(5)ウェブサイトに掲載されている各種説明会資料（個人投資家向け会社説明会資料およびその他掲載資料を含む）について	
A 業績の動きが、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
B 経営目標・経営戦略が、会社の強み（業界シェアや他社との差別化等を含む）や課題等を踏まえて、具体的に、かつ、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
C ESGについて、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
(6)各種説明会（個人投資家向け会社説明会を除く）の内容はウェブサイトに掲載されて誰でも動画で視聴できますか。 [A.できる：2点、B.できない：0点]	2
(7)ウェブサイトに掲載のよくある質問と回答（FAQ）は、会社の事業内容や業績を理解するうえで、有益な質問項目が設定されている等全体的に充実し、わかりやすいですか。 [1点～5点の整数で評価。FAQの掲載がない場合：0点]	5
3. 事業報告書等の内容（注）（21点）	配点
(1)全体として、図表等を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が見やすく、かつ理解しやすいように十分な工夫がなされて作成されていますか。 [1点～5点の整数で評価]	5
(2)経営方針、中・長期経営ビジョンがわかりやすく、かつ簡潔に説明されていますか。 [1点～8点の整数で評価]	8
(3)業績の動きがわかりやすく（読み手が理解しやすいように）説明されていますか。 [1点～8点の整数で評価]	8

（注）直近事業年度について、個人投資家が容易に取得可能な、事業・業績の概況について、わかりやすい解説を行っているIR関連資料（事業報告書、株主通信、アニュアルレポート、統合報告書等）の中で、会社側から提供のあったいずれか一種類を評価対象とする。

個人投資家向け情報提供専門部会委員

部 会 長	東 英憲	野村證券
部会長代理	堀内 敏一	岩井コスモ証券
	池田 恵太	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	岩崎 利昭	水戸証券
	宇田川 克己	いちよし証券
	大坂 隼矢	野村證券
	金森 睦美	大和証券
	小松崎 直樹	丸三証券
	澤田 遼太郎	東海東京調査センター
	柴田 光浩	大和証券
	鈴木 英之	SBI 証券
	高山 裕介	SMBC 日興証券
	二宮 雅之	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	山本 信一	岡三証券

本著作物の著作権は、公益社団法人 日本証券アナリスト協会®に属します。本著作物の全部または一部を、許可なく印刷、複写、転載、磁気もしくは光記録媒体への入力等、その方法の如何を問わず、これを複製することを禁じます。

**証券アナリストによる
ディスクロージャー優良企業選定
(2022 年度)**

2022 年 10 月発行

編集兼発行所 公益社団法人 日本証券アナリスト協会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 2-1
東京証券取引所ビル 5 階
<http://www.saa.or.jp>
